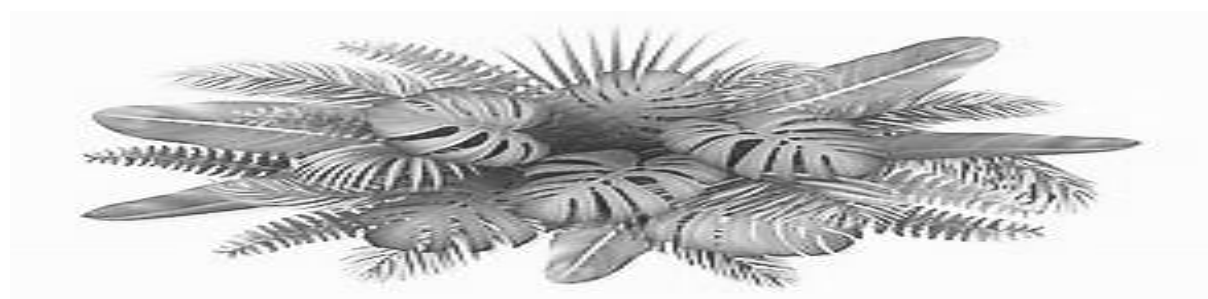




し だ 羊 歯

第 35 号

支部創立 65 周年記念号



2021 年(令和 3 年) 12 月発行
新ハイキングクラブ 横浜支部

誌名『羊齒』の由来

新ハイキングクラブ横浜支部の文集『羊齒』は、支部が発足（昭和 32 年 2 月）してまだ毎月の例会もない頃から年に数回発行され、いわば会報（支部ニュース）の代わりのような役割を果たしていたようです。

会報が初めて発行されたのは昭和 34 年 11 月で、その後『羊齒』は年に数回発行されてきましたが、最近では 5 年毎の記念誌として発刊されています。

『羊齒』の誌名は、横浜支部創立者の一人 浜野条治氏 によって命名されました。それはシダの研究家である 行方沼東氏^{なめかたしょうとう} を友人に持つ浜野氏が、ご自身も山旅の毎にシダを収集していたことから、これにあやかって『羊齒』と命名されたものです。



し だ
『羊歯』 第 35 号 目次

《巻頭挨拶》

横浜支部『羊歯』65周年記念号 発行 誠におめでとうございます。

新ハイキングクラブ 会長 数 見 直 1 頁

支部創立 65 周年を祝して

横浜支部 支部長 小澤 勝太郎 2 頁

《グラビア》

水彩画「ナミュールの裏街」……………川野 奈津子 3 頁

山行での思い出の景色と出会った花など……………竹尾 亮三 4 頁

《紀行》

横浜大岡川の桜……………祖父川 精治 7 頁

三浦南下浦逍遙……………芹沢 隆久 9 頁

南アルプス 光岳から寸又川林道を歩いた思い出……………齋藤 郁夫 16 頁

ペルー 青春の一人旅……………小澤 勝太郎 22 頁

私と尾瀬の出会い……………和智 邦久 25 頁

山小屋の思い出……………佐藤 哲夫 27 頁

世界一高い所にあるホテルと世界一低い所にあるホテル……………水鳥 妙子 32 頁

2021・はる……………鈴木 国之 33 頁

楽しんでアルプスの絶景を散歩する……………西川 重昭 36 頁

花の追っかけ……………棟方 千恵子 38 頁

《随想》

「靴を磨く」趣味から道楽へ 雑感……………井上 忠秋 39 頁

正月の風物詩「おんべ焼」……………足立 忠彦 41 頁

老い耄れ山屋の戯言……………青柳 征勝 42 頁

二本杖について考えてみました……………渡部 道明 43 頁

旅のはなし……………池田 邦雄 47 頁

Dさんと鍋割山……………古屋 喜代子 50 頁

「舞岡公園」の季節を感じながら……………溝尾 文子 53 頁

航空会社の上級会員資格を得て、世界の美術館と名山をトレッキング……………高橋 昇 54 頁

自然の中に身を置きたい……………有本 ひろみ 57 頁

《私と山》

初めての山……………湯浅 克枝 58 頁

私と山と仲間たち 私の百名山……………板垣 恵美子 59 頁

私のハイキング事始め……………小嶋 幹雄 60 頁

忘れられない山行……………小泉 葉子 63 頁

私の山の歴史(その2)……………桜井 素子 65 頁

山歩きを振り返って……………若生 典男 67 頁

私の山旅体験、夢（インタビュー編集）	劉 ユ 玉 オク	70 頁
よも山話	高 橋 健 二	73 頁
コロナによって気付いたこと	高 橋 有 紀 子	75 頁
ハイキング	工 藤 圭	77 頁
初心者ハイカーの想い	菅 野 紀 子	78 頁
山の始まり	高 木 千 代 美	79 頁
山	城 戸 靖 子	80 頁
《私と新ハイ》		
山で華やぐ	服 部 八 重 子	81 頁
支部創立 60 周年記念 大野山植樹報告	小 澤 勝 太 郎	82 頁
私の山行・その 3 …この 5 年間を振り返る…	竹 尾 亮 三	85 頁
70 代になった山女	谷 眞 理 子	90 頁
（続）山梨百名山	久 保 正 文	91 頁
新ハイキングとの出会い	小 黒 陽 子	93 頁
楽しくなってきた私のハイキング	梶 本 弘 子	94 頁
※以上のテーマ毎の文書配列は会員入会順としました。		
《活動記録》		
直近 5 年間の横浜支部山行実績を見る	小 嶋 幹 雄	96 頁
（付属資料）2016 年度～2021 年度 支部山行実績一覧	々	100 頁
資料編 No.1 SHC 横浜支部 65 年の歩み（小史）	編 集 委 員 会	104 頁
資料編 No.2 直近 5 年間の年度別入会者・退会者の状況	々	106 頁
資料編 No.3 会員の男女別年齢構成と平均年齢	々	106 頁
資料編 No.4 横浜支部会員名簿（入会順）	々	107 頁
資料編 No.5 直近 5 年間の年度別支部委員名簿	々	108 頁
支部創立 65 周年記念行事に関して	小 澤 勝 太 郎	109 頁
《編集後記》		110 頁



〔 第 2583 回 2019 年度忘年山行 寄バス停前広場にて 〕

横浜支部『羊歯』65周年記念号 発行 誠におめでとうございます。

新ハイキングクラブ 会長 数見 直

65周年おめでとうございます。

人生100年時代です。20歳で自立するとして、大人の時間は80年間。65歳は折り返し地点を過ぎ、まさに人生のど真ん中です。横浜支部はまさにそこにいます。

登山、ハイキングに対する知恵、ノウハウを継承し、育てて来られたメンバーの方々に敬意を表します。

「人生の楽しみは、喜怒哀楽の総量である」と言った方がいますが、私は好きなこと、楽しいことをする時間の長い人ほど幸せだと思います。ゆっくりした歩きも良いですし、少し厳しいくらいの山行もやりがいがあります。それも「仲間」あってのことでしょう。気のおけない仲間作りは支部活動が最適ですね。

新ハイキングクラブの役割として、会員の健康寿命を延ばすことが挙げられます。健康を保ち、医者通いや次世代への介護負担を減らし、遅らせることが必要です。それにはハイキングが最適だと信じています。

趣味として同じハイキングを選び、いろいろな団体がある中で、新ハイキングクラブを選んだ方々に並々ならぬご縁を感じています。新しい仲間作りも重要です。本部と支部は「ワンチーム」です。一緒に考えましょう。

「安全で楽しくバラエティーに富んだ山行」をこれからも一緒に行って、仲間への満足度を高めていきましょう。

横浜支部の今後のご発展、皆様の一層のご活躍、ご健康を願ってやみません。



安全で楽しい、バラエティーに富んだ山行。初心者から上級者まで、安全で魅力的なハイキングが楽しめます。新ハイキングクラブは昭和21年に発会以来、歩くことと自然を愛するメンバーにより活動を続けてきたクラブです。会員は各地の支部(13支部)に加入して、ベテランのリーダー(係)のもと、各種イベントや山行に参加することができます。

支部創立 65 周年を祝して

横浜支部 支部長 小澤 勝太郎

横浜支部が創立 65 周年を今年迎えることができたことを全員で喜びあいたいと思います。私たちの会が 65 年という長期に亘って活動を継続できたのは、会員の皆が自然に触れる歓びと、歩く楽しさを味わいたいという強い気持ちを持っていたからであろうと思います。更には活動の 3 本柱である山行、会報、例会がその時々先輩諸兄の情熱と努力で継続されてきたお陰であり、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

支部創立は昭和 32 年（1957 年）2 月で、支部のホームページに掲載された支部ニュース第 1 号（昭和 34 年 11 月）には『月 1 回の支部山行予告と会費年額 240 円を 4 期に分けて分納し、2 期以上の未納者は会員外扱いとして、一切の連絡事務は行わない。また委員が山行を受け持ってきたが、負担がかかるので新たに山行係若干名を選ぶ。会員の中でも係を受け持ってくれる人があれば大歓迎です』と記されています。

これを読むと、昔も今も会の運営は同じ問題を抱えていたことが伺われます。会費 4 分割でも未納入者の存在は、例会でのコミュニケーションにあると思われ、現在の例会出席率年間平均 36% も気になります。また山行計画回数は現在、直近 5 年間で年間平均 72 件、月 6 件、昔の月 1 件と比較して雲泥の差であり、嬉しい限りです。会報は今年度 12 月末で 748 号となり、1959 年の 1 号から 62 年間ほぼ毎月発行されてきた脅威的な活動であります。問題は昔も今も例会出席率や山行計画担当係を増やすことであり、会の永遠の変わらない課題であると感じます。

先の創立 60 周年以降現在まで、私たちにとって大きな出来事は、何と言っても 2020 年 2 月頃から発生した新型コロナウイルスです。世界的大流行のパンデミックとなり、人類を脅かして現在に至っています。これによって世紀の祭典であるはずのオリパラも 1 年延期となり、延期後でも無観客開催を基本とする等、混乱をきたしています。支部山行も緊急事態宣言下では中止して、例会中止も今年 7 月までに 9 回に及びました。ワクチンの接種効果によって、山行が早く大手を振って実施できることを期待するばかりです。

また 2 つ目は、2018 年 1 月から新ハイ本部発行の「新ハイキング」誌が廃刊となり会報に変更されて、会員が正会員と賛助会員に分かれたことです。しかし今後とも本部、支部共にそれぞれの良さを生かして協力しあい、参加して楽しい充実した活動を実施していきたいと思います。

現在、横浜支部の会員平均年齢は 73 歳と高齢化しています。その会員が支部山行の登山、ハイキングまた仲間との交流を通じて、30 年～40 年の永きに亘って「在籍していて良かった」と思えるような活動を、これからも皆で考え作り出して行こうではありませんか。そして 70 周年、80 周年を喜んで迎えられよう、新ハイ活動を頑張っていきましょう。

水彩画「ナミュールの裏街」

川野 奈津子



〔 第 107 回 日本水彩展(2019) 入選作品 〕

山行での思い出の景色と出会った花など

竹尾 亮三

1 2016 年 7 月 鳳凰三山縦走路から地藏岳・オベリスク(2764m)



2 オベリスク直下のタカネビランジ 薬師岳から鳳凰小屋までタカネビランジ街道



3 2017年7月 大雪山・黒岳から北海道第2の高峰 北鎮岳(2244m)と黒岳石室



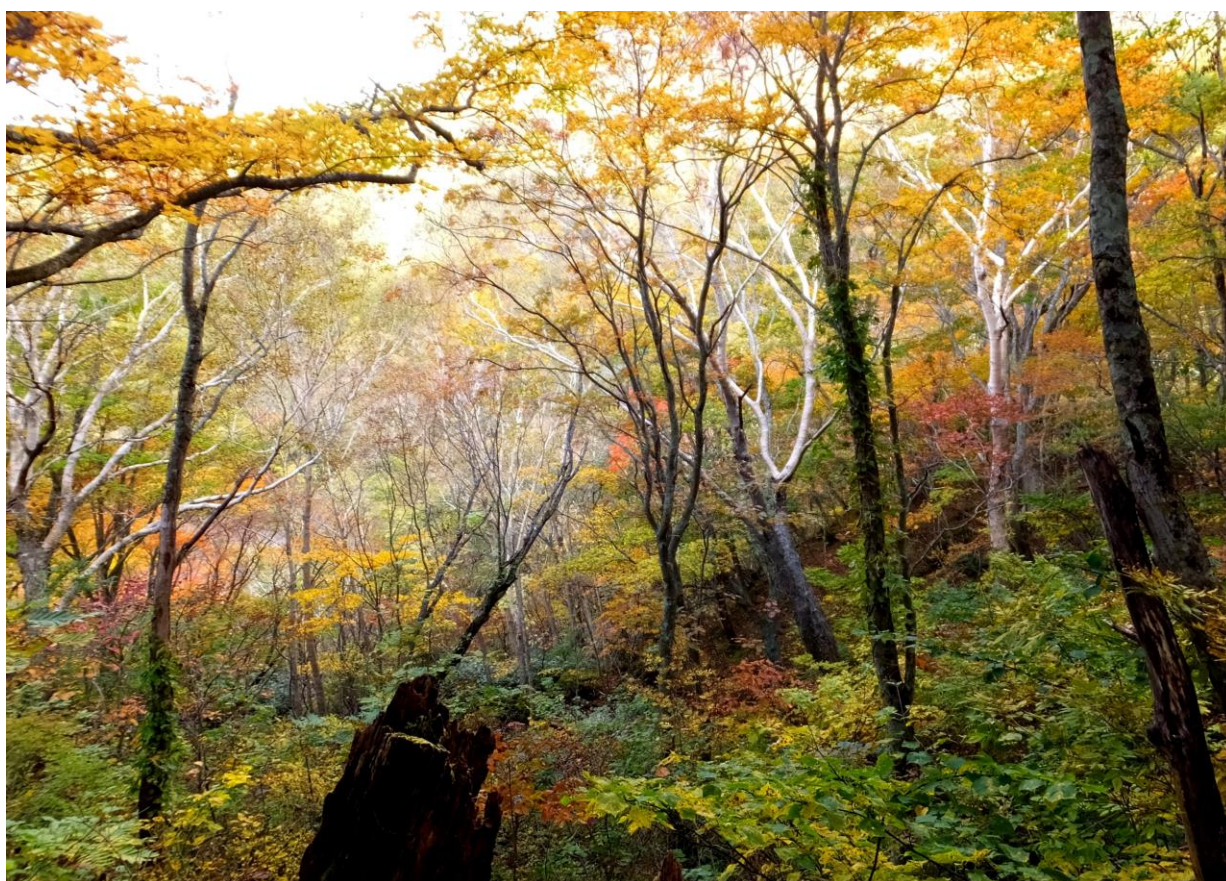
4 黒岳(1984m)で 岩の上に低くはう エゾツツジの群落とエゾハハコヨモギ



5 2018 年 10 月 那須岳・姥ヶ平から煙上がる茶臼岳(1915m)を眺める仲間と紅葉



6 姥ヶ平から峰の茶屋跡避難小屋への山道は 心に残る素晴らしい紅葉が続く



横浜大岡川の桜

祖父川 精治

横浜地方気象台は、平成31年（2019）3月21日、今年の桜の開花を発表した。正確にいうとそれは、ソメイヨシノサクラの事で、カワズサクラを例にすると2月中旬には早くも温暖な三浦海岸、三崎口駅周辺各地では既に開花をしている。

横浜大岡川の桜を見に行くには、京浜急行では日ノ出町、黄金町、南太田、井土ヶ谷、弘明寺各駅が最寄り駅である。また地下鉄では吉野町、蒔田、弘明寺各駅となる。

横浜市内の代表的な桜の名所で、それはソメイヨシノ約800本の桜並木である。大岡川プロムナードと呼ばれた川沿いの桜ロードが整備され、そして8キロにわたり赤い提灯が風に揺れている。お花見の最高最良のスタート地点は、弘明寺「ぐみょうじ」に近い観音橋である。

その前にまずは急な石段を登り、台地上にある弘明寺観音へ参詣する。横浜最古の寺といわれる天台宗瑞応山弘明寺。今から1300年前、元正天皇の養老5年（721）創建。本尊は木造十一面観世音菩薩立像で平安時代中期の傑作、国の重要文化財。高さ181cm。鉋彫りの代表的な作例として有名である。丸ノミの削り痕を表面に残した特殊な彫り口を見せている。奥殿に安置され有料で拝観もできる。他には、恐ろしい閻魔大王像やセツ石の霊石がある。坂東33観音めぐり札所14番の霊場で、御朱印を戴く参詣者や巡礼者が多い。



〔弘明寺観音の山門〕

花見客で賑わう、桜橋と呼ばれる観音橋から歩き始める。ゆるやかな流れの清い大岡川を眺めながら桜並木の護岸上の歩道に行く。水面には水鳥のカルガモや大きな鯉、亀等の泳ぐ姿を見る。

地域では桜の古木や枯れ木等は処分し、次に若木を植林するといった処理が各所で進められている。橋際には、次の橋までの距離を記したプレートや地図が表示してあるので目安となり歩き易い。

遊歩道には、花見客目当ての屋台も数多く立ち並び、椅子も用意されて子供から大人まで楽しめる。



〔観音橋から〕

弘岡橋、大井橋、環状1号の鶴巻橋、蒔田橋、井土ヶ谷橋、Y高と親しまれている市立横浜商業高校、清水橋、蒔田公園橋。広い蒔田公園では、子供達が広いプレイグラウンドで大勢賑やかに遊んでいる。大岡川水面には、ボードを楽しむ人々を多く見る。正しくはスタンドアップパドルボード（SUP）。よく見ると護身のために、ボードと足首とをロープで結んでいる。

橋の袂には、「手づくり郷土賞、ふれあいの並木道、30選」昭和62年7月、建設大臣賞のプレートがある。

葭谷橋、山王橋の右側には、地域では有名な「お三の宮」と親しまれた日枝神社。境内には巨大なヒマラヤ杉が3本も立ち並んでいる。また、大戦中の作品と思われる砲弾を抱えた狛犬が珍しい。隣接して、小社の堰神社。セキと咳が同音の事から咳の病に効くといわれ、昔からの信仰が厚い。

昔から、この辺り一帯は吉田新田と呼ばれていた。大岡川と中村川に挟まれていた広大な地域は、江戸時代初期まで入江であった。寛文7年（1667）江戸の材木商の吉田勘兵衛らによる、入海の大干拓工事により吉田新田が完成。港、横浜の基礎を築いたといわれる。

車輛の通行が多い横須賀街道の広い一本橋。次いで道慶橋には道慶地藏尊が祭られ、由緒を刻んだ石碑があり、橋の欄干の親柱に錫杖の輪が使われている。

白金橋、栄橋、太田橋、末吉橋、黄金橋、遊覧船が発着する大岡川桜棧橋のある旭橋と続いて高架の京浜急行日ノ出町駅に近い。やがて、ビルの谷間を流れて桜木町駅前の帆船日本丸が浮かぶ横浜港へ流れ注いでいる。

最近、桜木町駅前広場から赤レンガ方面へ向かって、ロープウェイが新設された。

◎ 横浜名物の老舗である大正12年創業の甘納豆屋の「おもや」を紹介する。地下鉄吉野町駅下車2番出口で地上に出てすぐ。

三浦南下浦逍遙

芹沢 隆久

横須賀は東西、海に囲まれているが、山と谷戸と坂の町と云われている。私の住む平作もその名に似合わず坂の多い町で、昔から平作七坂と呼ばれる急坂が今はだいぶ様変わりしているが、七ヶ所ある。

大半は坂の近くに住む家主の祖先の名をとった新兵衛とか長五郎、または家業の飴屋とかが、坂の名前になっているが、その中に「伝馬場坂」というのがある。それは屋号にもなっていて、昔から三浦半島を通っていた古東海道、江戸時代には浦賀道と呼ばれた一部がわが町にも通っていた名残の坂である。もう一つは「駿河坂」。諸説あるのだが、中世は鎌倉道と呼ばれた古道の坂ではないかと云われている。駿河坂のすぐ上の山は陣が原と呼ばれている。即ち、鎌倉→逗子→葉山→木古庭→阿部倉の平作支城（現在しょうぶ園のある付近）→駿河坂→三浦大介義明が立てこもり、討ち死にした衣笠本城への搦手と続く近道ではなかったかと推定される。

この駿河坂という名称は何処から来たのかと考えるに、これも諸説あるが、三浦大介義明の孫にあたる三浦義村（父は義澄）は駿河守に任じられていた。その義村が往還した坂が特段の事象があって駿河坂と呼ばれるようになったのではないかと。しかし、それを示す古文も謂れも残っていないので、事実にはわからない。

その義村の墓や創建した寺が南下浦にある。このコロナ禍で県外へ行くこともままならぬこの春、二度にわたって南下浦を歩いてみた。出発地点は京急三浦海岸駅。ここから南下浦の寺までは4.3km、大した距離ではない。物足りなければ劔崎、毘沙門と足を延ばせばいい。大通りを左へ行くとすぐ三浦海岸へ出る。三浦海岸は広義には横須賀市野比から南下浦金田まで約10kmの弧を描く海岸を指す。狭義には三浦市に属する海岸、北は津久井浜、南は菊名浜に連なる三浦海岸海水浴場一帯の砂浜を指す。私のだいぶ年季の入った日地出版の三浦半島・登山ハイキング地図（昭和35年2月版）では三浦海岸という記述はなく、下浦海岸海水浴場となっている。そしてその編集者にあの坂倉登喜子さんの名があるのだ。（今は昭文社だがその昔は登山地図といえばニッチだった）

三浦海岸の波打ち際を歩くと、房総の鋸山連山と双耳峰の富山がやや霞がかかる中でもはっきりと見える。砂浜を振り返ると緩やかに弧を描き、長さも広さもあるスケールの大きい海岸であることがわかる。鎌倉や逗子の海岸を見馴れた人にとっては特にそう思える。運が良ければ乗馬クラブの馬たちの駆ける姿も見られる。また横須賀方面には三浦富士や武山、大楠山も見える。砂浜を半分ほど行ったところで県道に上がると、白山神社というバス停がある。道標に従って山側の道に入ると、「家内安全」「交通安全」祈願の幟とともに県神社本庁の新型コロナ対策の看板が立てられた石段のところが

白山神社の入り口だった。

ここの白山神社は菊名の権現様と呼ばれ、地元民に親しまれている。祭神は伊邪那岐尊と伊邪那美尊。ここで特筆すべきは拝殿の横を少し登ったところに洞穴がある。それは「切妻造妻入形横穴式古墳」と表示されている。注連縄が張られ、大切に保存されている。奈良時代の豪族の墓ではないかと推定されている。中はガランドウだが、天井が切妻風になっていることからこう呼ばれている。この辺は菊名という地名だが、戦国時代、後北条氏と戦った三浦義同（道寸）の家臣に菊名左衛門重氏がいたので、ここの地名になったそう。

県道に戻り三浦海岸の南端の金田湾との境になっている出鼻は「暮景崎」（ぼっけさき）と呼ばれ、源頼朝が狩りの道すがら金田湾の夕焼けの美しさに心惹かれ命名したと云われている。

さらに県道を行くと「役場下」というバス停がある。そこから山側の道路を道なりに行くと、浄土宗「金田山圓福寺」に至る。山門と広い境内、ベビーカーを押す親子連れがのんびり参拝している。本殿は法事なのか読経の音が響く。立派な鐘楼がでんと構えている。また、六地藏は珍しいものではないが、全ての七福神の石像がずらりと並んでいる。圓福寺は三浦七福神の第一番で、金光恵比寿尊を祀っている。

かなり前、大先輩の祖父川さんがリーダーで、バスをうまく利用し、三浦七福神を巡ったことがあった。あの頃は七福神や御朱印にあまり関心がなかったのも、白浜毘沙門天・慈雲寺、弁財天・海南神社や長安寿老人・白髭神社、そして三崎で旨い海鮮丼を食べたことぐらいしか覚えてない。すべて徒歩で巡ると約24kmあるそう。（尚、祖父川さんは新ハイ選書『東京近郊七福神めぐり』のなかで三浦七福神を執筆している）

三崎港へバスで行くなら混雑する三崎口から行くより本数は少ないが、三浦海岸から行くほうが景観も断然いい。

県道に戻り金田のバス停をすぎると、「走湯神社」（そうとうじんじゃ）という標識が見えてくる。この地に温泉は聞いたことがないが…と思いながら、また寄り道してみる。常夜燈を両サイドに配した明神鳥居の額束には「走湯神社」の文字、右側には幾つかの庚申塔が並んでいる。拝殿の看板には御朱印は白山神社にてお受けしているとのこと。これもコロナ禍が原因なのか、或いは元々そうなのか。しかしこれだけでは神社の由来はわからない。

ネットで調べると、「平安時代後期に伊豆国加茂郡の走湯神社（現熱海市伊豆山神社）から走湯神社が分祀されたとのこと。往時より伊豆半島と三浦半島は漁業で密接な関係があり、伊豆から帆船で江戸へ魚類を輸送するとき、金田湾を「風待港」として利用した関係もあって走湯神社を勧請したものと思われる」（『三浦半島の仏教寺院と神社』高木俊雄著）

山中から湧出した湯が海岸に飛ぶように走り落ちる様から「走り湯」→「走湯」になったとのこと、伊豆山にあるのは珍しい横穴式源泉。これで温泉も

ないのにこの金田の地に走湯神社がある、その由来もわかった。

県道に戻り、三浦霊園への道を右に分け、海を見ながらバス停岩浦（いわぶ）まで約 15 分、金田漁港が見渡せる。陸側の石段の登り口に「三浦義村の墓」の表示。70 段余りの石段を登ると、「三浦義村公の墓」と書いた説明版がある。ここは福寿寺の塔頭南向院のあった地だとか。その横に大きな歪な石を積み重ねた墓石のようなものがある。微かに「義村公旧墓所」と読める。ここには五輪塔の義村の墓があったのだが、大正 12 年（1923）の関東大震災で南向院の崩壊とともに義村の五輪塔も崖下の海中に落ち、その後海中から一部の石を引き上げたのが現在の旧墓所ということだ。その横には建造ははっきりしないが、瓦堀に囲まれた義村の立派な墓がある。三浦氏の家紋である「三つ引き両」が多く見られる。その奥には八坂神社がひっそりとある。金田の古文書によれば義村の守り本尊とのこと。横須賀の大矢部には満昌寺の近くに義村を祭神とする近殿（ちかた）神社がある。

もと来た石段を下りてすぐ先の道を上るといよいよ義村の創建した福寿寺だ。入り口には三浦市の作成した案内板「福寿寺と三浦義村公」（英語版あり）がある。それによると岩浦山福寿寺と称し、臨済宗鎌倉建長寺の末寺で、開基は三浦駿河守義村で、正治 2 年（1200）3 月建立とのこと。ご本尊は行基作の聖観世音菩薩、寺宝として義村愛用と伝えられる鞍、鐙、脇差等があり、一の谷の鶴越えの活躍のことや、南向院跡に大正 10 年（1911）3 月に義村の墓碑が建立されたとも書いてある。ということは、あの瓦堀に囲まれた義村の墓碑は関東大震災の 2 年前に建てられ、瓦堀や灯籠は近年、福寿寺の住職や有志が修復したものと思われる。

私は冒頭のほうで 2 度訪れていると書いたが、1 回目の時はコロナ禍の中であり、拝観も遠慮して境内に人が侵入すると警告音を発するセンサーに気を取られながら、木造の本堂の外観や、境内を見学させてもらって帰ってしまいました。その時、義村とは全く関係ない「異次元のあるもの」を見て驚き、大げさにいえば衝撃を受けたのだ。帰宅してからもそれが心残りで、もう一度訪れて確認しなければと思い、意を決して、福寿寺に電話して義村の遺品を拝見できるか、そして「あるもの」のことも聞いてみた。住職はいつでも拝観できます、但し法事の時があるので電話下さいとのこと。訪問の前日電話を入れたが、残念ながら外出中のようで、留守電に明日伺いますと入れておいた。1 回目は一人だったが、2 回目はこのコロナで仕事も休業中の歴史好きの友人と行く約束をしていたので、変更せずに実行したのだった。

私たちが本堂に着いたのは正午近くだった。右横の住居に伺うと、幸いご住職が在宅だった。円福寺でみた七福神の布袋様のような体形の方だった。前住職の杉山滴水さんは亡くなっていると電話でちらっと聞いていた。杉山住職夫妻には子はなかったため、自分が継いだ。近辺の寺から来たのかと思ったら、群馬の建長寺派の寺から来たとのことだった。私も建長寺が母体

の高校に通っていたので、すぐに打ち解けて話ができた。早速、本堂に案内していただき、ガラスケースに収納されていた義村の鞍と鐙（あぶみ）を拝観させてもらう。

鞍は存外小さめなものだった。住職も皆さん小さいのに驚きますねと仰っていた。当時の日本馬はかなり小形だった。現在のサラブレッドや映画の馬の先入観で見ても通じない。木曽馬で平均体高 125～135 cm、体重 280 kg、現在の基準ではポニーに分類される。サラブレッドは体高 160～170 cm、体重 450～550 kg だ。住職が鐙をガラスケースから出してくれたので、手に取ってみたが、かなりの重量感が手に残った。とは言え、名の知れた武将の軍馬だからその中でも大柄であったと推測される。

「三浦の犬は友を食らうぞ」（『古今著聞集』）、これが義村にたいする歴史的評価の大勢である。確かに一族の和田義盛の「和田合戦」の際、北条義時に味方したり、2代将軍頼家の子公暁の実朝暗殺の黒幕説、承久の乱の時も後鳥羽上皇方の弟三浦胤義の密書を直ちに義時に届けるなど、常に北条氏と密接な関係を維持した。しかし義村の時、三浦氏が北条氏と相並ぶような隆盛を極めたのは確かである。小倉百人一首で有名な藤原定家の『明月記』においては、義村を「八難六奇の謀略、不可思議の者か」と評している。南向院跡の「義村公の墓」の解説板には「…義村公は領内の開拓にいつくしみ領民に慕われその治世は見るべきものがありました…」と三浦市ならではの解説である。これですぐ思い浮かんだのは吉良義央（上野介）だった。「忠臣蔵」の敵役（悪役）としてよく知られているが、領地の三河地方では新田開発などで名君とされている。来年の NHK の大河ドラマは三谷幸喜脚本の「鎌倉殿の 13 人」だ。義村がどういう人物に描かれるか大変興味深いところである。

境内の「異次元のあるもの」とは、前面に地球儀をかたどり、「夢」と書いた 3 人の顕彰之碑だった。3 人とは西堀栄三郎、多田雄幸、植村直己の三氏だ。この 3 人は福寿寺とどんな接点があったのか、更に植村、西堀は「山」という共通点はあるが、多田という人はどういう人なのか思い浮かばなかった。1 回目の訪問のあと、ネットや本で先ず 3 人のプロフィールから調べてみた。

西堀栄三郎（1903～1989）86 歳没、京都生、登山家、科学者、京都大学理学部卒、第一次南極観測隊、越冬隊長、日本山岳会第 13 代会長、『雪山賛歌』の作詞者（原曲『いとしのクレメンティン』、鹿沢温泉に泊まった時、その歌碑を見たことがある）。また、語学が堪能で旧制第三高等学校の生徒の時、あのアインシュタイン夫妻の通訳として京都、奈良を案内したとのこと。

多田雄幸（1930～1991）60 歳没、新潟県長岡市生、ヨットマン、旧制新潟高校卒（野坂昭如と同期）、上京後個人タクシーの運転手をしながら、コツコツとお金をため、ヨットを作る。そのため無一文になったため、「オケラ 1 世号」と命名（彼をサポートする仲間をオケラグループという）、1975 年「オ

ケラ 3 世号」で太平洋横断（油壺→サンフランシスコ）、最速 46 日間で堀江謙一以来 5 人目。1982～83 年、世界一周単独ヨットレースで優勝（オケラ 5 世号）、現在も活躍する白石謙二郎（三崎水産高校出）は弟子である。（海には疎い私だが「オケラ x x 号」というのは覚えている）

植村直己（1941～1984）43 歳没、兵庫県日高町生、登山家、冒険家、明治大学農学部卒、彼の偉業はご存知だと思うが、1968 年南米最高峰アコンカグア単独登頂後、アマゾン川 6000 キロをイカダで下る（27 歳）。1970 年日本人として初めてエベレスト登頂（松浦輝夫とともに）、またマッキンリー（現・デナリ）を単独登頂し、世界初の五大陸最高峰登頂者となる（29 歳）。日本列島（稚内～鹿児島）3000 キロ徒歩縦断（30 歳）、グリーンランド 3000 キロ単独犬ぞり踏破（32 歳）、北極圏 1 万 2000 キロ単独犬ぞり踏破（35 歳）、北極点単独犬ぞり行で北極点に到達（37 歳）、世界初のマッキンリー冬期単独登頂に成功、下りで消息を絶つ。登頂した日が彼の 43 歳の誕生日であった。

この年齢も出身地もかけ離れた 3 人が三浦のそれほど名の知れぬ寺の住職と如何に深い関わりを持ったのか。

今はネットの時代、多くのブログ、そして本を参考にした。その中でもブログでは『皆空の中で…』、書物では『マッキンリーに死す』（長尾三郎著）が大変参考になった。

先ずは植村と西堀の出会いは、アラスカのアンカレジ駅だった。西堀は列車を待つ間、そこにいた青年に「ちょっと荷物をみておってくれ」と頼んだ若者がまだ無名の放浪時代の植村だった。植村はマッキンリーへ登るためにアラスカに来ていたのだが、単独登山は許可されなかった。

多田と西堀の出会いは、1977 年油壺のヨットハーバーだった。西堀の愛艇「ヤルンカン号」の繋留場所の隣が多田の「オケラ号」だった（ヤルンカンとは西堀が隊長を務めたカンチェンジュンガ西峰）。海に行きたいと思うと多田は西堀をタクシーの助手席に乗せ油壺に 2,3 度行ったことがあった（西堀は 1937 年東京大田区に山小屋風の自宅を構えた）。

多田と福寿寺杉山住職との出会いは、これもブログに貼り付けてあったのだが、1992 年 8 月 29 日の読売新聞の顕彰碑建立の記事の中で、多田は当時三浦市の職員だった杉山住職と知り合い、意気投合、境内を“造船所”として提供とのこと。更に詳しくいえば、多田は以前からアマ無線で知り合った津久井湖畔の友林禅寺の浅野和尚から雲水仲間で弟弟子の杉山住職を紹介された。今は竹やぶになっている畑で、オケラ仲間や地元金田の漁師も協力しオケラ 2 世号の製作にかかったのだった。初めは多田とヨット仲間と杉山住職が製作の合間に毎夜のように酒を飲みつつ語り合ったそう。そのうち多田は西堀と知り合い、植村は南極越冬の経験のある西堀に太陽や星の位置から経緯度を知る六分儀の教えを乞うた。そこに 3 人の接点があったようだ。杉山住職も多田を通じて二人と知遇を得たのだった。

植村は六分儀の使い方の習熟にかなり難儀したらしく、妻の公子夫人のほ

うが覚えが早かった。そんな中、多田は西堀から植村の北極点・グリーンランド犬ぞり行（1978年）の話を聞き、ベースキャンプ（カナダのアラートから約2キロ地点ニオーロラ・ベースと命名）でサポートすることをかってでた。多田はヨットマンなので天測はできるし、長距離の無線技術もお手のもの、西堀も「うってつけの男」と多田を推薦したのだった。植村は多田から六分儀の使い方をよりわかりやすく教えてもらい、また犬ぞりにヨットの三角帆をつけたのも多田のアドバイスだった。

1980年、多田は南下浦金田で「オケラ5世号」建造を開始し、1982～3年、北米東海岸ニューポートで開催された第1回アラウンド・アローンクラスII（世界一周単独）で優勝する。多田は無事に航海できればいいと考えていただけで、優勝したのは「グリコのおまけみたいなもんです」と応えている。

『皆空の中で…』には、杉山住職がニューポートまで行き、僧侶姿で出航時の安全祈願をしている写真があった。住職の禅僧らしい精悍な顔つきとバイタリティー溢れる姿にはオーラがあった。また優勝の一報を聞いた時、サポート仲間が集まって、世田谷で祝杯をあげた写真には、背広の杉山住職と西堀の破顔一笑の顔があった。

その頃、植村は究極の夢である南極の犬ぞり単独横断、最高峰ビンソン・マシフ（5140m）登頂を実現させるために、1982年1月、南極に向かっていった。エスキモーとの生活体験や北極点、グリーンランド踏破もすべてこの南極制覇のためだった。アメリカの協力が得られず、結局アルゼンチンの協力を得て軍のサンマルティン南極基地まで入り、準備をしながら待機しているところだった。しかし4月、思いもよらぬあのフォークランド紛争が勃発したのだ。最初優勢だったアルゼンチン軍はサッチャー首相ひきいるイギリス軍に次第に不利になり、とうとう12月、支援ができなくなったと正式にアルゼンチン軍が伝えてきた。これまで描いていたすべての夢が幻となってしまったのだ。12月26日、多田はオーストラリアと南極大陸の中間あたりを航海していた。植村のいるサンマルティン基地とは7900キロ離れている。これまで無線で呼び出しても応答がなかったのだが、突然植村の声が鮮明に入ってきた。植村はフォークランド紛争のため南極大陸単独横断と最高峰登頂を断念したことを告げる。植村の無念さが痛いほどわかる多田はわざと明るい声で「南極が逃げるわけじゃないし、今度はヨットで南極に連れていくから」と。意気消沈していた植村は多田の人柄もあいまって本当に嬉しかったと述懐している。

翌年2月にはフォークランド諸島の東で、南極から砕氷船でブエノスアイレスに向かっていった植村と、シドニーからリオデジャネイロに帆走していた多田の「オケラ5世号」とすれ違った。そして9月には三崎へ優勝凱旋するオケラ5世号を待ちきれず、植村は八丈島へ飛んだ。植村が来るなら八丈島に寄ると多田は言っていたのだ。植村は漁船でオケラ5世号に向かい、再会を喜びヨット内での対談が実現したのだった。（Number 86 1983年11月号）

西堀のモットーは「やってみなはれ」「石橋を叩いたら渡れない」、植村は「冒険とは生きて還ること」、多田にはモットーらしきものはない。酒が大好きでジャズを愛し、いつもひょうひょうとして無欲な人柄が誰からも愛された。西堀は秀才であり、植村、多田はどちらかといえば劣等生であった。本来ならかけ離れた存在だったのに、西堀の大きな包容力で2人を包み、また3人を結びつけたのは子供の頃から持ち続けた冒険心だったのだろう。

ところがこの3人がプロフィールで書いたように相次いで亡くなってしまったのだ。植村、西堀、そして追うように多田が、世界一周レースの途中、シドニーで自殺してしまった。自然と遊ぶ精神、春風駘蕩として自殺とは最も遠い存在と思われた彼が自ら命を絶ってしまった。(航海中、住職から学んだのか般若心経を唱え、風の時は座禅を組んだ男なのに)

相次ぐ死にショックを受けたオケラ仲間と杉山住職は「3人の偉業を後世に」と碑の建立を思い立ち、山仲間、海仲間に寄付を募り、1992年9月6日に3人の名と共に、杉山住職筆の「夢」を刻した碑が建てられた。台座の下には「南極の砂」が埋められているという。顕彰碑の裏面には3人の経歴と共に次の文がある。

「西堀栄三郎先生は植村直己、多田雄幸両氏の後援者
植村直己氏と多田雄幸氏は無二の親友
共に西堀栄三郎先生を師と仰ぎ、敬愛
お三方出合いの地、当福壽寺に顕彰碑を建立」

伊豆と房総という大きな半島に囲まれた小さな半島の片隅に偉大な冒険者が集まり、酒を酌み交わしながら語り合う姿を想像するだけでも楽しいし、身震いするほど感動する。更にいえば鎌倉幕府を開いた頼朝と良好関係を築いた三浦大介に始まる三浦氏が北条氏との軋轢に耐えながらこの半島を守護し、鎌倉武士の義村が創建した禅寺に昭和の武士(もののふ)が集い、地球規模の「夢」を語り合ったのは偶然であろうか。

「傾斜地の墓地を登りきると西方に富士山も見えますよ」と住職は教えてくれた。



2021.6.22 二完二

南アルプス^{てかりだけ} 光岳から寸又川林道を歩いた思い出

齋藤 郁夫

支部員の皆様なら、光岳を（てかりだけ）と読むこと、深田久弥氏の著書「日本百名山」の一つで、南アの最後に取り上げられていることを良くご存知だろうし、もう登頂済みの方も多いと思う。しかし、下山ルートを寸又川林道に出て寸又川温泉まで約 40 km を歩いた物好きな方は先ずおられないことと思うので、1995 年頃の思い出を書いてみた。

2000 年 3 月末で勤務先を 60 歳の定年退職で追い出されて、社会人から一介の素浪人になったが、その 5 年前には当時「第一次定年」などと呼ばれていた 55 歳の時に、静岡の関連会社に出向扱いで飛ばされていた。

静岡には単身赴任で、借り上げ社宅で夕食は自炊で賄ってビールを楽しみ、昼は勤務先の近くの定食を、朝はパンと牛乳、野菜サラダなど健康的な毎日を送っていた。小規模な会社の気楽さで、赤字さえ出さなければ何とか身分保障されていたので、休日には（当時はまだ土曜日が毎週休みでは無く、隔週であったが…）静岡周辺の山歩きを日帰りで単身で楽しんでいた。

ただ静岡勤務で苦勞したのは車を持っていないと日常の生活が成り立たないことであり、昼休みを利用して勤務先の近くの自動車学校に毎日通って、何とか免許を取得し、20 万円で中古車を購入したが…、当時はまだオートマ車限定の免許が無く、マニュアル操作には苦勞したことを覚えている。

畑薙ダムからウソッコ沢小屋へ

そんな 5 年間の後半のある 11 月の初旬の 3 連休を利用して、テントを担いで畑薙ダムまでバスで入り、無人小屋のウソッコ沢小屋で第一日の夜を過ごした。当時のこの小屋は小さいながらもしっかりした、清潔な感じの良い避難小屋で、眼の前に清流が流れていた。幸い天候も落ち着いており、下山日迄は先ず崩れる予報は出ていなかった。今と違って漸く携帯電話が企業用に普及したところで、現在のスマホのような便利なアプリも無く、GPS や地図も用意されて無く、山間部に入れば通話さえ十分に出来なかった。

沢の水で良く冷やしておいた缶ビールで喉を潤して、粗末な食事を済ませれば後は寝ることしかない。ポケット型のラジオも谷間では電波を捕らえられない。小屋の周囲は雑木林が見事な紅葉で、一人では勿体ない感じであった。第二日は早朝から歩きだして主脈稜線の茶臼小屋へ出て、管理人が居れば光岳の情報を仕入れて、テントは出来れば易老岳まで足を延ばしておきたいものと考えてシュラフに潜った。

沢の音が大きく響く中での眠りは心地よかった。翌日（第二日）は心地よく目覚めた。インスタント味噌汁に餅を入れた朝食。天候はやや雲があるが

紅葉・黄葉が見事に青空と映えている。

横窪沢小屋から茶臼小屋へ

登り一方のコースに喘いで横窪沢小屋の前を通過すると、管理人から声を掛けて貰う。それを機に小休止。熱いお茶を振舞われた。まだ稜線には雪は来ていないが聖岳は白くなっている筈だ…、茶臼小屋はもう閉まっているが水は使えるし、避難用の最低限のスペースは使える筈だが…、光岳小屋も同様だが水は無いから茶臼小屋で必ず補給して置くこと、寸又川への下りは問題ない筈だがあまり利用者がいないようだ…、まあ今年は台風が来なかったから登山道も林道も心配無用だが、決して無理はしないようにと励まされた。もともと雪が有ればそこで引き返す予定だったからアイゼンの用意はしていないが、スキー用のストックは持参していた。お茶代は不要と言われたが300円を置いて出発。この小屋も連休が終われば閉鎖すると言っていた。

茶臼小屋は2年前より大きくなっていて、水は外で流し場もついた状態で豊富に流し放しであった。稜線の向こう側はガスが沸いていて、聖岳は雲に覆われて山頂は見えない。早めの昼飯をとコンロで湯を沸かしてココアとパン、みかんを食べていると、単独行の中年の男性が聖岳から降りて来た。主稜の雪は深いところでも足首までしかなかったとのことで、樺島から赤石岳を経て来たと言っていたが、殆ど立ち話で済んでしまった。ただココアを勧めたところ美味しそうに飲んでくれて、丁寧なお礼とミニ羊羹をいただいたのには恐縮した。

仁田小屋跡の廃墟にテントを張る

徐々にガスが濃くなって来ていた。時間は心配ないが、易老岳までは無理かもしれないが行けるところまでと稜線を南下する。風が冷たく感じる。11月初旬の2500mだから当然のことだ…、ほぼ冬山で雪が無いだけ恵まれている。大きな上り下りも無く順調に進むが、当時は地図には記載されていた「仁田小屋跡」があった。小さな小屋で四隅の柱は折れていたが屋根は殆ど残っており、西側には壁もあって風除けにはなる。この廃墟にテントを張れば心強い。易老岳付近までの考えは放棄してここにテントを張ることとした。絶対に無理をしないのが当時「単独行」を楽しんでいた私のモットーだったから…、この先ここより良い場所があるとは思えないし、決断は早かった。テントの設営も無事終わるころにはガスも晴れて、弱いながらも夕日が差してきたのでほっとした。

ここに着く迄の途中の山道で樹林の中から時折『ケーン…ケーン…』と雄鹿の鳴き声が聞こえていたが、晩秋の山旅には相応しいもので、百人一首の『奥山に 紅葉踏みわけ鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき』を柄にも無く思い出したりして、やや感傷的な雰囲気包まれての晩秋の山歩きとなってい

た。夕食まで時間があるので、仁田岳山頂を往復したが、寒いだけで展望も期待していたのだが雲のためか、たいしたことはなかった。

テント内での第二夜の食事は恒例のアルファ米とボンカレー、缶ビールと悪くない組み合わせに、大満足で寝酒には持参した自家製の梅酒。幸い風も微風状態で寒さもたいしたことは無い。靴下にはポケット懐炉を入れて、エアーマットと冬用のシュラフで熟睡状態になれた。幸い寒さで目覚める様なことも無く、快適な目覚めとカップラーメンに餅を加えた朝食を楽しんで、テントの撤収。天気は青空が多いが、雪を被った高い山は雲の中で残念。雲が取れて山々が見えてくるのを待つほどの余裕が無い。

光岳小屋から寸又川へと南下

少しは軽くなったザックを背にして歩き出し、易老岳の手前で当時は便ヶ島と呼ばれていた地点への下山コースの微かな踏み跡があった。その後は三吉平・静高平の水場で水を補給して光岳小屋へと順調に進めた。イザルヶ岳山頂往復も考えたが雲が多いので諦めて先を急いだ。

光岳小屋は二年前の夏より大きくなっていて、当然閉鎖されており軒下にザックを置いて、カメラだけの空身で光岳山頂へ往復する。ヒッソリとした山頂で細い木の柱に光岳と日本百名山と記されているだけで二年前と殆ど変わっていない。更に細い踏み跡が南アルプスの最深部の加加森山・池口岳へと続くものと思ったが、私にはレベルが高すぎる別世界であり、おとなしく小屋に戻る。軒下で湯を沸かし昨日と同じささやかな昼食を済ませて、寸又川へと南下するルートに踏み込む。

予想していたより明確な山道で日本最南端と言われているハイ松を過ぎ、快適に百又澤の頭を通過して高度を下げていく。天気は快晴に近く、周りの森も紅葉が目立ってくる。目に入る限り原生林のままだ。気分は最高だが疲労でペースが落ちているのが自分でも分かる。

柴沢の終点までまだまだあるのに時間だけが経過して行くのがもどかしいが、如何ともしがたい。ただ柴沢に着けばテントを張ればよいので気は楽だ。暫くノロノロと尾根道を下り続けると何やら人の声が微かに聞こえてきた。林道の保守作業をしているらしい。トラックや重機のエンジン音も聞こえてきた。林道も直ぐ近くだと元気づけられたが、それからが長かった。沢筋と風向きでそのように聞こえたらしく、またその音は遠ざかった。あわよくばトラックの荷台に乗せて貰えればありがたいと言う甘えた気持ちもあったのだが…。尾根道が変わって直ぐに聞こえて来たのは「帰るぞ…、上がって来い…」、もう引き上げるとのことだ。後 2～30 分あれば間に合ったのにと残念な気持ちも有ったが、そもそもこのルートを歩いているのは、「長年かかって、自分の足で日本海の親不知から極力山道を辿って太平洋の三保の松原までを、方向を問わずに歩き繋げたい」との野心を持ち続けて居た

からで、ここでトラックに載せて貰おうなどと甘えたのは間違いだったのだ。時計を見ると 17 時過ぎで晩秋の日陰の山は既に日没間近で薄暗くなっている。

『東海の黒部峡谷』(静岡森林局)をひたすらに歩く

何とか林道の終点＝光岳登山口の標識に着いた時には 17 時半過ぎで、大きな木の柱に『寸又川左岸林道終点 寸又川温泉まで 39.9 km』と信じられないような表示がしてあるのがヘッドランプで読み取れた。当時は正確な距離を知る機会も無く地形図でざっと 30 km 程度と勝手に判断していたのだが…、がっくりしたがここ迄無事に来れたこと、天候もまあまあ良かったこと、作業用のトラックが入って来ているのは、温泉までの林道には何らの問題も無いことだと分かっただけでも喜ぶべき、と気分を切り替えた。

幸い林道の脇に平坦地もあり 2 メートルほどの岩から水が流れ落ちていることで、ここにテントを張ることにして、気合を入れ直して設営し、夕食の準備に取り掛かった。三方を山に囲まれているせいか風も無風状態…、早くも夕空から夜空へと切り替わって行く時間と場所を一人占めできることに感謝した。明日の 40 km には 10 時間を見て置けば十分だからと、缶ビール、梅酒で非常食用のビーフジャーキーをつまみとしてささやかに乾杯。空を仰ぎ見ると素晴らしい星空で、明日の好天に期待して早めに就寝。昨夜よりは温かいので快適。最後の朝は 5 時に起床、まだ薄暗いが朝食を済ませて、テントを陽光に当てたかったが時間を節約して撤収して、6 時には出発できた。まだ林道には日は射して来ないが、鼻歌交じりで歩きはじめる。体調も昨日の疲れが消えていて申し分なく快調。

温泉まで標高差約 500 m を 40 km 歩くのだからほぼ水平で多少の上り下りはあるのは当然であったが、沢や谷が山に深く切れ込んでいるので、歩いて行く先の林道が見えているのに、大きく U 字型に、極端に表現すると C 字型に、延々と迂回させられるのが辛かった。最初のうちは地図で現在地を確認して今は××沢とか認識していたが、面倒になって止めてしまった。それよりもこの峡谷の紅葉の見事さには心を奪われた。

原生林のままの対岸の斜面は秋の日差しの中で輝いていた。後日、静岡森林局の資料でこの峡谷は『東海の黒部峡谷』と自賛していたが、正に同感できるものであった。それに春と秋の年二回特別に中型バスを柴沢(林道の最深部)まで希望者を招待するとの情報もあり、抽選になることも記載されていた。

一般車両は一切進入をさせないので静かなことと、路面が大きく凸凹していない。サイクリングやバイクにも開放していないようで、途中には森林の

作業用の小さな小屋が 2〜3 箇所ほどあるのみで、作業用の機器も見受けられない。そこを疲れた老人が独占しているのは申し訳ない感じで、トボトボと歩いているのでは、全く絵になっていないと思っていたが、本人は楽しくて仕方なかった。ただ 2〜3 時間も歩き続けると林道と言えども疲れは増して来る。腰を下ろしてお湯を沸かしてお茶の時間としたいのだが、その余裕が生じない。幸い水場も何箇所もあり喉を潤しては歩き続ける。作業に入ってくる筈のトラックにも擦れ違わない。考えてみれば休日なのだから当然なのだろう。

地図に記載されていた何箇所かを通過して行く途中で、鹿、兎、狐などの野生動物を見ることが出来た。それだけ野生動物にはこの地域は天国なのだろう。カメラを首から下げてはいたが距離も離れているし、見とれているうちに姿を消してしまってフィルムには残せなかった。昼飯も腰を下ろして食べる余裕は無かった。歩きながら残ったロールパンを食べて腹を満たすこととした。目指す温泉では一風呂浴びてビールを飲み干す余裕は見ておきたいし、最終バスの一便前を予定していたからだ。どうも時速 4 km では歩けていないことがはっきりして来ていたので、休憩時間を削るしかなかったのだ。林道は殆どが水面まで 100 m 以上を保って作られたようで、河原に降りられるところは無かった。ただ進行方向左手の山側からの清水は何箇所も有って、水には不自由しなかった。

素晴らしい紅葉の林道歩きを悪戦苦闘すること…休憩なしで 11 時間余で、林道の入口の施錠されているゲートに到着出来た。先ず一安心…、何やら出湯の香りも漂ってきているようで温泉が近いことが分かる。表示板に従ってバス発着所を目指すと「吊橋」を渡ることとなった。(現在の『夢の吊橋』とは異なる場所でもっと地味な短いものだった記憶がある)

その時、対岸に数人の中年のご婦人方が浴衣の上に羽織を纏ってこの橋を渡ろうかと考えているように見受けたので、失礼とは思ったが私が先に渡らせて貰うことにした。薄汚い登山姿の爺さんが妙齡の湯上りの美女の視線を集めて渡るのは面映ゆかったが、時間の節約で勝手ながら許して貰うこととした。少し揺れる吊り橋を渡っていると女性特有のお化粧品の香りが強烈に鼻に入ってくる。「お先に失礼…アリガトウゴザイマシタ」と挨拶して立ち去ろうとすると、対岸はどうですかとか幾つか質問されたので、「その服装では無理と思いますよ…、単なる山道ですから…、バスの時間が迫ってますので…、失礼」と素っ気なく立ち去った。年齢なら妙齡の 40 代半ばの美女達には、私のおさ苦しい姿は気恥ずかしかったし、長話になると困るし、濃厚な化粧品の香りに包まれて息苦しく感じていたからだ。折角の南アルプスの精気に染まって来た私には、下界の俗っぽい雰囲気には刺激が強すぎた。その後彼女達がどうしたかは分からないが、私は町営の風呂に飛び込んだ。

この温泉は昔より『美女づくりの湯』として有名で、つるつると気持ちの良い源泉掛け流しだ。先ほどの美女達はこの効果もあって皆さん一段と綺麗になられたのであろう…、そんなことを考えてバスの時間を再確認して缶ビールを一気に喉に流し込んだ。バス停はもうすっかり暗くなっていた。

この山旅は強く記憶に残る思い出の多いものとなっている。

【追記】

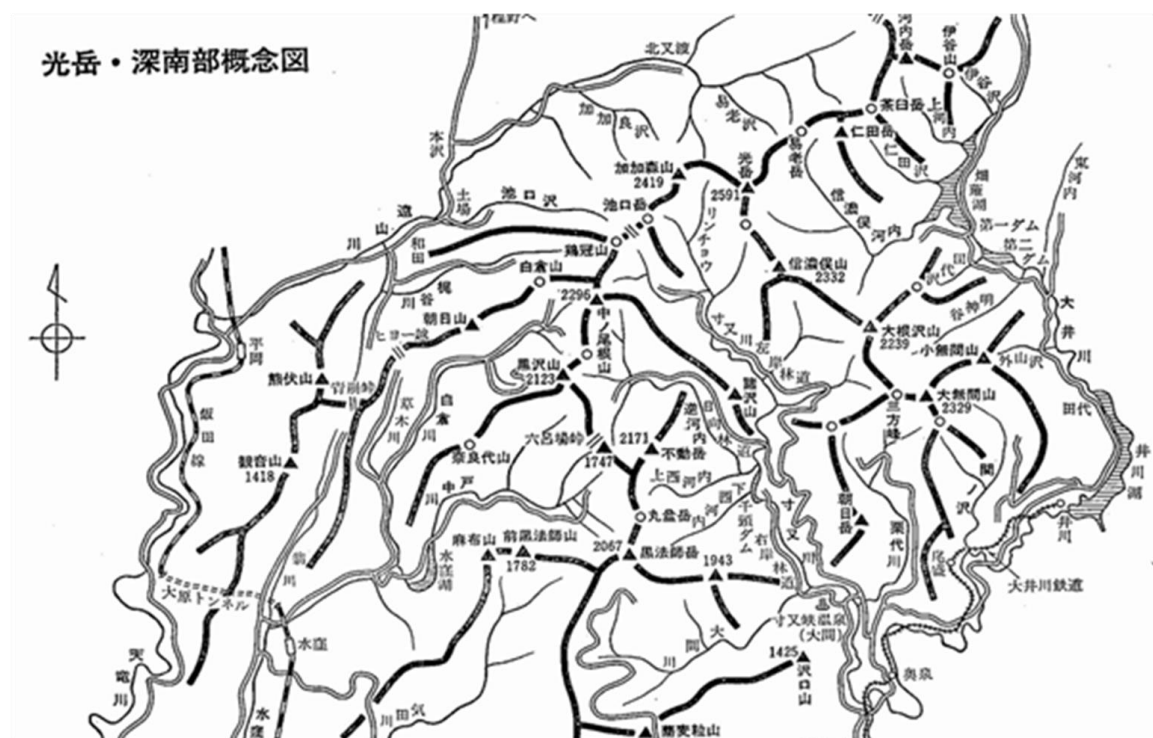
2018年の台風などの水害で現在はこの寸又川左岸林道は大崩壊して、通行不可能とのことを先日購入した昭文社「山と高原地図 43 塩見・赤石・聖岳」で知りました。

この文章を書くにあたり、先日、ネットのヤマレコで最近の情報を探ったが、復旧は全然進んでおらず、光岳から下山ルートにこの林道は『通行不可能』となっています。

一件だけ二人で2020年に逆コースを辿った報告がありますが…、ザイル必携ですとのこととかなり危険な場所を強行突破して光岳に登って畑薙ダムに下りています。

20年以上も昔のことですが、この林道を歩けたことを今でも誇りに思っている次第です。

駄文長文乱文多謝



ペルー 青春の一人旅

小澤 勝太郎

世界遺産で最も人気があるという「ペルーの空中都市マチュ・ピチュを見たい、またアンデス山脈のトレッキングもしてみたい」と思い、2012年3月15日から30日まで16日間、一人でペルーへの旅に出ました。2011年に実施したスペイン・サンチャゴ巡礼と同じく、今回のペルーの旅も自分の遊びに必要な費用はアルバイトで作り出して、バックパッカー並みの最小の費用です。海外旅行の一人旅は現地語の会話ができることが必要です。ペルーはスペイン語で、私は30年前に仕事でメキシコ滞在中にかじった片言のスペイン語を使い、英語は中学生以下の英検3級レベルの幼稚さです。海外旅行がしたい、行きたい気持ちだけで、自分の会話能力は無視して無謀ともいえる旅を実行しました。

思えば私にとって安易を振り捨て冒険心を持った68歳の青春でした。この数年前に鎌倉八幡宮で引いたお御籤「白雲に羽根うちつけてとぶ鶴の遙かに広き世の見ゆる哉」の鶴になったつもりで行きました。

一人旅というのは気楽ですが緊張もします。特に海外ではマイペースで色々な日本人や、変わった文化、歴史、見たこともないような景色等に出会うとワクワクしてきます。訪問先はペルーに世界遺産が13ヶ所もあり、欲張ってこの内の6ヶ所を訪問しました。

- ① マチュ・ピチュ・・・中央に聳えるワイナ・ピチュを登る。
- ② ナスカ地上絵・・・遊覧飛行で地上絵の説明「イヌー」「サルー」(エッ！日本語？)を聞く。
- ③ ワスカラン国立公園・・・アンデス山脈を観ながらトレッキングを実施する。
- ④ クスコの市街・・・街全体が世界遺産で、インカ帝国時代の遺跡を訪問。
- ⑤ アレキパ市の歴史地区・・・400年前の聖カタリナ修道院の生活を伺い知る。
- ⑥ リマの歴史地区・・・聖サンフランシスコ教会、スペイン征服時のジェノサイド(集団殺害)を観る。
- ⑦ チチカカ湖観光・・・世界遺産では無く、ここの住人の葦の島巡りツアーに参加。

一人旅は思い込みや勘違いで色々失敗が発生しますが、後で思えば楽しいものです。その時は必死ですが何とかなるものです。

失敗の始まりは、ペルーに到着した翌日、リマ空港で国内線のクスコまでの飛行機に乗り遅れてしまったことです。朝一番、空港のチェックインが混雑していました。フライト1時間30分前に並んでいて自分の番が来た時には搭乗が締め切られていました。放送で私の名前の呼び出しをしたとのこと。自分の名前も聞き取れない？ 係は私がほとんど西語、英語ができないことを知って、日本語ができる通訳を連れて来てくれました。若い女性で半年ほ

ど沖縄に留学して、片言の日本語ができる人でした。どうしようと悩んでいたのに、1時間後の便に乗せてくれました。彼女は日系ペルー人で、名前は安慶名(アゲナ)と漢字で私の手帳に書いてくれました。後で名前を調べると、沖縄の慶良間諸島に安慶名敷島(アゲナシクジマ)という小さな無人島があり、彼女の親は沖縄県出身の移民だと推測しました。そしてこの時の安慶名さんから日本とペルーとの関係の濃さを感じた次第です。

次は日本では考えられない「エーッ」という経験です。美しい山に囲まれた盆地の標高 3,400m クスコ市、標高が高く空気が薄いので「泥棒も走らないで逃げる」とか。ここで半日観光バスに乗車した時のこと。若い女性ガイド2人が話すインカ帝国時代の石の史跡を巡り、西語の良く分からない案内を聞きながら、帰りはホテルまで送迎と安心していました。

ところが観光終了後にそのガイドさん達は、「ここが私の家の近くだから降ります」と2人とも降車。バスに残ったのは運転手と私の2人だけ。運転手は私のホテルの名前、所在も知らないという。ここでもどうしよう。幸い走っているバスの中から自分のメモと記憶で「この通りだ」と言って下車し、無事ホテルに帰ることができました。ガイド達の無責任な行動は日本では考えられないな—と思いました。

同じことはワスラカン国立公園内のトレッキングツアーに参加した時にも発生。ツアーはガイド含め6名、チェルブ山 5,495m のトレッキングです。ペルー最高峰が臨めるトレッキングの聖地とのことでしたが、不幸にも歩きだしてすぐ雨。麓は見えても期待していた周囲のアンデスの山々はガスで何も見えず。5時間の冷たい雨のトレッキングとなってしまいました。

トレッキング終了後、下山した町でガイドから、後は自分でホテルへ帰れとのこと。何処に自分がいるのか判らない。幸いトレッキングの同行者がホテルまで案内してくれて、無事ホテルに帰り着くことができました。出発時はホテルにピックアップに来て、帰りは現地解散で放り出されてしまう。大変なところだと思いました。

今回の最大の目的であるマチュ・ピチュ遺跡見学は、1日目は現地ツアーに混じって実施、2日目は個人でワイナ・ピチュ登山を実施しました。ここは入山者数が1日400人で事前の入山申請書が必要。7:00 入口で名前を登録済かチェックされます。日本人若者2名と69歳という男性が止められていました。申請していなかったとのこと。これから申請して明日また来ますという。のんびりしていて羨ましいなと思いました。

ワイナ・ピチュのルートは鎖場があるが問題はなく登れました。山頂に着いた時には下はガスの中で全く視界は無く、隣の日本人に下山しようかなと言ったところ、必ず晴れると聞いているから待ちましようとのこと。15分程待ったところ、綺麗なマチュ・ピチュの全貌が手に取るように身近に見えて

きて感動しました。またここは空中都市と言われているが、確かに周囲は深く切れ込んだウルバンバ川と対岸の山並みに囲まれて、空中に浮いている感じがするところです。



ワスカラン国立公園の麓ワラス（4,736m）では、3泊4日滞在して国立公園内を3日間、3件のツアーに参加しました。

- ① 上記チェルブ山（5,495m）トレッキング。
- ② パストルリ氷河（5,200m）観光
- ③ ヤングヌコ湖（3,800m）観光

パストルリ氷河は標高 5,200m ということで、私にとっては過去最高の標高経験となりました。高山病はペルー2日目クスコ（3,400m）で頭痛がして夕食のビールが美味しく飲めなかっただけで、以降は問題なく 5,200m もクリアできました。

ワラスの周囲はアンデス山脈の中のブランカ山群（5,700m～6,700m）、白い妖精と呼ばれている山脈ですが、天候が生憎でそれらしき白い高嶺を見ることはできず、3日目夕方にリマに戻る夜行バスのバス停から、ようやく聳え立つ白い妖精を拝むことができホットしました。

16日間の長旅でしたが、自分にとっては緊張の連続、ペルーの高地での生活、自然に触れることができた良い一人旅となりました。費用総額は 40 万円で済みました。



〔アレキパ市修道院の洗濯場12ケのタライ〕

私と尾瀬の出会い

和智 邦久

私は尾瀬について何も知りませんでした。

今から 60 年前、高校を卒業して間もないときでした。上野駅からの夜行電車で沼田駅へ。午前 3 時半頃につき、もちろんバスはありません。始発の時間まで駅で始発のバスを待っている人は 20 人ほど、今と違い尾瀬はそんなに人気はありませんでしたので。

沼田駅から大清水まで、このころは鳩待峠までのバスはないので、すべて大清水から尾瀬に入る登山客がほとんど、三平峠を越えると尾瀬沼へ。ポンポン船が三平下から沼尻までありました。元湯山荘で宿泊。宿泊するにはお米を持参しないと泊めてくれませんでした。多分、1 泊 1 合だったと思います。



〔尾瀬沼と燧ヶ岳〕

翌日は三条の滝へ。このころは展望台はありません。滝壺に降りてみたいとおもい、木にロープを縛り滝壺へ降りてみました。こんなことは若いから出来たのでしょうか。滝壺には 2, 3 人ほど立てる平らな岩があり、三条の滝の水の迫力にびっくり。下田代十字路に戻り、尾瀬ヶ原を縦走。尾瀬ヶ原を見て啞然としました。



〔三条の滝〕

今と違い木道などありません。本来ならば湿地帯なので少し足が沈むと思いましたが、草原を歩いているようでした。このままでは尾瀬ヶ原がだめになってしまうのではと、初めての尾瀬に失望しました。

このころ尾瀬ヶ原がダムで沈んでしまうとの話も出ていました。周りの景色が私の脳裏に焼き付き、何回も足を運ぶことになるとは思ってもいなかったです。

山の鼻から鳩待峠への道はありませんでしたので、山の鼻小屋の裏手から山に登る急

な道のみで、アヤメ平（ここも湿原は荒れ放題）を通り、富士見峠から富士見下に抜けると、ここからバスがありました。

何故、尾瀬に行ってみたいかと思ったのは、兄が友達と尾瀬に行った話を聞いて、どういうところなのかと思い、計画し実行しました。それから、毎年のように尾瀬の周辺の山々（燧ヶ岳、至仏山、会津駒ヶ岳、平ヶ岳、笠ヶ岳、田代山、帝釈山等）、いろいろなコースを歩きました。

何故、ここまで尾瀬を歩いたかは、季節、季節で周りの景色、花々に魅了されたのでしょうか、尾瀬のとりこになってしまいました。それからは友達、山の仲間等を誘い、何回も、尾瀬には数えきれない程、通いました。現在は3年程尾瀬には行っていません。懐かしい思い出です。



〔水芭蕉と燧ヶ岳〕



〔平滑ノ滝〕

〔歩いた代表的なコース〕

- ◇御池から燧ヶ岳へ登り、尾瀬ヶ原へ
- ◇山の鼻から至仏山へ
- ◇尾瀬から只見川沿いを下り奥只見ダムまで、もちろんバスなどありません。尾瀬口から船で銀山平まで（只見ダムサイトの立ち入りは許可されていないため）ここからバスで小出駅まで
- ◇檜枝岐村から登り会津駒ヶ岳へ、ここから尾瀬御池へ、沼山峠から尾瀬沼へ
- ◇会津駒ヶ岳から途中送電線巡視道を通り七入へ、ここから沼田街道を登り、沼山峠から尾瀬沼へ
- ◇尾瀬から只見川沿いに下り、平ヶ岳へ往復 13 時間（現在は短縮路がありますが）

山小屋の思い出

佐藤 哲夫

箱根仙石原の林間学校

昭和 27 年、私は港区立竹芝小学校 5 年生であった。区立ニコニコ学園の林間学校、言わば合宿生活の 2 泊 3 日に参加した。参加費は 800 円、エンゲル係数が高い我が家では、この出費にはなかなか OK が出なかった。

到着後すぐに入浴、夕食が済み、積んである布団を敷くとまくら投げが始まる。寝る時間になり、阿部先生の怪談が始まった。「みたな」という題で、その筋はこの部屋に泊まっていた我々の様な生徒が、夜中に密かに起き出して、近くの墓場に行き、新しいお骨をしゃぶっていた。それを他の生徒がカーテン越しにのぞき、目と目が合ってしまった。翌朝首つり自殺をしていたその生徒が見つかった、と云う話だった。

おかげで寝不足のまま翌日、金時山（1213m）に登らなくてはならなかった。付き添いの佐藤先生は、新潟県高田師範出身の山猿で、せいぜい地元の芝公園増上寺さんの裏山を駆け回っていた我々を良く引っ張ってくれた。この登山が、今でも山登りを続けられることの原点である。

当時、頂上にはまさしく金時娘がいた。その後登るたびに驚くのだが、彼女の小屋で食事や買い物をした登山者だけが外のテーブルを使える。彼女のお父さんは小宮山正さんと言い、白馬岳の山頂に五十貫の標識を担ぎあげた伝説的な歩荷で、新田次郎の直木賞受賞作「強力伝」の主人公である。

滞在したニコニコ学園は昭和 31 年に建替えられて、名称も箱根ニコニコ高原学園となり、後輩たちに利用されている。しかし、我が竹芝小学校は都心部少子化の影響のため、残念ながら平成元年に廃校になった。

雲取山 白岩小屋と雲取山荘

62・3 年前の高校 2 年生の時、山岳部の Y 君と雲取山を登った。土曜日の午前中の授業を終えて、熊谷、三峰口を経て、周りが暗くなってからようやく、白岩小屋に到着。今は閉鎖中のため、近くはテント場になっている。当時も小さな小屋で私にとって初めての山小屋であった。翌朝、雲取から鴨沢に降りた。

その後、40 数年経って 2 回目の雲取は三峰からの同じコースを辿り、途中の白岩小屋を通り過ぎたが、感無量の懐かしさがあった。宿泊した雲取山荘は令和天皇が皇太子時代に雅子妃殿下を連れてお出でになったとのこと、女子トイレは立派に改装され、同行した山女（やまじょ）もほっとしたようだ。

谷川岳 天神平スキー場ヒュッテ

ここは昭和 30 年代後半、首都圏から一番近くで上質な雪が積もる絶好のスキー場であった。ロープウェイ下の田尻沢も滑降コースの一つで、帰りは

ロープウェイに乗らず滑って来られた。山小屋は雑魚寝宿泊が出来たが、今はしゃれた日帰りのヒュッテに変わってしまった。

昭和38年11月23日、アメリカは前日の22日。テキサス州ダラスでケネディ大統領が暗殺された。世界放送史上初めての画期的な実験である太平洋を越えたテレビ中継が行われ、その歴史的な電波で送られてきたのは暗殺の悲報であった。巷では早朝の番組でこれを知ったようだが、私はこの日一日たっぷり滑ったあと、小屋で夕食を食べている時、映りの良くないテレビが、なにやらケネディ、ケネディとアナウンサーが報道していた。何が起きたのか直ぐには分からず、ぼやけた映像も何度か繰り返して写し出されていた。その時、映像に映ったあのかわいらしいお嬢さんが、近時米国の日本大使になったように、今更ながら隔世の感を抱かざるを得ない。

八方尾根 黒菱小屋と八方山荘

前項と同じ時代、春スキーで八方へ行った。初めは錨の様な形をした二人乗りのTバーリフトを利用して黒菱平で滑り、宿は湿った布団の黒菱小屋に滞在。好天の翌日、スキー靴のままで唐松岳まで往復。後立山連峰を始め、剣岳や遠景の槍ヶ岳を望み、帰りはデポしたスキーで滑り戻った。小屋は空室のあったロープウェイ終点の快適な八方山荘へ移ることが出来た。今は宿泊ができたこの山荘はなく、大池へ向かうアルペンリフトの上に村営八方池山荘がある。



黒菱小屋の前 ガスの中 同宿の仲間



黒菱平から第1ケルンまでの間(五竜と鹿島槍)

立山 雷鳥荘

同じ年代、晩春の残雪と晩秋の新雪を求めて、数回立山へスキーに行った。夜行で富山に着くとすぐに朝飯の鱒の押しずしを買い、立山行き地方鉄道へ乗換えるが、いつも関西方面からの夜行が早く着くため、立たったまま立山駅まで乗車。ケーブルカーに乗り換えて美女平まで。そこからのバスは積雪の状況により、運転できるところまでが終点。荷物を担ぎ雷鳥荘まで歩くが、歩行時間は積雪により分からない。

昼前にやっと小屋が見えてくる、小屋の人たちが外で手を振って迎えてくれ、チェックイン。部屋は男女区別なし、雑魚寝の布団が窓際にまくられ、

敷布団が坐布団らしく敷かれている。昼間の部屋は空っぽで、皆スキーに余念がない。顔合わせは夕方、馴染みのない関西弁も交えて、どこから来たの？直ぐに仲間になる。布団は1組に2名、目刺状態、3人になると、頭と足を交互にして横になり、隣のくさい足が顔のそばにくる。

朝、雑魚寝の布団から抜け出して、廊下で朝食の順番を待つ。出発を早くしたために、出来れば最初のコールにて済ませたい。下手すると3回目の最終コールとなってしまう。

滑るコースは主に雷鳥沢を剣御前の小屋まで登り、剣沢小屋まで滑る。あるいは一の越まで登り、黒部湖を見ながら滑る。登りは2時間ぐらい要し、適当に登り滑りを繰り返すと、すぐに昼時になってしまう。持参した食料をガスコンロで温め、回りの風景を見ながら食べ、ご満悦になる。途中で見かける白色の雷鳥は我々を意識せず、近くでガーガーときれいとは云えない声で鳴いている。夕方、小屋に帰って温泉に入って汗を流すが、いつも湯が熱すぎて、窓を開け外の雪をシャベルで掻き出して、湯舟に入れ冷まさなければならなかった。夕食は朝と同じように列に並び、三交替であったが、一度目の量が少なければ列を並びなおし、何回も食べることも出来たのんびりした時代であった。今のようにチェックインの時に食事券の発行はなかった。夜は早い就寝だが、今日の成果や明日の計画、あそこはこうだったから気をつけた方がいいとかを話し合う。そして一日が終わる。

昭和43年、大雪崩により小屋が跡形もなく消えてしまった。霧散して残骸さえ発見できなかった。今では付近一帯は日本のスイスとして売り出し、長野県側からも黒部ダム経由で入れるようになって、多くの宿泊施設が立ち並び、ここも立派に建て替えられている。

富士山 八合目小屋

60年程前、富士吉田から夜を徹して頂上を目指した弾丸登山をした。途中で眠くなり山道で仮眠をしたため、ご来光を見逃してしまった。2回目の登山は平成2年8月新五合目まで車で登り、八合目で宿泊することにした。先に到着している者は狭いスペースで2人1組の布団をあてがわれて寝なければならなかった。小屋番は後から来る登山者のために、大きく空きスペースを確保していた。ところが目論んだ数の登山者が後から来ないと、結局スペースは空いたまま朝になる。使われなかった布団も積んだまま、まんじりとししないで頂上へ向かうことになる。

同行した倅は高校生、この矛盾に腹を立てて横にならずふてくさり、二度と富士山は登らないと言っていた。コースは西側であったため、頂上に着く前にお日様は上がってしまい、またご来光を見損じてしまった。

横浜支部 第2340回 三蓮・鷺羽・水晶・雲ノ平

平成28年8月1日（夜行）～7日、リーダーは足立さん、参加者は水鳥さん、桜井さん、私、合計4名。60年来の憧れの雲ノ平に行けるとワクワク

していた。小屋は鏡平・三俣・水晶・雲ノ平・太郎平と連泊した。

恥をかいたことを紹介すると、それは水晶小屋から始まった。小屋に入ると暫くすると恰好いい青年が入ってきた。強いオーラを感じ、彼には負けたと思った。何が？ この素晴らしい彼が誰かも気が付かなかった。思わず君は恰好いいねエと声を掛けたが、いつも言われている様なので返事もはっきりと聞き取れなかった。翌朝雲ノ平を目指し、黒部五郎を左に見て、下り始めると、ドローンを飛ばしていた撮影隊と一緒にになった。NHK衛星放送の撮影で、また例の彼が居た。出演者であった。撮影のためか、往ったり来たりしていたようだったので、我々は先行し雲ノ平小屋に着き、二人に一枚の布団に横になって休んでいたが、なにやら違う気配を感じて外へ出ると、女性たちがワイワイ騒ぎながら、交替で彼とツーショット・スリーショットしている。仲間のお二人も同様であった。私は改めて誰？と聞いたところ、石原プロの池田 努さんといわれ、やっぱりなあ、流石と思った。彼に昨日のヤッケの方が似合うよと、失礼な言葉をかけたりして、知らないとは恐ろしい。大恥をかいてしまった。現在もTVや舞台で活躍し、また画家としてもニューヨークでは個展も開いていた。

岩手山 避難小屋

直近の小屋宿泊は平成30年夏の岩手山の避難小屋。もうこれからの山登りを一生あきらめようかなと思ったほど、きつい登りであった。途中で多くの登山者に追い越され、避難小屋の小屋番の云うことには、追い越した皆さんが心配していましたよ、もう遅いから頂上はあきらめなさいとの忠告を受けたが、無理して頂上まで往復して宿泊。薄灯りのランプの下で、夕食は持参のカップラーメンを、あきらめかけた頂上を征服した喜びと共に味わった。

台湾 新高山小屋(現 玉山 3,952m)

昭和16年12月の真珠湾攻撃暗号「ニイタカヤマノボレ」はつとに有名である。翌年3月生れの私には同時代の感はないが、富士山より高い、旧日本領土の山に登ることが憧れであった。

約20年前、登山専門の旅行社の募集に3ヶ月前に申込をし、高山病回避訓練まで受けて、現地に向かった。中国との臨戦状態のためか、麓の管理事務所に日本で申請した許可が現地に通知され、嚴重な取り調べを受けた。後、登山口(2680m)に移動して、登山を開始したが、ガイドは日本語も英語も通じなく、休憩も出発もはっきりせず、頼りないリードのまま向かった排雲山荘(3402m)には、最終組としてやっと辿り着いた。夕食は既に先着が食べてしまった大鍋の中華料理の残りで腹を充たし、二段ベッドに持参した軽シュラフと備え付けのシュラフで仮寝。

早朝の出発も簡単なお粥で済まして、頂上へ。一行24名のうち10名が、寝不足と高山病による体調不良で頂上到達をあきらめてしまった。同伴した家内も根を上げたが、二度も大枚を費やすことがばからしいため、励まし励

まし、ようやく頂上を征服した。まったく悲慘な登山であった。この小屋も今は立て替えられ、定員 92 名、ゆったりと滞在できるようになったとのことである。

主催した旅行会社は、その後トムラウシや万里の長城で死者を出した遭難事故のため、廃業した。

ニュージーランド ミルフォードトラック

平成 14 年 3 月、世界一美しい散歩道と言われている、ニュージーランド南島のミルフォードトラックを個人参加で歩いた。行程は 3 泊 4 日、全長 33.5 マイル (55 km) のコースを 1 日当たり 80 名限定の者が世界各国から来ている。日本人は私と家内とオーストラリア在住の親娘のたった 4 名。オーストラリアとニュージーランドの近場はともかく、数十か国の多人種が集まり、国別に自己紹介、自国の歌を披露する。我々は「スキヤキ」で世界的にヒットした、九ちゃんの「上を向いて歩こう」を歌った。I HATE A WALK など冗談を云っていたカナダの医者もいたり、お互いの国をふざけて悪く云ったり、ピアノの弾き語りで盛り上がった。

泊まった小屋は二段ベッド。寝具、洗面、シャワーも用意されていた。洗濯は別棟で行い、自動洗いであるが、搾りはグルグル回す前時代の物、乾燥室は別にあり、食事は 3 食ともセルフサービス、うち昼食は朝食後に各自サンドイッチを自作して持参する。

4 日間の歩行時間は 2 時間から 7 時間、泊まる山小屋によって歩行時間の長短が決まる。難易度は初級であるが、ジグザグの登りもあり体力度は中級を要する。歩行の列は前後にリーダーが付き、2 km から 5 km の間に入っていれば逸れることはない。歩行中や小屋でやたらに話しかけられる。お互いの国のウォーキング事情などをたどたどしく会話した。

最後の 4 日目はヘリコプターによる荷物の運搬サービスもあり、疲れた御仁は利用していたが、我々はコース完遂を目指したので、自分で担いで終わった。素晴らしい景色、多くの外国人、豊富な食事など、皆さんに推薦できるコースと思う。



〔2004 年 3 月 ニュージーランド
3 日目のマッキノン峠にて〕

世界一高い所にあるホテル と 世界一低い所にあるホテル

水鳥 妙子

旅行好きの人の中でも、両方のホテルに泊まった事のある人は少ないのではないかと思います。

一番高い所にあるホテルは、ヒマラヤ街道の 3880m にある「ホテルエベレストビュー」です。目の前にエベレストが見え、おいしい日本食も食べられます。欠点は暖房設備があっても寒さであまり温かくなりません。部屋には小さなヒーターがあっても 9 時になると消えてしまいます。3 月とはいえ、外は 1 メートル位のツララが下がる。寝袋に湯たんぽがこんなに気持ちよく寝られるのは驚きでした。冬は湯たんぽの愛用者になりました。ホテルからは朝日に輝くエベレストは残念ながら見えません。



一番低い所にあるホテルは、イスラエル側にある死海の保養所です。死海のそばには手つかずの塩の山があります。どんな人でも手足を伸ばせば浮きます。

シーレベル約 500m も下に街があり、木々あり、花ありです。世界で一番酸素濃度が高いこともあり、ゼンソクや皮膚病アトピーに良いと言われ、世界中から保養に来ます。

ホテルはごく普通でした。海より低い所にあるのが感じられない不思議な空間でした。

イスラエルはキリスト教徒あこがれの地です。歴史いっぱい国でもあります。行ってみたらいかがでしょうか。



〔2010 年 3 月 22 日 死海にて〕

2021・はる

鈴木 国之

シモバシラ(泰光寺山) 2021.01.09

泰光寺山を知ったのは日本百低山、小林泰彦氏の書籍でした。北東側の尾根を登る記述を読みました。

正月明けの 9 日に同じバリルートの北東尾根を登る。尾根の末端付近は立ち入り禁止の看板がいくつもあり、登れません。尾根の反対側に廻り込み、神社からヤブコギをして尾根へ。尾根まで登ると普通に歩ける道になり、山頂直下まで登る。そこに「シモバシラ」の氷の花があった。



春めき桜(鐘ヶ嶽) 2021.03.07

登り始めてから約 1 時間半で山頂に着いた。早速ピンクリボンに導かれ北面のバリルートに入る。途中の福神山には標識もあった。別所温泉東面の尾根に入る。道が不明瞭になったが下の方に満開の桜が見えてきた。それが「はるめき桜」だった。ソメイヨシノより 2 週間ほど早咲きの新種。南足柄で生まれたそうだ。だれも訪れてこない花見の席を楽しむ。



カタクリ(みかも山) 2021.03.22

大平山・馬不入山を登った帰り道にみかも山公園に寄る。二等三角点の中岳へ登り、麓にあるカタクリ群落地を目指す。斜面いっぱい「カタクリ」の

花がそこにあった。



ニリンソウ(泰光寺山) 2021.03.30

3ヶ月近く過ぎて春たけなわの時期に、入沢川から西山峠のルートを歩く。山麓にある貴布祢社にある小さな池には水芭蕉とザゼンソウの花が見え、人目を引く。

川沿いの道を行くとまもなく道幅も狭くなり、やがて登山道になり、沢にはニリンソウがぼつぼつ咲き始めます。峠直下まで登るとニリンソウのお花畑が広がり期待以上の群落の美しさに感動。



アカヤシオ(宇都宮アルプス) 2021.04.03

宇都宮アルプスと呼ばれている榛名山、男山、本山、飯盛山、高館山、黒戸山を縦走。本山付近はアカヤシオの花が特に多い。ピンクの花が風にゆれてキレイ。



東国ミツバツツジ(王岳) 2021.05.29

3度目の王岳。西入川に沿った林道を歩いた後、登山道に入る。何回もジグザグの道を行く。急登を登りきると尾根状になり1623mの王岳山頂に到着。東国ミツバツツジの咲く花の向こうには残り少ない残雪の富士山が見えた。



イワカガミ(安達太良山) 2021.06.09

安達太良山に登ったのは約40数年前で記憶もほとんど無い。今は山麓からロープウェイもあり比較的楽なコースが取れる。運悪く訪れた日はロープウェイが運休だった。

山麓から登っていくとまもなく「イワカガミ」のピンクの花が咲いている。暑いさなか、何とか山頂まで登った。一日のコース中至る所で「イワカガミ」の姿が目に入った。圧倒的な存在だった。



あとがき

春になると、私が花から花へと山旅をしているのを昔の支部の仲間が知って、花追い人(養蜂家)の様だねと言われた。その方も昨年、逝かれてしまった。毎週のように花の写真を出す事も無くなった。341通のやり取りも。341通目に頂いた写真は春先の北ハツの雨池だった。

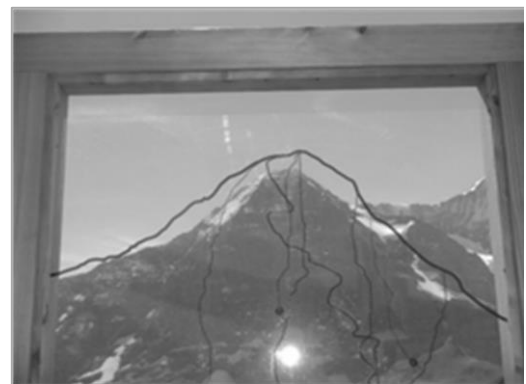
楽しんでアルプスの絶景を散歩する

西川 重昭

厳しい山や特筆すべき経験などは他の方々にお任せして、ここでは、楽しんで絶景を楽しむというお話です。



2015 年の夏に、スイスへ行きました。グリンデルヴァルトに 3 泊して、登山にもハイキングにも達しない程度の散歩をしてきました。アイガーから谷を隔てて 7 km のところにある、メンリヒェン (2343 m) という山です。ほとんど頂上までゴンドラで行きます。そこには、ブランコやハンモック、遊動円木のような、古典的な遊具付きの遊び場があり、アイガーを眺めながら子供たちを遊ばせるわけです。アイガー北壁の攻略ルート案内付きの透明パネルも用意されています。



ここから、連山を眺めながらの遊歩道が始まります (山は、左からアイガー、メンヒ、ユングフラウ)。なだらかな広い散歩道が縦横に走っています。高々 100 m 程度の高低差で、十分に峰を望み、谷を覗き、お花畑を楽しみ、池を一周し、草原でサンドイッチを頬張り、牛の群れと遊ぶ、という散歩が一日中楽しめます。自転車はもちろん、赤ん坊をバギーに乗せてぶらぶらす

るのも全く問題ありません。定番の、三峰を背景にした記念写真も撮りました。こういう雰囲気は、日本では味わえないですね。ある意味で『俗化』の極致ですが、最高に爽やかです。



せっかくのアルプスなので、前の日にはグリンデルヴァルトから古い登山鉄道に乗ってユングフラウヨッホへ行き、定番中の定番、雪に覆われたユングフラウを、巨大なアレッチ氷河の最上部から眺めました。また、もちろんチーズフォンデュとかグリュイエールチーズとかの研鑽にも励みました。



また、観光都市ルツェルンに近い、「山の女王」とも呼ばれる、リギ（1797 m）という山にも登りました。船とゴンドラと登山電車と徒歩を随意に組み合わせ、ピクニック気分で頂上まで行けて、たいへん人気があります。途中の広場でバーベキューを楽しみ、最後は急坂と楽な坂が用意されていて、4歳の孫たちは真っ先に急坂を歩いていきました。頂上は、湖と町と遠くの山々を望む展望台になっています。

眺めの良い山はどの山もこうなってしまう、ということではありませんが、ゼロ歳の赤ん坊も、足腰がひどく弱っても、ちゃんと楽しめる場所が確保されているというのは、たいへん頼もしいことです。日本でも、住み分けはあっても、いつまでも多様な楽しみができるようになるといいなと、痛切に感じました。

以上

花の追っかけ

棟方 千恵子

若い頃から縁あって不思議とまわりには山好きがいた。そのうちの一人が花好きでした。

まずは年明け、陽ざしが柔らかくなると、花を求めての彼女との一年がスタートします。

情報を得た方が計画し、気に入ると2度3度と通い続ける。まだ咲いていないと咲き頃に又足を運ぶ。

私より五歳若かった彼女は、今はもういない。

そんな懐かしい彼女との思い出となる、花の追っかけを綴った投こう文を新ハイキング誌の「せせらぎ」に載せたことがある。

4月6日夜、「青春18切符＋ムーンライトえちご」を利用して花好きの友と新潟の角田山へ、夜行日帰りの花の追っかけに出かけました。うわさの通りカタクリ、ユキワリソウの大群落、おまけにキクザキイチゲ、ショウジョウバカマ、イカリソウなども咲き競い、まるで花の楽園と心はハイテンション。

花で夢中で帰りの電車の度々の乗り換えで、ずい分遠くまで来たのだなァー、とその時はじめて気がつきました。車窓からの真白な越後の山々を眺めながら、暗くなるまで雪国の世界を楽しみました。急ぐ旅でなかったらローカル線に限ると思った。心癒された長い一日でした。



〔 カタクリ 角田山にて 〕



〔 オオスミソウ(雪割草) 角田山にて 〕

次第に下山後の温泉へと向きを変えていますが、足におまじないをかけて、もう少し続けてみようかなと思っています。

「靴を磨く」 趣味から道楽へ 雑感

井上 忠秋

いつの頃からだろうか。「趣味は何？」と聞かれるようになったのは。そして「山登りを少しと旅が好きです。」と答えるようになったのは。

幼いころから何かに夢中になるということは誰にでもあるし、私も小学生の頃に野球に夢中になり、そのあとは軟式テニスだった。今は硬式テニスが全盛だが、テニスをはじめた当時、硬式ボールはほとんどなかったし、テニスコートも少なかったと思う。もっぱら運動系の遊びばかりに夢中で、文科系の遊びは関心も能力もなかった。

顧みると一番楽しかったのは小学校低学年の時に学校行事の遠足だった。

野毛山動物園、桜ヶ丘公園、西谷浄水場が特に印象に残っている。これらはすべて学校から歩いて行ける場所であり、初めて見るものばかりでキョロキョロしながら歩いた。高学年になると公共交通機関を使ったやや遠距離の遠足で社会見学になっていった。

本題の趣味とは・・・自分の好きな事柄や興味のある分野に傾倒することとある。

自分の自由な時間に好んで繰り返し行う遊びや行動やその対象のことであり、その対象物の持つ趣き、それを鑑賞し味わう能力をいうのだそうで、例えば読書、絵画、音楽鑑賞、旅、野球、ゴルフ、麻雀、釣り、エトセトラ、どれでもその対象となりうる。

見て感動し、心の安らぎを求めるためにいい汗を流すと心身共にサッパリする。これが私の最高の至福の時である。旅と登山への傾きは子どもの時から芽生えていたものと思える。

若い時の旅や山行はもっぱら夜行列車を利用し、より遠くまで一筆で行く国鉄の周遊券を利用した。当時は日本全国に夜行列車が運行され、今の高速時代と違った時間の有効利用という便利さから多くの人に愛用された。このころジェリー藤尾が歌う「遠くへ行きたい」が流行っていたと思う。

私には今もその思いが色濃く残り、「青春１８きっぷ」や格安自由切符を利用しての旅を楽しんでいる。見るのも、歩くのも文化、足の向くまま気の向くまま「青春１８きっぷ」を使ってボヘミアーンと参ろうか、の境地を愛するものである。

さて、登山、ハイクは専ら歩くので足裏で土を踏み、足指で石を咬み伝わる感触の確かさが心強い。目で見える、見えるもの、そして肌にうける空気や

耳に入る小鳥の鳴き声、木々の囁き、強風に軋む枝鳴り、火山地帯の地鳴り、温泉の香りと露天風呂の解放感、すべてが五感に満足をくれる。どこの山々も四季折々にその変化が色褪せない素晴らしさをくれる。一方では山々をガムシャラに歩き回るのも面白い。

以前は中央線の夜行列車を利用して山に行くと、よく白装束の御嶽講の人達と乗り合わせることがあった。今も名山といわれる山に、富士山講、御岳講、月山講、立山講、大山講など数多くの講がある。講中の皆さんは共通の目的で苦楽を共にしながら喜びを得るために、大先達に導かれ行を共にしている。山に入ると「六根清浄、お山は晴天」と唱和し、山頂を目指す。

こう考えると私たち新ハイ横浜支部の仲間たちも山を愛し、信ずる講を作り、山に修行と遊びを求めているようである。

北海道の山を除くと国内の山にその痕跡が至る所にあり、特に岩山に多い。ここらを訪ねると剣呑な岩場があり、滝、鎖場、こんなところまでもというくらいのやせ尾根もある。

いろいろ難しいことを考えていたら疲れてきた。ここで「盛升」を一口、二口頂いて休憩しよう。

ところで趣味が高じると、道楽に移行するらしい。「道楽」は前後を忘れ趣味にのめり込み、酒・色、競輪、競馬、博打などに耽り、とどのつまりは道楽で身を持ち崩すまで血道をあげる。まさしく遊興三昧の境地に達することといわれる。私も願望するもその境地に達することが出来ないのが小人の辛さ。

いろいろやってはみたが、満たされたものが無かったなかで、山登りと旅が一番身体共に満足を与えてくれた。今は寝ても覚めても今度はどこの山へ旅に行こうか浮かんでは消え、消えては浮かぶのが習性になってしまったが、これも人生でしょうね。

さあ靴もきれいに磨き終わった。明日の山行が楽しみだ。おっと、いまは新型コロナで外出禁止だぁー。みんなすべて夢の泡か。ああ邯鄲の枕か。

やれやれ病コウモウの境地にいれば本望だが、周囲にはご迷惑なことかな。道楽におつきあい下さり感謝し、おつもりには「丹沢誉」が良いですね。

時下 新型コロナ禍真っ只中です。どうぞ皆様におかれましてはご自愛され、更なるご活躍を祈念し、私の御礼とさせていただきます。



正月の風物詩「おんべ焼き」

足立 忠彦

私の住む町 横須賀長沢地区では1月の中頃、海岸で火祭り「おんべ焼き」が行われます。

「おんべ」とは「御幣」のことで、地域によっては「ドンドヤキ」「サイトヤキ」など呼び名は様々です。

約10mの高さの「おんべ」は、中央に御神木（松の木）を立て、真竹、篠竹で囲んで固定する。下から順に正月飾りや御幣がくくられ、これを焼いて家内安全と無病息災を祈る。残り火で餅を焼いて食べると風邪をひかないとの言い伝えもあります。

組み立てから火入りまでを写真で紹介します。



① 御神木根本



② 御神木抑え



③ 真竹で囲む



④ 篠竹で囲む



⑤ 完成



⑥ 当日



⑦ 点火前

⑧ 点火⇒



⑨ 火入り



⑩ 日の出



老い耄れ山屋の戯言

青柳 征勝

この年丁度傘寿となり、体力の限界を感じ始め気力も段々遠退いて行くようになった。

若い時から山登りに興味を覚え、この年まで続くとは考えてもいなかった。高校の時に尾瀬ヶ原に行ったのが始まりで、大学時代は山登りに没頭して仕舞ったくらい山が好きだった。

当時同じ釜の飯を食った仲間は山登りから遠ざかって疎遠になっている。今は新ハイの仲間と、軽い山行にお供させて頂き、楽しんでいる。

振り返って昔登った山々を、記憶をたどって思い出そうと思っても、登った山の名前は思い出すけれど、周りの景色や状況が中々思い出せない。50年も60年も前の山行は猶更だ。

同行した仲間と当時の事を語り合う時は、お互いに「ああだった」とか「こうだった」とか言い合って思い出すが、だんだんその仲間と会うことも少なくなり、寂しさが歳とともに増していく。

若いころは山行計画に明け暮れ、山岳文学と言う紀行文を読み漁り、面白そうな山を見つけ、時刻表と五万分の地図を片手にしてコースを計画し楽しんだこと。それを基にしてよく仲間と登りに行ったこと。計画だけで実施しなかった山等、沢山思い出してしまう。登らなかった山行も記憶だけは残っていたりして、登った人との会話も出来る楽しみがあった。

最近はインターネットという便利なもので調べられ、思い込みの山行が少ないのではと考えてしまう。やたらマスコミの宣伝に乗った山案内の所だけ大勢の登山者が集中し、つまらない山にしてしまう様だ。登山者の多い山道で、やたらとクマよけの鈴を鳴らし、ラジオ迄鳴らして歩く人間が増え、静かな山の雰囲気壊すのが居る。ただ山に行くのがブームになり、登ったことだけを自慢したいハイカーになったのではと考えてしまう。

樹林の中を、さわやかな木々がわずかな風にささやき、野鳥の鳴き声を聞きながら、遠くの山並みを眺めて歩く楽しみ。足元の野草の花の名を思い出しながら歩く楽しみ。こんな考えの人間は少なくなってしまったのだろうか。この楽しみが何時まで続くか覚束ない年になってしまった。「昔は良かったなあ」とは言いたくはないが、健脚の者達に付いて行けない寂しさに、昔の自分と重ねている。残りの人生あと幾許も無いので、ゆったりと山歩きを楽しめたらと思う。



二本杖について考えてみました

渡部 道明

1. 序

最近、TVで登山・山歩きの番組が多く見られるようになりましたが、なかでも私は田中陽希の「グレートトラバース3 日本三百名山一筆書き」と同シリーズの二百名山・百名山で、超人的な体力、自然環境を受け入れる研ぎ澄まされた感性、更に行動前の綿密な用具の準備点検、当然ながら体調維持の手入れなどなど、大いに興味をそそられ修得中です！

田中陽希トレッカーの用具のなかで特に気になり注目しておりますのが、ノルディックポールと称されています「二本杖」で、其の使い方の多様さ、合理性と素晴らしさに感服です。

私が2ポールに興味を持ちましたのは、羊歯前号に記しました支部山行での左脚大転子骨折です。手術後リハビリ専門課程を終え、自主トレーニングとして毎日の歩行練習の為引っ張り出したのは、スキー用ストックです。先端の石突にポイントプロテクターを取り付け、2本杖として手術後の回復期に転倒防止として使いだしましたが、如何せんスキー専用ストックであり、奇異な目で見られたものでした。

横浜市には日産スタジアム内にスポーツ医科学センターが在り、スポーツによる障害の治療・リハビリ・自主トレーニングの指導などを受けられますが、ポールを使っての歩行指導はプログラムにはありませんでした。従って当時はスキーツアー時のストックワークを思い出しながら、又4段ポール2本を入手し、家の周辺から歩きだしました。

2. ポールを使用した歩き方の大別

ポール選定を始めて戸惑いを感じましたのは、歩き方についての考え方が異なり、それぞれに使われるポールに好みがあるようでした。ウィキペディアによると

1) ノルディックウォーキング

もとはクロスカントリーの選手が、夏の間の体力維持・強化トレーニングとして、ストック・靴で積雪のない山野をあるき回ったのがはじまりであり、北欧ではスキーウォーキング、ポールウォーキングともよばれています、1930年代にはじまり、ポールを持って丘を歩く、使用するポールには下肢への負担を減らす役割もあり、北欧では老若男女誰でも親しめるスポーツレクリエーションとなった。

2) ノルディックウォーキング(ポールウォーク)

1997年フィンランドでは本格的に普及活動に入り、現在(2007年)約800万人(総人口の16%以上)が週一度は楽しんでおります。2本のポール(ストック)を使って歩行運動を補

助し、運動効果をより増強するフィットネスエクササイズの一つでもある。日本でも近年、エクササイズやフィットネスの一つとして広がりを見せている。冬季オリンピック等で人気が高い「クロスカントリー」は、雪の積もった野山を選手が駆けるスキー競技の一つである「ノルディックスキー」で、選手は 2 本のストックを必要に応じて体の保持、推進力になるよう使っております。「ノルディック・ウォーク」はフィンランドで始まりました。

日本での分類としてはボールの使い方で推進力にするのを「ノルディックウォーキング」、歩行を補助するのを「ノルディックウォーク」あるいは「ポールウォーキング」と呼び区別しており、其の普及啓蒙の為に

前者には NPO 法人 日本ノルディックウォーキング協会

後者には 一般社団法人 日本ノルディックウォーク連盟 があります。

この差を考えると、足の運び方とボールの組み合わせ、更に、ボールの扱い方法に大きな違いがあり、従って用具に差が出来たと考えられます。

ノルディックウォーキングの場合、用具はごく普通であります。又、歩き方に特別の指示はありません。ノルディックウォークでは、ボールに専用ストラップと石突に専用パッドを取り付け、歩行は前脚の踵付近か、さらに後の地面にボールを突き、そのまま後方に押し出して推進力とします。このため、通常のウォーキングよりも歩幅がやや大きくなり、歩行速度がアップします。そのあと、手、腕の動かし方にもノウハウがあり、1 分間に 110～120 歩程度で歩幅を大きく取って歩けば、エネルギー消費量が 40～50% アップし、メタボリックシンドローム対策として有効である、とされております。

3) 登山・山歩き用

一本杖と二本杖から選べます。登山の場合、先ず登山口までの平地の歩き（省力で出来るだけ早く歩くための推進力）、登りの際（体重＋荷物加重のリフトアップ推進力）、下りの場合の着地の際（体重＋荷物重量の着地衝撃力吸収）、不安定な登山路でのバランス確保（滑りやすい斜面・浮き石・落ち葉に隠れている無数のリスクの予知検知）、体調不全時のお助け等々を考えると二本杖となります。ダブルストックワークのうごきから 4 本肢としての作業としますと足に無理な力が掛からず手・上腕も同時に使う全身運動になり疲労の軽減となります。

従ってボールには強靱で軽量の素材で、シャフト本数、繋ぎ方での収納性、身長・使用時の山岳地形でグリップの位置を変化可能な形状、若しくは 2 段グリップ、その他ストラップ・バスケット・石突チップ（ポイントプロテクター）等各種の製品が使用されております。

岩場や岩稜などの登山では 3 点支持が必要となります。その際杖はザックに入れ、両手はフリーにしておく事、又グリセードには絶対に使用しない事、それ以外は総ての場面で、例えば降雪時でも積雪用バスケット（つば）に交換することで対応できます。

4) 医療・介護における健康維持用として

医療、介護の場合、65才以上の要介護認定の原因で、約10%が転倒による骨折と言われております。筋力低下やバランス機能低下であり、手術後の回復期のリハビリテーション、或いは健康状態に合わせての日常の運動にも転倒防止としての二本杖の使用が3本脚、4本脚として機能する必要が有ると考えられつつあります。いずれも、つまずき・ふらつきで転倒・骨折を防ぐ予防としての2本杖ウォーキングです。ポールを使う歩きで全身体の90%の筋肉を動かす前進運動で、有酸素運動でもあり、フィットネス効果も期待できます。その要点を記しますと

- 3点で体を支え両足と2本の杖で4足歩行
- 膝、腰、足首など関節にかかる負担の軽減で楽に歩ける
- 適度な運動と仲間とのコミュニケーションは認知症予防に効果があり更に知的活動を組み合わせると効果が増大する。(厚生労働省認知機能低下予防支援マニュアル)
- ポールが在ればどこでもできる為、手軽に始められる。

以上の効果により多くの愛好者に使用されておるとのことです。

3. 私のウォーキング流儀

横浜市南部地域には未だに未開発の森林や農地が点在し、広い「市民の森」が各所に造られており、それぞれが小さな里山状を呈しています。これらを繋ぐ道が絶好の散策コースとなり、ウォーキングに最適です。

更に足を伸ばせば三浦半島の低山、丹沢前衛の山々、箱根の山群、歩きたい、山歩きしたい、登山したい、と気持ちは逸りますが、身体がついていかず諦め嘆くのみ、の現状です。

私、脚の長さが事故後10mmほど短くなり、インナーソールで調整し、リハビリ、トレーニングしておりますが、その効果は加齢による体力低下のスピードが速く、運動能力の低下が止まらずお手上げ状態です。まちなか歩き以上のハードさが必要な場面では、小生の2本のポールはわが分身として常に同行しております。

1) 日常のウォーキングコース

最も手軽で安全なロードとして、横浜環状2号線沿いを流れる永谷川周辺の道々です。春には河津桜から大島桜を楽しみながら往復4~7km、変化可能なコースで1.0~1.5時間程度です。

公園では舞岡公園、瀬上市民の森、足を伸ばせば横浜市民の森などです。坂の度合い、時々風の流れ、四季ごとに代わる路傍の草花、木々の色合いの変わりに喜びを感じ、時には落ち着きのある住宅街や町並みの小さな変化を楽しみながら、勝手気儘な歩きをしております。勿論ポール2本共で、気にすることは歩幅と姿勢？です。

2) ウォーキングの作法

- ◇自宅周辺の散歩道で、気分をよくする精神安定剤の感じ
- ◇先ずストックを１本ずつ短く纏め、各々を両手に持ち大きく前後に振り、通常歩幅で150～200m歩く。身体全体の動き、バランス感覚の調整と確認。
- ◇其の後ポールを適当に伸ばし、「ノルディックウォーキング」スタイルで姿勢改善、歩幅アップを主目標として歩く、ポイント設定し歩数、タイムを記録
- ◇丘陵・山岳地形の登り降りに入れば、4足歩行によるリズムとバランスを確保し体力維持に集中

以上により足腰の筋肉の柔軟性、腕力増強，姿勢改善が徐々に身につき大命題である「健康寿命をのばす」ことが可能となると信じております。

4. 参考として

新ハイの先輩 村井 葵氏(※)が、新ハイキング 505 号 (1997 年 11 月号)に山のレポート「杖の効用」を記載されております。その要旨を述べますと

○杖に縋るとも人に縋るな

山の急斜面で転倒は大変で、杖は中高年には必需品。若年時とは異なり加齢と共に反射神経や平衡感覚が鈍り、視力も衰えた為、自分で種々工夫加工した杖を使い老化の進行を抑える、自己管理できるのは自分だけである。

○リズムとバランスを保つために

老化を防ぎ山歩きの為には、足腰を 24～25 才までの瞬発力を鍛える若者時代の速筋繊維強化よりも、長く持続する遅筋繊維を鍛えたほうが良い。ゆっくりリズムカルに歩くことで腿の筋繊維が弾力を増し足腰の強さを持続しうる。

○4 足歩行のすすめ

1953 年 ナンガ・パルパート (8125m) を単独登攀生還したヘルマン・プールの手にはスキー用ストックが握られていた。其の後、僕 (村井) はチベットの未踏峰登りの際、ダブルストックを使い四肢で歩き、氷河歩きや雪稜では随分重宝した。

と記し、四肢で登ると足に無理な力がかからず、脚力が柔らげられるのです。両手を使うので全身運動にもなります。そして特に膝や足首に大きな負担のかかる下りでは、ショックを柔らげることができます。



※ 渡部 (注)

村井 葵氏は新ハイキング誌 2000 年 2 月～2003 年 3 月迄、数多くのヨーロッパ・アルプス山脈各峰の登山紀行文を記載されています。

旅のはなし

池田 邦雄

私にとって旅は生活のすべてで、登山はその旅の一部です。

小さいときから放浪癖があり、家を出て徘徊し帰路を失い途方に暮れたことが何度かあります。見知らぬ人に連れられて家に帰った記憶もあります。いまだに、迷子になり途方に暮れたときの恐怖を夢に見ることがあります。幼少期ボーイスカウトに入り、野営や登山の基礎訓練などを受けて、ますます山野放浪が身についてしまいました。

中学・高校時代の先生は、学徒動員で出征し、帰国後教師になった若い方が多く、先生というより兄貴という方が多くおいでになりました。理想に燃えた先生や先輩方に恵まれ、薫陶を受けて旅や登山を中心とした生活が生涯の習性となりました。

昭和 20 年代後半から 30 年代の始め、登山は学生か一部の専門家や好事家の領域で、現在のような有人の山小屋はあまりありませんでした。無人の山小屋には、前に利用した人が残したジャガイモや玉ねぎなどが置いてあるのをよく見かけました。登山には食料・水・鉋など必須でしたから、ザックは大きく重くなりました。当時はその重量表示は貫と言っていました。私は四貫を越すと耐えがたい苦痛を感じました。靴やシュラフは米軍の放出品、初期にはシュラフなど使えませんでしたから厚い軍用の毛布でしたが、冬場は小屋の中でも毛布をかぶって寒さに耐えて過ごしました。朝、目を覚ますとまつ毛や髪の毛の一部、毛布のへりに自分の息が凍って張り付いていることもありました。

昭和 30 年代前半は、登山に便利な路線バスは多くなく、奥秩父や南アルプス北部へは塩山や韭崎・穴山駅などから歩いて登山口へ向かいました。登山とはそういうものだと思っていました。

その後いつとき、将来は山野を職場とする国立公園管理人のような仕事につきたいと思ったこともあります。社会人生活も終盤に近い 50 代中ごろに、一般旅行業主任者（現在は総合旅行業務取扱管理者という名称に変わっているようです）資格テストに挑戦してみました。この受験に際しては日本語教育・難民支援などのボランティア活動などで知り得た外国語や外国の地理歴史などの知識が役に立ったように思います。

山へ行く目的は人により時により様々ですが、共通しているものの一つに、予期せぬ出来事や物に出会うことがあるように思います。当時山へ出かけるということは、情報も十分でなく冒険感もありました。あの芭蕉も奥の細道紀行出立にあたり、「三里に灸すゆるより松嶋の月まづ心にかかりて…」と、期待感、ドキドキ感を記しています。花を求めて山や野へ出かけることがよくありますが、予期せぬ時に予期せぬ花などに出会ったとか、予期せぬ山が見えた時などのあのドキドキ感のようなものも旅の喜びの一つです。

山道を歩きながら、漱石先生なら色々深い考え事をなさるのでしょうが、私の場合いつのころからか道中で出会う様々な光景や出来事に触発されて、昔読んだ古歌や詩歌の一節などが浮かび上がって来るようになりました。華やかな満開の桜花の中であって、「願はくは 花の下にて 春死なむ その如月の 望月のころ」と西行法師が歌ったことはよく知られていますが、坂口安吾は桜の下に妖気を感じ、それを小説に書きました。その本を読んで以来、私も満開の桜に何となく妖気を感じずるよ

うになりました。

2017 年 3 月から始まった芹沢さん企画の「北国街道」歩きに参加させていただきましたが、信濃路・越後路では多くの歌や詩を思い出させてくれました。

出発点の追分は浅間山の麓です。「からまつ林を出でて…浅間嶺にけぶり立つ見ゆ。からまつのまたその上に 白秋」。旅は千曲川に沿って進みますが、「暮れゆけば浅間も見えず 歌かなし佐久の草笛 千曲川いざよう波の 岸 近き宿に登りつ 濁り酒濁れるのみて 草枕しばしなぐさむ。…この命なにをあくせく明日をのみ思ひわづらふ 藤村」。など、この街道歩きはセンチメンタルな気分が始まりました。

信濃路は林檎の街道でもありました。白く清楚な林檎の花への思いは、「まだ上げ染めし前髪の リングのもとに見えしとき 前にさしたる花櫛の 花あるきみと思ひけり 藤村」。初々しい少女の姿が思い起こされ、思わず周囲を見まわしました。でも実際に見えるのは摘果にいそむ私と同年輩の人々ばかりでした。

転じて空を見れば、まだ山頂に白雪を抱く北信五岳が美しく立ち並びます。五岳の峰々は「山のあなたの空遠く 幸いすむと人の言う…山のあなたのなほ遠く 幸いすむと人の言う」。カール・ブッセの 60 年も 70 年も前に読んだ詩の一節が湧き出てきました。ブッセは、幸いとは結局永遠に手の届かない幻だと言うのでしょうか。

古い街道を歩いていると、道沿いの神社などの境内の隅に苔蒸した大きな忠魂碑「〇〇上等兵の碑」などというのをよく見かけます。見ると日清・日露戦争時代に散った青年たちの碑です。それらを見るたびに「ああおとうとよ、君を泣く、君死にたまふことなかれ…親は刃をにぎらせて 人を殺せとおしへしや、人を殺して死ねよとて 二十四までぞだてしや…」。理不尽な戦争は与謝野晶子に悲痛な歌を詠ませました。こうした碑の多くは、明治期の戦争で犠牲となり英雄視された若者たちへのものでしたが、第二次大戦期では、兵士の死は水漬く屍、草蒸す屍が日常になっていたのですから、銃後の人々に碑を建てる余裕はなかったでしょう。兵士の死は「バラの木にバラの花咲くなにごとの不思議なけれど 白秋」。もちろん白秋は自然の神秘への静かな畏敬を詩に認めたのだと思いますが、戦争指導者達にとって兵士の死はどれほど多くても、それは想定内で何の不思議も感慨もなかったでしょう。

旅の詩人と言われる若山牧水もゲーテも、そして多くの旅を愛する人々が「旅の目的は、ゴールに到達することではない。旅の過程を楽しむことだ…」と言います。旅を続けながら変わりゆく情景に触発されて、いろいろな詩歌の断片や思いが湧き出てくるというのもまさに旅の贈り物ではないでしょうか。

長い急登を息を切らせて苦痛に耐えて歩いているとき、ある先輩がその苦しさこそ登山の楽しみの一つだと分かるようになれば一人前だ、と言いました。山頂へ至るいくつものピークを越しながら、趣意は違いますが「分け入っても 分け入っても青い山 山頭火」。あの句のリズムが浮かびます。単独行の小屋の中では「『寒いね』と 話しかければ『寒いね』と 答える人の いるあたたかさ 俵万智」。や「咳をしても一人 放哉」。などの句がよぎります。「白玉の 齒にしみとおる 秋の夜の 酒はしづかに 飲むべかりけり 牧水」。とはいえ一人より二人の方がやっぱり暖かいです…。

早春の沢沿いの登山路で出くわす小さな沢に、「石激しる 垂水の上のさわらびの 萌えいずる 春になりけるかも 志貴皇子」。万葉集のこの歌は、急峻な小さな沢を雪解け水がしぶきを発して

勢いよく流れ下る様と、かすかに雪が残る岩間に生えるさわらびの対比が鮮烈な印象を与えてくれる好きな歌です。深山で鹿の声を聞けば、「奥山に紅葉踏みわけ・猿丸大夫」。大空をゆっくり流れゆく一筋の白雲を見上げるとき、「おうい雲よ ゆうゆうと ばかにのんきさうじゃないか どこまでゆくん だ ずっと磐城平のほうまでゆくんか 山村暮鳥」。と雲に声をかけてみたくなります。山頂をあとに沢の音が聞こえてくるほどの高度まで下って一服しているとき、かすかな沢の音と木々を渡る風の音は「山川に山がはのおと からまつにからまつの風 白秋」。風の音も沢の音も時に開放と安堵を感じさせてくれることに気づきました。山旅も日頃感じない多くの旅情を掻き立ててくれます。そして最後に決まって兼好法師の「徒然草第百九段」をかみしめて慎重に山を下ります。第百九段については、高名な木登りの男の逸話を時々同行の方にも話します。また言ってる・・・と思った人も少なくないかもしれません。

登山を目的に出かけて、諸事情で目的を果たせず帰還したことは数多くあります。そんな時また来たい山が残った、と納得しますが、最近はそのも言うていられなくなりました。長い間の同行の友が次々引退してゆくのです。いつまでも先があるという訳ではないことを周囲から知らされます。

数年前から、かつて交遊があった学生時代の友人や、社会人となってから世話になったり一緒に仕事したりした間柄であっても、何十年も会っていない先輩後輩を訪ねて歩きたいという思いに駆られ、年 1～2 回気ままな旅に出かけます。気ままであることのあかしに、青春十八きっぷを駆使して乗り鉄気分で移動します。尻が痛くなることを除けば、鉄道の旅ほどわくわくすることはありません。

全国の JR の駅の数はおおよそ 4600 あるそうですが、いろいろな町や村を普通電車が律儀に止まりながら通り抜けると、先輩や友人などからよく聞かされた彼らのふるさとやゆかりの地名を見聞するにつけ、あれはこのあたりだったのかと懐かしさが湧いてきます。

そのつど彼や彼女はここで生まれ育ったのか、今どうしているか、幸せに過ごしているのだろうか・・・など、胸の奥に長く眠っていた思い出ポットの蓋が自然に緩み、それらの人々との過去のやりとりの場面が思い出されて懐旧の情に浸ることもしばしばです。帰ったら手紙をだしてみようか・・・、いや・・・などの自問自答も思わぬ楽しみです。車窓の風景に飽きると、時に般若心経を唱えたりして時間をやり過ごします。

はじめは主に上司、先輩から訪ね歩きましたが、この二、三年は会える人が少なくなってきました。最近と同級生や後輩にも会いにくくなってきました。電話や手紙で趣旨を伝え、当方からお宅へ出かけることをつたえても、本人や家族から体の状態を理由に断られることも時々あります。もっと早く訪ねていれば良かったのにと悔やむことも多くなりました。昔話をする相手がだんだん少なくなっていきました。

いつの間にか私は山の彼方に来てしまったように思います。既に世の中への責任も能力の範囲で果たしてきたと思います。いわゆる断捨離も済ませました。ブッセは、幸せは更に山の彼方だといいます。でも私は、幸せはこれまで過ごしてきた過程の中にあったような気がします。旅は私にそれを教えてくれました。

既に男子の平均寿命も超え余命神のみぞ知るですが、未知への好奇と興奮、いささかの冒険心を受容する気力体力が残っている間は旅を続けて行こうと思っています。

最後に、我が旅に幾度となく同行し、支援し、指導してくださっている友人たちに心からの感謝と敬意を申し上げたいと思います。ほんとうにありがとう。

(2021 年 5 月 22 日)

Dさんと鍋割山

古屋 喜代子

2021年4月下旬、Dさんの訃報に接した。大倉から塔ノ岳まで往復したばかりで、Dさんに「快晴で富士山がきれいでした」「頂上付近でアズマイチゲを見つけました」などと報告する準備をしていた矢先だった。



〔塔ノ岳山頂付近で見つけたアズマイチゲ〕

お体のことは知ってはいたが、気が動転してうろたえた。Dさんは元新ハイ会員だったと聞く。人柄がよく多くの方に好かれた。人となりに惚れこんで、山とお酒を共に楽しみ、長く親交を深めてこられた人は少なくないと思う。お仲間との集まりにも気持ちの良い方々が揃っておられた。和気あいあいの様子を拝見して「類は友を呼ぶ」ことを実感したものだ。

彼の人柄や生き方に心酔していた私も師と仰ぎ、長く教えを乞う幸運に恵まれた。Dさんは山に限らず、いろんなことをよくご存じだった。社会の事柄にも鋭い視点と深い洞察力を持っておられた。知識だけでなく多くの気づきを与えていただき、自分の狭い視野がいくらかでも広がることがありがたく嬉しかった。「目をかけていただいた」と私は勝手に思い込んでいるが、同じような思いを持つ方は何人もおられよう。集える日が来たら弟子バカぶりを発揮して一緒にDさんの思い出を語り合いたい。

Dさんと何度かご一緒したなかで忘れられない山行がある。彼から鍋割山山行のお誘いがあったのは新ハイ横浜支部入会1年半過ぎの冬だった。「鍋割山はいい山ですよ」と言われた。ブナ大好き人間だった私はブナが多くてよい山と聞き、一も二もなく参加することにした。

2011年1月初旬、大倉バス停からスタートしたのは支部会員含め12名。そうそうたるメンバーで自分だけ場違いに思えたが、初めて歩く丹沢だ。今さら帰れるかと腹をくくった。〈大倉高原山の家〉でまず休憩。冷たい湧き水と青い空が記憶に残っている。〈見晴茶屋〉を過ぎると急な登りになり、その先はやや緩やかになるが登りに変わりない。息を切らして登り、少し平らになるとホッとして息を整えることを繰り返す。休憩のたびに甘味や果物の差し入れをいただいて元気を取り戻し登り続けた。



〔見晴茶屋から20分ほど登った
辺り 林の中 雪が残っていた〕

〈堀山の家〉を過ぎて更に急な階段の登りが続く。ツワモノ揃いの面々は各々のペースで後になり先になりして登って行く。噂通り大倉尾根は長くて、いくら登っても先が見えない。疲れが顔に出て顎が上がっていたようで、前を登っていたDさんから「あと少しで花立だから」と声がかかった。絶妙のタイミングでちょっと元気が出る。ほんとにひと登りで〈花立山荘〉に着いた。山荘前からの雪化粧した富士山は青空に映えて美しかった。



〔花立山荘から望む冠雪した
富士山〕

〈金冷シ〉で、超健脚のDさん、Sさん、Mさん、Wさんの4名は塔ノ岳まで往復するという。残る8名はKリーダーに引率されて鍋割山へ直行と決まった。小丸あたりか、鍋割山稜は両側がいい感じのブナ林で何とも嬉しい眺め。これが見たくて頑張ったのだ。ここでのんびりできたらどんなに幸せかと思いながら通過した。



〔鍋割山稜線のブナ林〕

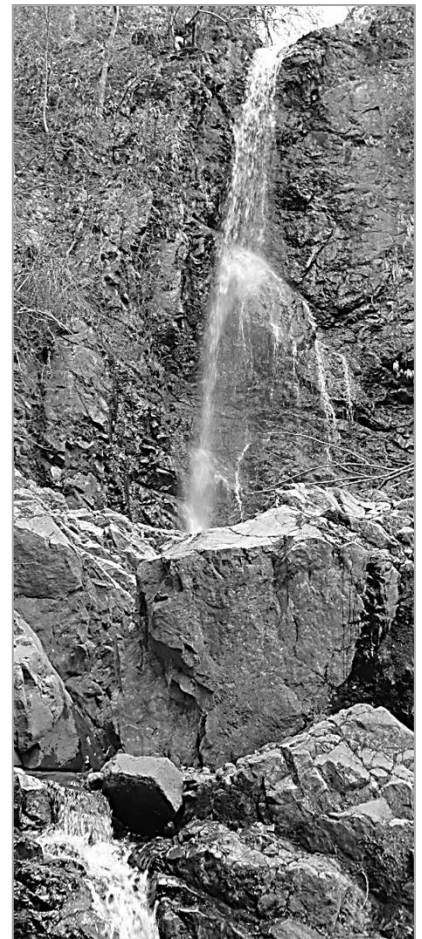


〔鍋割山山頂から撮った冬枯れの山〕

正午に鍋割山に着いた。弁当を食べず、名物の鍋焼きうどんを注文した。かぼちゃの天ぷらなど具がたっぷり、ボリューム満点、おいしくて体が温まる。汗をかきながらつゆまで飲んで完食した。塔ノ岳往復の4人組が到着したのは先着組がまだ食べている最中だった。すごい人たちだと思った。外はいつの間にか雪になっていた。

午後1時過ぎに下山開始。少し下ったところで片方の靴紐がほどけた。

ひと声告げて大木の根元に後向きにしゃがみ、結び直すことにした。すぐに追いかけるつもりだったが、寒さで手がかじかみ指はこわばって思うように動かない。気ばかり焦り、作業ははかどらず、時間はどんどん過ぎていく。曇混じりの風が樹木を揺らしてゴーゴーと唸っている。「こんなに時間がかかってしまって追いつけるだろうか、道はわかるだろうか。迷ったらどうしよう」などと頭の中では心細さと不安が渦巻いてパニックになりそうだった。ずいぶん時間がかかったがもたつきながらどうにか結び終え、一行が下って行った方向へ向き直ったその時、目の前にDさんが立っておられた。あまりに思いがけなく、驚くと同時にDさんが仏様に見えて涙腺がゆるみそうになった。途端に心細さも不安も消え失せた。Dさんが一緒なら鬼に金棒だ。元気百倍だ。現金なものだ。一行を追いかけるDさんの後を歩きながら、背中に向かって心の中でずっと手を合わせ続けていたことを今でも思い出す。一行に追いつくまで少し時間がかかった。待っていただいて本当に助かった。山歩きの経験が浅い当時の私の心に印象深く強く刻み込まれた出来事だった。Dさんを師と仰ぐようになったのはこの時の安ど感がきっかけかもしれない。この後、山行途中に靴紐がほどけたことはない（と思う）。



〔ミズヒ滝〕

10年目の春、Dさんは「出会いに感謝」とメールに残して旅立たれた。その日は雨模様だったが、高い空には梅雨も台風もなかろう。初夏の日ざしを体いっぱい浴び、薫風に吹かれながら快調に飛ばすDさんの姿が目浮かぶようだ。

残された弟子は空を見上げては「今どのあたりかな？」「鍋割山には寄られただろうか」「どこかでいっぱい道草食って待っていていただけないだろうか」などと埒もないことを想像しつつ、遠ざかる背中に感謝の気持ちを込めて手を合わせる日が続いている。

「舞岡公園」の季節を感じながら

溝尾 文子

舞岡公園は我が家から歩いて 10 分位の所にあり、ここ十数年、ウォーキングをしています。極力、アップダウンのある山道を歩くようにしています。

早朝の澄んだ空気の中を歩くのは、とても気持ちの良いものです。木々の緑、鳥のさえずり、季節の花々、田畑の作物、どれをとっても季節の移ろいを感じます。年間を通して富士山をよく見る事ができますが、特に 1 月～3 月の雪をかぶった富士山は素晴らしいです。



《1 月・2 月》

冷え込んだ朝、あたり一面霜が降りて真っ白。霜柱もでき、高さもあります。そんな中でも木々の蕾は少しずつふくらみ、1 月末～2 月にかけ、坂道の途中に植えてある紅梅が咲き始め、遅れて白梅が咲き、あたりに梅の香りが漂ってきます。ウグイスの鳴き声もあちらこちらから聞こえてきます。姿を見たいものです。

《3 月》

木々の芽も段々ふくらみ、今年は山桜の花が例年より早く咲き始め、山道を風に吹かれてはらはらと舞い落ちます。

《4 月・5 月》

山全体が新緑に覆われ、緑がまぶしい。いろいろな小鳥のさえずりが聞こえてきます。田圃では田植えの準備、田植えが行われると、稲の間をエサを探すカモを見かけます。

《6 月・7 月・8 月》

山の木々も濃い緑に。こんもりとし、涼しさを求めて木陰の下を歩いてゆきます。

《9 月・10 月》

朝の空気が何となく冷たく感じるようになりました。山の木々も次第に色づいてきます。田圃では黄金色に実った稲が風にゆれています。道端では、赤や白の彼岸花を見る事ができます。

《11 月・12 月》

木々の紅葉も進み、枝の間からの陽の光を多くあびながら、落ち葉を踏みしめて歩いています。季節の変化を感じながら！

航空会社の上級会員資格を得て、 世界の美術館と名山をトレッキング

高橋 昇

この冊子「羊齒」を読んでいるみなさん、いまの新型コロナウイルスの感染状況はどんな具合だろう。私が執筆している 2021 年 4 月上旬は変異ウイルスが増大しつつあり、感染拡大の第 4 波到来と言われている。

2020 年 1 月、中国・武漢市から新型コロナウイルスの感染が始まり、2 月にイタリア、3 月にスペイン、順次、欧州から米国へ、そして全世界に感染拡大した。日本でも 3 月から感染確認が顕著になり、全国を対象に緊急事態宣言が発出されたのは 4 月上旬だった。あれから 1 年が経過した。

新型コロナウイルスについて論ずることが趣旨ではない。私達の日常生活や仕事や趣味や山行計画が大きく変わった。そして、国内外の旅行や仲間との飲食への制約や変更によりストレスを感じるが多くなった。私と家内が新ハイキングクラブ横浜支部に加入する前、また新型コロナウイルスの拡大前まで、私達の第一の趣味は国内外の旅行だった。

今はとても欲求不満を感じているので、ここでは、私の海外旅行に関する経験と思いを綴ってみたい。

上級会員資格の存在を知る

ここ数年、新聞広告やツアーのチラシなどに「ビジネスクラスで行く○○○の旅」の表現が増えてきた。私は現役時代の海外出張時は、会社経費でビジネスクラスを利用し、空港のビジネスラウンジにも出入りできた。退職後は私的に国内外の旅行を楽しむようになったが、費用の点からビジネスクラスは簡単には選択できず、エコノミー利用が現実だった。エコノミークラスでもビジネスクラス利用のような優先チェックイン、優先搭乗、ラウンジ利用、手荷物優先受取など、長い順番待ちから解放されるサービス（これらを「上級会員サービス」という）が受けられたらいいなぁ、などと漠然と思っていた。

2018 年夏、トルコツアーに参加したときのこと。現役時代に海外出張などで上級会員資格を取得していた同世代 2 人と出会い、航空会社にはこのような制度があることを初めて知った。資格保持者はエコノミーチケットの場合でも制度を利用でき、また、同行者もラウンジを利用することができる。

世界一周で航空会社の上級会員になれる

2018 年秋、家内の友人が世界一周に関する書籍「世界一周航空券」（世界一周堂著）を貸してくれ、世界一周すれば短期間で資格取得できることがわかった。世界の航空会社にはスターアライアンス（ANA 加盟）、ワンワー

ルド（JAL加盟）、スカイチーム（デルタ航空加盟）などの航空連合があること、世界旅行の楽しみ方なども理解した。

この本の著者である世界一周専門の旅行会社「世界一周堂」に興味を持ち、ホームページを調べたところ無料セミナーが開催されるようなので参加した。会場には200人近くが集まり、若い女性が多いのに驚いた。セミナーの主題は世界旅行の楽しみ方だった。1年間有効の世界一周航空券を利用して、現役世代ならゴールデンウィーク、お盆、年末年始、その他の休暇に分散し、退職世代なら2～3カ月まとめて旅行する。会社を辞めて長期旅行に出かける若い世代もいるようだ。航空会社の上級会員資格を取得するための世界一周は、最近の新潮流だという。まさに私の目的にぴったりだと直感した。

世界一周堂のコンサルを受ける

目的達成に向けて効率の良い行程を組んでもらうため、世界一周堂に相談することにした。青山の本社を訪問し、世界一周旅行を21回も経験している旅行の大ベテランのスタッフ村田さんと出会った。村田さんは現在の生活パターンや旅行経験、希望などを汲み取って、最短で上級会員資格を取得できる方法をアドバイスしてくれた。テーマは「できるだけ短期間の世界一周で上級会員を取得する」、「多少の休息期間と観光も取り入れる」、「短期決着で疲れるだろうからビジネスクラスチケットにする」の3つ。

実のところビジネスクラス利用（100万円弱）か、エコノミークラス利用（50万円超）か迷った。ビジネスクラスなら世界一周すれば上級会員資格をすぐに取得できるが、エコノミークラスならば追加フライトが必要になり、トータルの費用はビジネスクラスと大差ないということがわかり、ビジネスクラスにした。面談は1回でその後はメールでやり取りした。対応はスピーディーで、詳細かつ丁寧だったので不安は全く感じなかった。



いよいよ世界一周に出発

2019年3月18日に世界一周をスタートし、4月2日に帰国した。獲得ポイントの高いアジア便、日本国内便、ヨーロッパ国内便を多用して効率良くプレミアムポイント（マイル数に付加されるポイント）を稼ぎ、資格達成条件の5万ポイントが達成できるように飛行ルートを設計してもらった。東京で休息期間を確保するため、大阪をスタートとゴールに設定した。無理しないようにシンガポール、名古屋、香港、ウィーン、ニューヨーク、東京、上海では1～3日間滞在して観光もした。1人旅なので荷物はリュックだけに

して身軽で動きやすくし、各空港のラウンジとビジネスクラスのシート、そして機内食を堪能した。

家内とはビジネスラウンジとホテルの無料W i F iを利用して連絡を取り合った。家内はA N Aのマイレージクラブのサイトでプレミアムポイントの獲得状況を毎日チェックしながら、私の無事を確認していたようだ。理解のある家内にとっても感謝している。



上級会員サービスをさっそく味わう

帰国後すぐにA N Aマイレージクラブに問合せたら、1週間でA N Aの上級会員のカードが届き、さらにその1週間後にはA N Aゴールドカード（クレジットカード）をスーパーフライヤーズカード（資格名称）に変更できた。上級会員資格はフライト実績による1年ごとの資格だが、スーパーフライヤーズカードはクレジットカード年会費を支払えば毎年継続できる。

取得したばかりの上級会員資格は、さっそく2019年5月中旬、エコノミークラス利用のベトナム旅行で活かすことができた。ベトナム航空（スカイチーム）とA N A（スターアライアンス）共同運航便で、ベトナム航空の運航にもかかわらず、優先チェックイン、スカイチームのラウンジ利用、優先搭乗、手荷物優先受取などのサービスが受けられた。

エコノミー利用でも上級会員サービスが受けられるこの資格は、計画的に取得できるし、魅力がたっぷりだと考えている。今後ともツアー、個人旅行ともに活用して行きたいし、みんなにその存在を知らせていきたい。

突然のコロナ禍とこれからの思い

目標達成がうれしくて、2019年5月から2020年3月までの間に、この上級資格を利用して国内旅行以外にベトナム、ミャンマー、クロアチア、ベルギー、オランダ、イタリア、スペインへ夫婦で旅行した。この数年、自宅から近い横浜市立大学で社会人向け美術講座を受講している。2020年4月以降はあらためて世界の美術館の名画を訪ねようと計画していた。さらにファーストクラス利用による世界一周のチケット費用は、ビジネスクラス利用と大差がないことが分かったので2021年に計画しようと考えていた。もちろん美術館だけでなく欧米や豪州の山々のトレッキングも含めてである。しかし、コロナ禍のなかでP C R検査とワクチン接種とワクチンパスポート導入の遅れもあり、すべてが先送りになりそうだ。

自然の中に身を置きたい

有本 ひろみ

健康維持のために入会させて頂いたハイキングクラブなのに、元来の出不精と休日の日帰り山行にしか参加できない事情が相まって、あまり参加できずにいる内に世間がコロナ禍になり、いよいよ行ける機会が減ってしまいました。入会2年を経た今、おでん山行を含めてもまだ4回ほどの参加です。

こんなことならいっそ辞めてしまおうかなと春の更新時には迷いましたが決断もできず取り敢えず継続しました。が、羊歯原稿の依頼も気が重くなるとなく鬱々としていました。

そんな時、広島に住む友人から1本の動画が送られてきました。山奥の道の駅の動画でした。それを観て、思わず深呼吸をした私がいきました。(美しい風景の絵を観て深呼吸するのは昔から私の特技??) 顔もほころび、とても幸せな気分でした。きれいな水のせせらぎ、真っ青な空、澄んだ空気に癒されました。



そして、私が山行に求めていたのはこれだったのかと気づかされました。自然の中に身を置きたい……。やっと前向きに時を待つ気持ちが生まれた瞬間です。友人には感謝しかありません。

そして、いつも様々なコースを用意して下さる担当の方々にも感謝です。ご苦労もわからず、活用できていなかったことも今更ながら申し訳なく、勿体ないことだったと反省しきりです。いつか安心して参加できる日が来たら、今度こそ積極的に参加をしていきたいと思いました。

初めての山

湯浅 克枝

山にはご縁がなく過ごして来ましたが、ある日、梅祭り開催中の幕山に誘われて出掛けました。岩峰を背にして広がる梅林は圧巻で、今でも脳裏に焼き付いています。

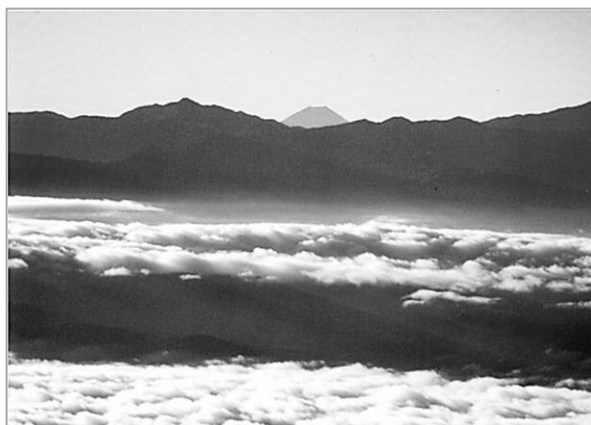


夏山は燧ヶ岳に登りました。思いのほか岩場が多く、又、急登の連続で景色を楽しむ余裕もなく、息を切らせて登り続けました。でも、ご褒美もありました。コッヘル持参の方が一緒でしたので、熱々の天ぷらうどんと日本茶の昼食は大満足でした。山中で最高の贅沢、嬉しくてこんな時間もありかなと思い、また頂上を目指し無我夢中で登りました。

翌朝の雲海に浮かんだ富士山を拝した時は、昨日の疲れも忘れるくらい感激したことを覚えています。今回の夏山を反省し、いつか痩せて筋肉を蓄え、足腰を鍛え、健康維持に努めようと思いました。そして、人の紹介で新ハイキングクラブに出会い、横浜支部に入会しました。

先輩達には、山の歩き方、靴紐の結び方、ザックの詰め方、地図読み、高山植物の名前、写真を撮る楽しさ等、いろいろと教えていただきました。気付けば、山に登り始めて 20 年も経っていました。今となっては、山は私の人生で忘れ難い思い出となる事でしょう。

これからも出来るだけ長く山登りを楽しみたいと思っています。



〔南アルプスの後方に富士山〕

私と山と仲間たち 私の百名山

板垣 恵美子

私と山と仲間たち

私は一人では山に登らない、いや、登れない。山登りが楽しいのは、仲間がいるからです。

「ここ滑るから気をつけて…」、「頭っ…」、「この花なんだっけ？」等々、街では出来ない会話を楽しみながら

また、街中の何処かのお手入れされているお庭のお花も綺麗ですが、山の中の「こんなところにこんな花が…」と不思議に思うほど沢山の綺麗で可愛い花々 ❀ ❀

自然の素晴らしさ、頂上での「ここに登らなければ見られない絶景」
山を愛する人しか分からない山の素晴らしさ
そして一緒に登る仲間たち

私の百名山

金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」の詩の中に「みんなちがってみんないい」という言葉があります。

私の日本百名山もまさに「みんなちがってみんないい」でした。

同じ山でも登る時期、及び登る仲間など、やはり「みんなちがってみんないい」ですね。

百名山を振り返ると、山の頂上の絶景より一緒に行った仲間たちの思い出の方をよく覚えています。百名山を達成出来たのも、仲間がいたからできたのだと思います。

日本百名山を達成して良かったこと、たぶん百名山を目指さなければ登らなかっただろうと思う山、例えば、四国の山や鳥取の山、九州の山など、そのような山もやはり「みんなちがってみんないい」山でした。

日本百名山を達成したことは、私の人生にとって名誉あることだと思っています。

日本百名山で特に印象に残っている山、No.3

1. 八甲田山 「紅葉が最高でした。」
2. 飯豊山 「お花畑が最高でした。」
3. 北アルプスの表銀座 「初めての 3000m 以上の山々、苦しかったがもう一度行きたい場所です。」

私と山と仲間たち、いつまでも、大事にしていきたいと思っています。

私のハイキング事始め

小嶋 幹雄

〔私にとってのハイキングの魅力〕

私は山に登り、遠い山並みを眺めながら、「下界」を見るのが好きです。なんだか別世界にたどり着いたような浮遊感があり、日常生活で汚された世俗から解き放たれ、身も心も清新で自由な気持ちになれるからです。また、仲間と一緒に山を歩くと、登るつらさも尾根道を歩く楽しさも分かち合うからか、仲間との距離が近くなって、互いの絆のようなものを感じることができます。山の魅力は人それぞれとは思いますが、大きな自然に包まれ、解放され、自由になり、仲間との絆を肌で感じる、これが私にとっての山、ハイキングの魅力です。



pixta.jp - 7553450

〔ハイキングとの出会い〕

私がはじめてハイキングらしきことに出会ったのは、高校2年の夏、ごく小さな文科系の部活で、「夏合宿」と称して、白樺湖畔のバンガローで2泊3日のキャンプを張った時のことです。合宿で何を話し合ったかは全く覚えていませんが、飯盒炊飯の食事と、合間に登った霧ヶ峰高原の車山ハイキングはよく覚えています。楕状台地のなだらかな稜線に、火山岩と緑の植生とニッコウキスゲの大群落が織りなす景観の素晴らしさ、高原のさわやかな風の匂いを今でも鮮やかに思い出すことができます。リフトを使った登山なので、ハイキングとも言えないような逍遙にすぎませんでした。が、“ハイキングっていいな…”との想いが深く刷り込まれたのではないかと思います。



〔霧ヶ峰高原のニッコウキスゲ〕

〔私のハイキング第1章〕

山らしい山にはじめて登ったのはそれから5～6年後のこと。なぜか新京成電鉄の線路際に建つ安アパートをシェアしていたK君に誘われ、二人で「至仏山・尾瀬ヶ原」に出かけました。乏しいバイト代を工面して、ザック

やニッカボッカ、靴などをなんとか用意しました。あたりまえですが、この山行では、はじめてのことばかり。至仏山からの下りでは、まだ雪が残っていたので、尻セードを体験しましたし、尾瀬ヶ原では、池塘のたたずまいと湖水の透明さに驚きました。遠くの山並が青く見えることも、私にとっては大発見でした。「見晴」の山小屋ではオイルサーディンのようなぎゅうぎゅう詰めの寝床も体験し、K君が作ってくれた具のない餅入りラーメンも旨かったです。すっかり山の魅力にとり憑かれた夜行 1 泊 2 日の初山行でした。

K君には、その後も北ハヶ岳や金峰山、北岳などに連れて行ってもらいました。北ハヶ岳の白駒池周辺の「苔の森」では、原生林の根元を苔が覆う神秘的な世界に、心が洗われる思いがしました。冬（1月）に登った金峰山の山頂からは、富士山から南アルプスの山々の白銀の大パノラマが望めました。“いつか自分もあの山々に登りたい！”と念じていたその山々の一つ、北岳にもその夏に登りました。はじめての 3,000 m 級の山で、山頂に立った時の達成感は忘れられません。

以上、山への憧れが芽生え始めた、私のハイキング第 1 章でした。



〔K君と金峰山山頂にて〕



〔K君と北岳山頂にて〕

〔私のハイキング第2章〕

就職をし、仕事にも少し馴れはじめた頃、同じ職場の若手 4～6 人の同僚達で、ごく自然に「山の会」が作られました。この会では、テントや背負子、炊事用具などを共用物とし、週末の仕事が終わってから夜行列車に乗りこみ、山に出かけるというパターンを基本にして、山行を楽しんでいました。連休があれば必ず山に行くという生活を 4～5 年、重ねてきたように思います。

何度か山に通っていくうちに自然とメンバーの役割も固まり、リーダーには学生時代に洞窟探検同好会にいたとかいう元気者、サブには離職覚悟で 1 か月近くも休みを取って、ヨーロッパアルプスに出かけた稀有の山好き、私はといえば食べることに小うるさかったからか、炊事班長のような役割を務めていました。山行中のメニューを決め、その食材を調達し、調理の最後の味付けなどを担当しました。

この会はとにかく楽しかったです。いろいろな思い出を残してくれました。剣岳カニノヨコバイであまりの険しさに足がすくんでしまったこと、唐松岳でテントを張った晩、土砂降りで轟き続ける雷鳴、下からせりあがってくる

閃光の恐ろしさで一睡もできなかったこと、穂高連峰縦走の時、奥穂高岳での払暁、赤く染まる雲海を眺め、はるか彼方に富士山を見つけた時の感動、はじめての冬山、硫黄岳から下った本沢温泉の露天風呂、冬の仙丈岳の山頂の神々しさ等々、思い出が尽きません。

やがてメンバーの何人かが結婚し、職場異動があったりして、やむなくこの会は解散することになりました。最後の山行は涸沢。ここには奥さんや、彼女を同伴、お互いの懇親をはかりつつ、なごりの一夜を過ごしました。

以上、若くて活力いっぱい、私のハイキング第2章でした。



〔奥穂山頂にて、みんな若かった〕



〔唐松岳の夜、激しい雷雨に遭遇〕



〔テントの中で〕



〔ある日の昼食準備〕

〔私のハイキング第3章、第4章の始まり〕

結婚をし、子育てが始まり、職場でも役職がついて仕事一途になっていくなどで、山からはとんと遠ざかってしまいました。たまに、子供達を連れて尾瀬に行ったり、白駒池に行ったりの家族旅行はしていましたが…。

55歳で大阪に3年間の単身赴任があり、何も予定のない週末には、近畿一帯のハイキングコースを一人で歩き回っていました。山行記録で改めて数えてみると、3年間で57のハイキングコースを歩いていました。ほとんどが低山の軽ハイキングですが、見所がそれぞれにあって結構楽しめました。

そして、定年を迎え、嘱託契約も切れて、これからどう過ごそうかと考え、現役時代に仕事にかまけてできなかったこと、畑と山とコンサートでリタイア後の日々を組み立てようと決め、ネットで新ハイキングクラブ横浜支部に出会い、入会させていただきました。

ここから私のハイキング第4章が始まります。

忘れられない山行

小泉 葉子

私が60歳で定年退職し、友人の誘いで新ハイ横浜支部に入会したのは2012年の秋頃でした。入会して早8年がたち、今年9年目に入ります。最初はウォーキングから始め、行けそうな山行に参加し、勧められるままに新ハイの平日グループにも入会して、いろいろな山に登ってきました。そのうち、個人山行にも誘われるようになり、山仲間もできて、楽しい山旅を経験することもできました。

この8年間には、自分の病気やケガ、母や妹の入院と死去、孫2人の誕生、共働きの娘夫婦の子育て応援、より応援しやすいようにと横浜市戸塚区から娘宅の近くの川崎市への転居など、様々な事情により、その都度山歩きはお休みになりました。山歩きが十分にできない期間に起きた、忘れられない思い出となった山行を綴ってみることにします。

2016年2月に、仙台に住む92歳の母が交通事故に遭い救急搬送され、リハビリ病院への転院、老健施設や老人ホームへの入所など、母と同居していた妹と協力して対応するため、私は毎月2、3回、半年にわたって、横浜の自宅と仙台の実家を往復していました。その疲れのためか、同年の7月に腰痛を発症し、近くのスポーツ整形外科でリハビリを受けました。

やっと腰痛も回復し、理学療法士もゴーサインを出したので、9月に5人の仲間と、奥大日岳～大日岳～称名滝への2泊3日の山行に出かけました。室堂に着き、1日目はみくりが池温泉に宿泊し、翌日に雷鳥平を経て奥大日岳へ。奥大日岳に至る稜線では、立山方面をはじめ北アルプスの眺望、そして何よりも劔岳の西面の岩壁群を目の前に見ることができ、感激マックス。奥大日岳に登頂し、その山頂からの下りは、白い雲が湧き出ている真っ青な空や、遠く近くの山並みの絶景をバックに、鎖をつかんでの急降下。陽の光に白く輝いて長々と降りていた鎖とともに、この景色は今でも目に焼き付いています。その日は大日岳まで縦走し、大日小屋に泊



まり、3日目は「牛の首」経由で大日岳登 〔奥大日岳から見た劔岳 2016.9.10〕
山道入口へ下ります。「牛の首」は、急坂で鎖や梯子の連続。私にとっては、この山行一番の難所と覚悟していました。

鎖や梯子を無事通過し、普通の山道にたどり着いてホッとしたのかもしれませんが。突然腰から力が抜けて崩れてしまい、身体をたてることができなくなりました。同行者から、ダブルストックを借り、ストックに身体を預けてやっとのことで前に進むことができましたが、自分の体が思う様に動かないということを経験しました。腰痛のため、2か月近く山歩きをしていず、いきなりの北アルプスは無謀であったと、絶景の思い出とともに自分の未熟さを大いに反省した山旅でした。

そして、山は危険がつきもの。楽しさを満喫できるのは、急坂の登りや下り、リスキーな痩せ尾根や岩峰、鎖や梯子の通過など、苦しさや恐怖との己の戦いに勝ち、その達成感を得られた時だと思います。私は1, 2年前より、自分にとって、少し難度の高い山にも登って、レベルアップをはかりたいと思い、バリエーションコース等も訓練と思い、誘われるまま参加するようになりました。このバリコースは、もともと歩いているハイカーは少ないのですが、このコロナ禍にあって、幸いというべきか、めったに他のハイカーには出会わない状況となっています。

2020年10月のはじめ、私は仲間4人と、西丹沢のミツバ岳に連なる世附権現山～二本杉峠～千鳥橋から林道に出て、丹沢湖のバス停へと歩く周遊コースに行きました。丹沢湖近くの焼津バス停付近から世附権現山登山口にとりつきますが、そこから千鳥橋まではバリルートを含むコースです。登山口から大仏野山とも呼ばれるピークへ急登を登り、世附権現山をめざして急斜面の山腹をトラバースしようとしたときです。私はずるずると滑り、滑落を止めようと座り込んでしまいました。リーダーが滑り止めに自分の足を置いてくれ、何とか渡ることができました。その時にリーダーから教えてもらったことは、トラバースの時は、スキーの斜滑降の要領で、谷側ではなく山側の足に重心を置くということです。今まで意識していなかっただけに、目から鱗でした。そして、二本杉峠から千鳥橋へのルート。昭文社の地図でも「初級者通行禁止」とあり、守屋地図でも「ひどい悪路」とあり、ネットでも「落ちたら死ぬ」なんて恐ろしいことが書いてあるのです。「一部崩落がひどい」という記事も。実際はどうかというと、山腹に細いトラバース道がついており、その道がまた狭く、幅20cm?あるかどうかで、崖際の道といったところ。山側は草の生えた壁面でロープもなく、谷側は沢まで2~30m切れているのです。歩き始めて、すぐに恐怖で固まっていたら、リーダーが来てくれて、足を道に対して直角に置き、横歩きで歩くようにアドバイスしてくれ、なんとか渡ることができました。千鳥橋に着いたときは、ホッとして景色も緩んで見えたものです。この山行で学んだこと、それは基本的なこと、足の置き方と運び方、重心のかけ方でした。



〔千鳥橋にて 2020.10.4〕

山歩きを終えて家路に着くとき、心地よい疲労感と充実感が、私にとっては山歩きの醍醐味です。これまでは、山から下りて、仲間たちと乾杯するビールの美味しさが、山歩きの醍醐味でしたが、このコロナ禍では自粛するしかありません。今は、感染が収束して、自由に山旅ができるようになることを願っています。



カタクリの花

私の山の歴史(その2)

桜井 素子

私が横浜支部に入会したのは2013年4月で、もう8年強活動をしている。入会前は学生時代の友人や、その後知り合った人達とあちこちの山々を歩いていたが、横浜支部に入会してからは山行の幅が広がり、かねてより行きたかった山にも登る事が出来ている。

「羊歯」第34号では私の山の歴史を書いたが、今回はその続きとして、印象に残った山々や出来事を書き記す事にした。

まずは2016年7月に1リーダーと行った白峰三山では、北岳から農鳥岳までの縦走の予定だったが、途中で下山する事になった。三山を歩く事が出来ず残念だったが、今もあちこちの山に登ると雪をいただいた北岳に会えて、あの素晴らしい山に登れたのだと考え深い。

次は8月に、支部山行でAリーダーと学生時代から1度は歩きたいと思っていた水晶岳から雲上の楽園と言われている雲ノ平に行った。過去に歩いた立山連峰や、槍、穂高等360度の見事なパノラマのように広がっている眺望と、砂礫地にけなげに咲く白い花の群落や、その他の高山植物が力強く咲き乱れる縦走路を堪能した。おまけに石原裕次郎軍団だったイケメン俳優の池田努さん達のNHKロケ隊と一緒にになり、雲ノ平では写真まで一緒に撮って貰い、年甲斐もなくときめいた思い出が残っている。

同じ8月には、燕から常念岳への縦走や雨飾山、9月には奥大日岳と、時間があれば毎週のようにあちこち歩いていた。両神山も八丁尾根コース、産泰尾根コース、七滝コースと次から次へと歩いて、家族からはほどほどにしたらと言われる有様であった。

2017年5月に佐渡の山では、歩く両側にシラネアオイやイワカガミなどの花が咲き乱れ、白山以来の花の宝庫の山であった。余りの花の見事さに再度訪れたいと思っていたが、2020年はコロナ禍で計画を中止し、ようやく今年、2泊3日で花の佐渡の山々を歩く事が出来た。

2018年は夫が短期の入院を繰り返したあと、5月に急に亡くなり、鬱々とした毎日を送っていたが、7月に1リーダーのお誘いで何カ月振りかの山行が出来た。母池から蓮華温泉を歩いた時には、くもったメガネが透き通ったメガネに変わったような、華やいだ色とりどりの自然の景色に驚かされた。この山行を機に、沈んでいた気持ちが晴れ晴れとした気持ちに変化し、自然の特効薬の強さを感じた。

しかし、元気になったのもつかの間、この年の秋に3度目の癌が見つかり、

12月に手術をする事になった。再び気分が滅入ってしまったが、バリルートの山の仲間から退院1週間後、忘年山行に誘われた。ザックが背負えるか、歩けるかと不安になりながらも参加をする事にした。山頂での丹沢山塊を見ながらのご馳走パーティーは、またまた気持ちを晴れ晴れさせる特效薬であった。思わず山々にありがとうと叫んでしまった。幸い早期発見だった為、術後の経過は問題なく、その後も支部山行やその他のグループの仲間と月に5, 6回の歩きを続けられている。

以前から個人山行のリーダーはやっていたが、2020年に初めて支部山行リーダーを2回企画したが、とても緊張したのでやらねば良かったと思った。私が参加した時の支部山行リーダーは、当たり前的事ではあるが、どんな歩きをするかわからない人がいる時でも、足が揃っていない時でも、アクシデントが発生した時でも、適切に対応できる力を持っていた。私はそのリーダー達と違って力の差はあるが、行った事のある山のうち、私のゆっくり歩きでもいいと参加してくれる支部会員がいるのなら、リーダーとして企画し、その山の楽しさを分かち合いたいとも思った。

2020年、2021年は近場の山や花がある山をわずかだが企画してみたが、コロナ禍で中止する事になった。そこで人数を少なく、感染対策を十分して近場の三浦アルプス、鎌倉アルプス、相州アルプスと言われるコース等に支部の人達や他の仲間と、体と心の健康の為に歩いている。一人で家の周辺を歩くのとは違って、はるかにストレス解消になり、コロナ禍で人との交流が少なくなっている時の仲間の大切さを感じた歩きであった。

私は気にいった山があると、ミニバリルートも含め色々なコースで歩いているが、後期高齢者となった身にはまずは安全な歩きを心掛け、あと数年は面白い山を見つけてゆっくりとのんびりと歩きたいと願っている。



〔北アルプス 水晶岳〕



〔雲上の楽園 雲ノ平〕

山歩きを振り返って

若生 典男

私は新ハイ横浜支部へ入会してまだ5年目の新参者ですが、本部会員としては新ハイキング誌が廃刊になるまで40数年来の古参でした。ただ、一度も本部山行に参加したことのない単なる月刊誌の購読者としてでしたが…。

けれども、購読者としてはかなり熱心な愛読者だったと思います。毎号、隅々まで目を通したものです。投稿者として横浜支部の方では、祖父川精治氏や芹沢隆久氏も記憶に残っています。

また、新ハイキング選書発刊事業も開始時の協賛者となり、当初は自動配本されたのも懐かしい。選書のうち、多摩雪雄氏中心編（1986年刊）の一等三角点を網羅したデータ編、ガイド編の3冊は専門的にも画期的な企画であったし、市川静子氏中心編（1994年刊）の日本300名山ガイドも、一般商業誌に勝る先駆的な企画だったと思います。そして何よりも、新ハイキング誌のガイドはすべて署名入りの踏破実績に基づいたもので、情報の少ない時代に昭文社や日地出版地図のコースタイムと共に大変役立ちました。

しかし近年、情報収集の形態はすっかり様変わりしました。各種のWEBサイトでは必要な情報がほとんどそろっているし、スマホにコース付きのマップをダウンロードして持ち出せば、GPS機能で自分の位置を見失うことはなくなりました。至れり尽せりの感があります。分岐を見逃してはいないか、このまま進んで果たしてよいのか、不安に駆られて立ち止まり、思い悩んだりしたことが遠い昔になってしまいました。服部文祥氏のようなサバイバル登山とか復古志向が話題になるのも、最近の利便性への反動といえるのかも知れません。

振り返ってみれば、私の山歩きの原点も原始的なものでした。中学生時代の遠い昔、連れて行かれたテント泊で、穴を掘ってキジ撃ちをした記憶から始まっています。所はわが故郷の福島県吾妻連峰のハイマツ帯の空き地、当時はどこにでもテントが張れたのだと思います。そのテントから少し離れたハイマツの中、スコップを渡されて穴を掘ったのでした。

その後の学生時代は山とは縁のない生活を送りましたが、山歩きに復帰するのは社会人になった1970年代、学生時代の友人達とのグループ登山からでした。ハケ岳、北アルプス、南アルプスや尾瀬など有名どころの山々を歩き回りました。お互い社会人となって、親から自立したことの解放感を味わっていたのかもしれませんが。時代も登山がブームになっていたと記憶しています。週末の新宿駅23:45発夜行列車の混みようはひどいものでした。床

に寝たことも懐かしい思い出です。ザックもまだキスリングの時代でした。

しかし当時は初心者。軽率だったこともありました。ある夏、友人と二人で折立から薬師岳山荘に向かい、たどり着いたと思ったら営業前。たまたま営業準備作業の人が居て助かったのです。更に翌日、薬師沢から雲ノ平へ向かう登りで予想外の残雪でルートロス、ガスで見通しの無い中、パニック状態に陥って、ただやみくもに歩き回ったことが思い出されます。

やがて数年後、各々が仕事中心の生活となり、転勤、結婚とそれぞれの道へと進む中で、誘い合ことも絶えてしまいました。しかし、私自身はその後山への関心は持ち続けたようで、やむなく一人で山に入るようになったのです。と言っても、私も仕事中心の生活だった訳で、年に数回の細々とした山歩きを続けたというに過ぎません。ただ私の勤務した製造会社は、年間のカレンダーを労働組合と協議して決めていたので、飛び石連休を繋げたり、特に夏休みは7月末頃から長期の休日を設定することが慣習でした。これが登山には大いに助けになりました。これを利用してよく縦走計画を立てたものです。お盆の超過密山小屋も避けられました。そしてこの頃はもう単独行という登山スタイルが定着していたのです。

今思えば、グループに入っていた方が何倍もの豊富な登山経験ができたようにとも思います。特に本格冬山登山の技術を得られなかったことは今でも残念に思います。しかし登山口からただ一人、急登に喘ぎながら尾根筋に到達し、一息入れて辺りを見渡した時、自然のただ中に包まれていることを実感し、鳥肌が立つ。こうした感覚こそ、ソロ登山でしか味わえない魅力だと思います。そして、歩行ペース、休憩頻度・時間、コース変更、寄り道選択、カメラ撮影時間など、とにかく単独行は自由です。

単独行は一人だからこそその交流もあるものです。三股から蝶ヶ岳へ登った時、名古屋の人と親しくなり、翌日、常念岳方面に同行することになったのですが、その方は幼少期ポリオを患ったのでしょうか、左足が少し不自由でした。正直、少し迷惑だなと思ったのですが、歩いてみれば相当に健脚で、引っ張られる形で予定の大天荘を越えて燕山荘まで歩いてしまったことがありました。人を見下した恥じ入る気持ちがいつまでも残って、今でも覚えている記憶です。

また、農鳥小屋から大門沢を下る奈良田までのコースで、小雨の中、もうすぐ林道というところで、草むらにへたり込んで歩けないでいるところを、通りがかりのグループに助けられ、ザックまで背負ってもらって林道迄下りたことがありました。どうせ下りと油断した結果のシャリバテだったのです。これまでの山歩きの最大の汚点と言える記憶です。

一方、ある年の初夏、尾瀬の燧ヶ岳から御池へ下る時、同行した人に定宿としている桧枝岐の民宿に誘われて同宿し、主人を交えて深夜まで語り合っ

たことは、多感な時代の楽しい思い出です。その他にも単独行者同士や各グループとの交流は実に数多く思い出されます。独り身の気楽さからの交流だった、と思うと同時にやはり一人は寂しい思いもあるものなのだという証明なのかも知れません。

確かに単独行はいろんな意味で高リスクだと思います。単独行についての世間的な逆風を感じるのも事実です。しかし単独行の魅力は大きい。単独行を続ける為には、やはりリスク低減を図らなければなりません。様々な備えが必要と思いますが、私の場合、その基本は余裕ある計画を立てることだと考えています。道迷いやケガなどのトラブルがあったとしても、時間的に余裕があれば、比較的冷静に対応できるはずです。これまで15時を過ぎて山小屋に入った記憶はほとんどありません。この点では私は山の優等生です。むしろ余裕が有りすぎて手持無沙汰となり、ついつい夕食前に酩酊してしまうという失態もありました。また時には出会った人と宴会となったり、小屋前のテラスで一人静かに沈む夕日を眺め、ほろ酔い気分になっている時などは、この上ない充実感に満たされます。これらはいずれも余裕があってこそその楽しみと言えます。

また、余裕ある計画にする為、日帰りコースをあえて2日に分けることもあります。例えば巻機山などは日帰りコースが一般的ですが、あえて避難小屋泊とすると1日目も遅く出発でき、翌朝は山頂付近の池塘や草原を散策し、牛ガ岳・割引岳にも余裕をもって回ることが出来ます。麓に前泊する計画より格段に楽しめる計画だと思います。しかし、余裕ある計画を立てる為には自分の脚力を把握しておくことが必要です。その為には私は以前から塔ノ岳の大倉尾根の歩行時間をバロメーターにし、ある山岳会のランク分けも参考に自分の実力を計っています。ただ最近は荷重をかけた時の歩行時間には、どうにも認め難い衰えを感じてしまっています。

こうしたこれまでの一人歩き的一方、横浜支部に入って5年、グループ登山も積み重ね、その楽しさも十分に味わっています。

横浜支部には花に精通している方が実に多い。これまで見過ごしてきた花にも注目できるようになりました。同じ花を何度も聞いている自分の探求心の無さにも呆れますが、山の世界が広がっていることは確実です。最近では花を求めて山を選定しているほどです。そして、絶景を共感し合うのも、ワイワイガヤガヤ冗談を言い合うのも、下山後の反省会で盛り上がるのも、グループ登山ならではの楽しみです。これからも楽しい仲間とのグループ登山とともに、単独行の魅力も捨てがたく、それぞれの良さを生かして山歩きを続けていきたいと考えています。

私の山旅体験、夢（インタビュー編集）

劉 玉（ユ・オク）

いつも明るく、茶目っ気たっぷりの劉玉（ユ・オク）さんにインタビューを試みました。彼女のひととなり表現できていれば幸いです。インタビューとまとめは高橋有紀子が担当しました。

（問 1）何年前に新ハイ横浜支部に入会しましたか。平日会員でもありますか。

劉さん 2016 年 11 月に入会しました。1 年後に平日 G の会員になりましたが、1 年前に辞めて、2021 年 3 月 15 日には本部会員となりました。

（問 2）横浜には様々な山の会がありますが、なぜ新ハイに入会したのですか。

劉さん インターネットで色々調べて、家の近くに歴史のある新ハイがあったので喜んで入らせて頂きました。本部会員になったのは、コロナ禍で少しでもたくさん歩きたいとの思いからです。まず本部では「さあ、ハイキング」という人気の企画が月に 1、2 回ありますので、ここから始めようと思っています。

（問 3）登山やハイキングは、始めてから何年位になりますか。

劉さん 新ハイに入ってからです。

（問 4）今まで新ハイでどのぐらい山に登りましたか。平日 G も含めて。

劉さん コロナ禍以前は新ハイの登山が中心です。主に、竹尾さんが企画された山行に参加しました。駅に着いた瞬間、飛び込む清々しい空気、素敵な木、花、草等の香りを楽しみながら山に登るのは最高に幸せです。竹尾さんのお陰で色々な素敵な山、花等、北海道の山にも挑戦でき、感謝しております。

（問 5）登った山々の中で特に印象に残ったところはどこでしたか。

劉さん 夏に登った月山の山頂から見た風景は、青々としてどこかの絵のようでした。木曾駒ヶ岳の宝剣岳は短いですが、スリルがあって楽しい初の岩場でした。濃ヶ池は、澄んだきれいな池でまたひと味違った静かな美しい池として印象に残っています。

（問 6）新ハイ主催以外の国内外の山々で、特に印象に残っている所はありますか。

劉さん 私の生まれ育った韓国では山に登った事は無かったのですが、新ハイで山登りの面白さに目覚め、里帰りの時には韓国の山にも登ってみたいとの想いで何ヵ所か登りましたが、面白い事に登山道がその国の国民性に似たような気がしました。何山も登ってはいないですが、韓国の山は岩場が多いせいか、階段を多く作り急道だったように思えます。日本の山も優しい登りの山しか登った事が無かったせいでしょうか、ゆっくり巻いてくれるゆったりした登りだったように思えました。自分の個人的な感想ですが、韓国人の性急な性格、日本人のゆったりした性格のようで面白かったです。

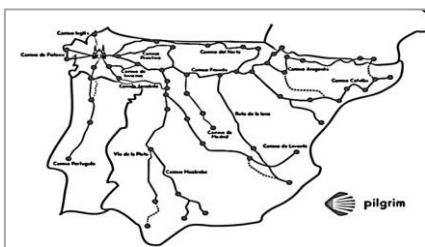
高さは1084mの大邱（テグ）のピスル山の春は、ミツバツツジが有名で綺麗でした。ただ、登りは直登で下りはひたすら最後まで階段だったので、キツイ思いをしました。韓国ではインターネットで営利目的の山岳会が開催するツアーがあり、集合場所の駅に集まって時間をチェックして出かけ、集合駅から登山口までバスで連れて行ってくれ、下山後にも迎えが来てくれます。手軽な費用で日帰り登山とお泊まり登山を楽しむ事が出来ます。韓国では、ランチの時みんなが色々な食べ物を分けあって、山のパーティーが行われる様子は珍しくないようです。



〔大邱ピスル山と満開のミツバツツジ〕

（問7）スペインの巡礼やスイスの登山にも行きたいというお話を伺いましたが、少し詳しく教えてください。

劉さん 今まで、兄や姉、親戚がいるアメリカはお陰様でシアトル、テキサス、ニューヨークに出かけ、シアトルでは7カ月の語学留学（英語、永住の為でしたが、勉強するには脳が休みすぎたようで諦めました。）をする程たくさん行ったので満足しています。ヨーロッパはイタリア、オランダ、ベルギー等の観光ツアーに参加した事もあり、素敵なヨーロッパを歩いて観光してみたい、と思う内にサンティアゴ・デ・コンポステーラという巡礼道を知りました。元気な今のうち、今生の最後のヨーロッパ旅行をしたいと考えています。飛行機に長時間乗るのは好まないで1回の海外旅行でスペインの巡礼＝サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路（フランスからピレネー山脈を経由しスペイン北部の山道を通る道）、ポルトガル巡礼道およびスイスの山等の観光、ビザのいらない旅（最大3カ月）を最大限使って行きたいと考えています。



〔サンティアゴ・デ・コンポステーラコース〕



〔サンティアゴのゴール、大聖堂〕



〔サンティアゴのベルドン峠〕

(問 8) その目標のためには、何か準備していますか。

劉さん 新ハイの登山だけでなく、1カ月かけて韓国・済州島にキッチン付きホテルを借りて、済州島を一周する「済州島オルレ」に挑戦してみました。

(問 9) 済州島オルレについて簡単に説明してください。

劉さん 済州島を一周する全 26 コース 425 km のウォーキングコースです。海岸や山、あるいは離島の牛島等様々なルートがあり、主に海沿いを歩くコースになります。道にはいたる所にサンティアゴのように道案内をしてくれるリボンがあり、迷うことは少なかったです。

(問 10) 済州島は韓国ドラマによく出てくるリゾート地で、私も行ったことがありますが、どのような点が良かったですか。

劉さん 海岸沿いをひたすら歩いて行く景色の綺麗な道だったので、海中毒になる程で、海が隠れてしまうと急ぎ歩きになる自分を発見して思わず笑ってしまいました。美しく楽しいウォーキングでした。

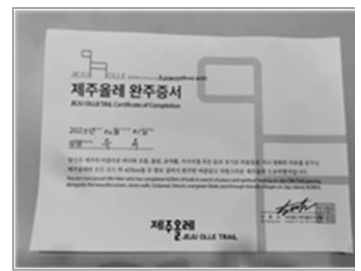
お薦めしたいオルレコースは「済州島オルレ」パスポートの 07-1、10 コース、12 コースですが、海岸沿いで登り道は 10～20 分程度しかなく、山登りの為でしたら是非、済州島国立公園のハルラ山に登ってみて下さい。ちなみに私は、済州島オルレのついでにハルラ山の優しいコース、霊室コース(1700m 程しか登れない)を登ったのですが、ほぼ階段という印象でした。韓国の人々はハルラ山に登るなら雪山!との事でした。



〔済州島オルレ 12 コース〕



〔「済州島オルレ」パスポートに 07 番コース踏破のスタンプを押す。〕



〔「済州島オルレ」全 26 コース 425 km を制覇した証明書〕

(問 11) コロナ禍で計画が伸びましたが、今、スペイン巡礼に向けて国内で準備していることはありますか。

劉さん もっと体力をつけたい。なるべくいろいろな山に登ること。来年も難しいだろうけれど、ワクチン接種が出来るようになれば、早速出かけてみたいですね。



ツツジ

よも山話

高橋 健二

兄と姉が山岳部やワングルで家から大きな鍋をくくり付けたザックを背負って出かけていたのを見て、登山はやりたくないと思っていました。

大学ではスマートなスポーツをやりたくて、テニスを選びました。冬はスキー、一年通してテニスに明け暮れ、野球部などを選んだ友達は学校を卒業するとスポーツをやめてしまいますが、テニスなら一生できると思い、今でも子供たちを集めて、毎週ボランティアでやっています。

高橋さんはテニスしているから山は楽勝でしょ、と言われますが違います。テニスは瞬発力でワンポイント終わると一息付けますが、登山は持久力です。冬は寒くて苦手ですが、夏に汗びっしょりになるのは気持ちがいいです。

最初に登った百名山は、高校のサマーキャンプで登った磐梯山でした。猪苗代湖のほとりを朝まだ暗いうちに出発して、背たけの低い地学の先生の後について磐梯山を登り、三つくらい山越えして檜原湖に着いたのは夜でした。

両神山へ高校の友達と登りに行ったときは、大きなキスリングを背負って行って、河原にテントを張って翌朝起きて、疲れたから帰ろうと帰ってしまいました。

20代、30代は仕事が超忙しくて、登山はできませんでした。40代になって、仕事仲間が百名山を目指していて（百山会）、一緒に行くようになりました。その仲間はいつも車で夜行日帰りでしたが、僕は帰りに運転するので車に乗るなり寝てしまいました。やはり忙しくて出かけるぎりぎりまで仕事しているので、山の下調べはしていません。山のふもとに着いたとき、ここは何処という状態でした。家に帰ればまた、忙しく仕事です。行った山を思い出す暇もありません。家内は百名山を80座くらい登っていて山の思い出を話しますが、僕はほとんど覚えてなく相手になりません。

百山会の忘年会であった人が過去に新ハイに入っていて、その人の話を聞いて横浜支部に加入することに決めました。東神奈川駅の近くで創立60周年の展示会をやっていて、支部長に会いに行きました。それが鈴木さんでした。

いろいろな山に登りましたが、流石によく覚えているのは劔岳です。百山会の先輩は3回目で、山の様子を聞いても行けばわかる、というばかりで全然教えてくれません。足元が見えない断崖絶壁のカニノヨコバイやタ

テバイなど怖い山でした。前もって様子を聞いていたら登れなかったと思います。

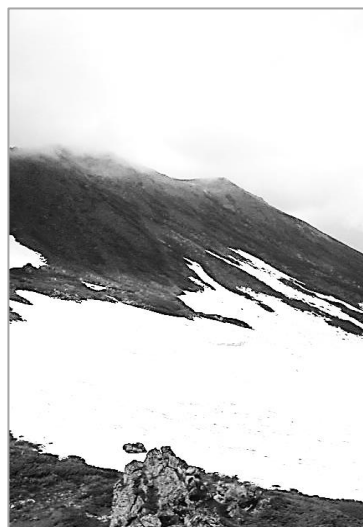
百名山を踏破して二百名山を登ろうと思い、本を買いましたが、アプローチが不便だったり、登山道がハッキリしないところが多いのでやめました。その代わり難しいところは別にして、山梨百名山を目指しています。今のところ富士山を含めてまだ43座です。

北岳には間ノ岳に登るためや、友達に付き合っ、3回登りました。お花畑がきれいでした。聞いたところによると百名山や二百名山を2回登った猛者もいるようです。

これからも体力の続く限り、色々な仲間と色々な山行を楽しみたいと思います。



〔トムラウシ山にて〕



〔トムラウシ山〕



〔南ア編笠山 青年の家〕



〔赤岳のコマクサ〕

コロナによって気付いたこと

高橋 有紀子

神奈川県立高校で教鞭をとり、多くの生徒に英語を教えてきました。教職の前半はとても恵まれた環境で教えることに専念でき、夏休みや冬休みなども研修として海外旅行に行くことができました。しかし、世の中の流れと共に教員の職場も余裕がなくなり、後半は事務的な仕事の比重が大きくなりました。長期の休みも制限され、土日祝日はクラブ活動の付き添い等も含め、労働時間は年々増加の一途をたどりました。

退職した時は心身共に解放されました。その後、いろいろな学校から臨任として英語を教えて欲しいというありがたいオファーをいただきましたが、すべてお断りしています。両親の介護という重責はありましたが、自分の人生、これからはやりたいことをやりたい、という思いを強く持ちながら過ごしてきました。

高校時代の友人たちが集まる山のグループに入り登山を始め、新ハイキングにも入会しました。横浜市立大学の市民講座で美術講座を受講し、夫と二人で海外の美術館を巡る旅行に出かけ、さらに国内では大好きな芝居、音楽、映画、美術鑑賞等をしてきました。卒業生の応援と称し、彼らの経営する居酒屋や寿司屋で元教員仲間と旧交を温めてもきました。1カ月のうち家にいるのはせいぜい1/3くらいのペースで活動してきました。欧米でコロナ患者が出てきた2020年2月はシチリア島、3月にはスペインに行き、3月8日に帰国しました。両親がようやくホームに入ったその後1年間、自由気ままに海外旅行していたその時、コロナが襲ってきました。



〔シチリア島エトナ火山 2020年2月1日〕



〔スペインの古都トレド 2020年3月7日〕

あまりに自由に過ごしてきたので、一日中夫と二人で家にいることは苦痛を伴いました。ストレス解消のためにまずやってみたことは、毎朝、富岡総

合公園内を歩き、さらに 112 段の石階段の上り下りを 40 分すること、円海山から天園を歩いて鎌倉へ行くこと、車で箱根に行き金時山に登ることでした。自然の中、季節を感じながら歩くことは、家の中で鬱屈した心と体を確実に解きほぐしてくれました。

退職後、登山を始めてよかったとつくづく思いました。救われたと思いました。コロナがなければ、登山はあくまで一つの趣味でした。他のことがすべてダメになったからこそ、登山のすばらしさを実感できました。自分の足で歩き、山頂を目指し、おいしい空気を吸い、体と心がよみがえる。今までは、文化、芸術、観光、飲食等によって楽しむ割合が多かったけれども、行きつくところは自分の身体健康であることがよくわかりました。コロナ禍でたくさんの山に登りました。2020 年は 23 回登りましたが、特に焼岳、天狗岳、鍋割山、三つ峠、聖武連山が良かったです。2021 年 1 月～3 月は県内の低山中心に 12 回、健康登山をしました。



〔焼岳 2020 年 10 月 7 日〕



〔金時山 2020 年 2 月 18 日〕

登山計画を立て、準備し、体調を整え、自分の足で一步一步と安全に歩いて、山頂に到達する。そこには富士山の眺望や素晴らしい景色が広がる。頼るものは自分だけ。自己責任の世界だからこそ得られる達成感。これから、コロナ後もその達成感を求めて自分に合った山に登りたいと思っています。



ハイキング

工藤 圭

私が丹沢にハイキングに行くようになったのは、男の子2人、家にいたら大変。そんな理由から主人は土日居ないので3人で野外に繰り出しました。公共交通機関での移動でしたので、帰りのバスの時刻を調べるのを忘れて子供達にヒッチハイクしてもらい乗せてもらったり、猪に遭遇したり、急な雨に降られたり、色々な思い出があります。季節からのメッセージに足を止め、緑の中を走り回る子供達を追いかける日々でした。



そんな楽しい日々も年月が流れ、一緒には行動してくれなくなり、1人「横浜ウォーカー」のハイキング特集などメジャーなコースを歩くようになりました。

台風一過のある日、鐘ヶ岳へ行こうと決め、ついでに不動尻から大山までの計画をしました。が…、川は増水、道は倒木や石、蛙だらけ。とても怖いという気持ちが湧いてきてしまいました。さらに、同じ道を何度も歩いているではありませんか。焦る気持ちで来た道に戻っていたら、登山道入り口でお会いした新ハイ横浜支部の谷さん、井上さんグループが楽しそうに歩いてきました。人に会えて凄くホッとしたこと、「ご一緒に行きませんか」との親切な言葉に感動したことを忘れません。

後日、入会させていただきました。それまで百名山という言葉すら知らなかったもので、こんな凄いクラブに入ってしまったで大丈夫なのかと思いながら今にいたります。

季節の花々や景色を楽しみながら、皆様に山の素晴らしさを教えていただけたら、この上なく幸せです。





初心者ハイカーの想い

菅野 紀子

もともと出不精の私ですが、運動不足を感じ、四年程前からウォーキングを始めました。舗装された道路は歩きやすく、運動不足解消にはちょうど良いと思っていましたが、何か物足りなさを感じ始めました。もう少しアップダウンのある道を歩きたいと思い、手始めに近くの高麗山（湘南平、標高180m）へ行ってみました。

小学生の遠足にも使われる山なので大丈夫だろうと歩き始めました。慣れない山歩きにおぼつかない足取りで汗だくになりながら、どうにか山頂に着きました。そこから眺めた富士山が、自分が考えていたよりもずっと大きく見えて感動しました。

それ以来、アスファルトの道よりも山道を歩きたい気持ちが大きくなりました。歩いていて見つけた花、聞こえてくる鳥の鳴き声、景色の良さなど、楽しみが増えました。

「高尾山が庭」という友達と歩いた高尾山では、彼女が山頂で豆をひいてコーヒをいれてくれた味わいは忘れられません。となりのテーブルで焼き肉をしているのも気になりましたが…。

初心者なので大きな山や険しいコースはなかなか行けませんが、近いところでは大野山、矢倉岳、金時山を歩いてみました。その度に富士山を近くに見ることができて嬉しい限りです。

山歩きの不思議は、当日は早起きして気温やコースに神経を使いかなり疲れますが、翌日は何かしらリフレッシュされているようで気分が違います。

標高の高い山も歩いてみました。唐松岳と富士山（七合目まで）。唐松山荘までの途中で、八方池を見て本当にガイドブックのような景色を見ることができました。

富士山は七合目でも十分ご来光を仰ぐことができました。上の方の登山者が万歳をしていました。私は太陽に向かって思わず合掌しました。本当に素晴らしい体験でした。ただ、私は高山病がひどく出る体質のようで、吐き気とめまい、頭痛に悩まされ、せっかく山小屋で用意してくれた朝ごはんを手を付けられず、食べないとバテることがわかっていたので、無事下山できるか心配で仕方ありませんでした。

少ないハイキングの経験からでも、富士山が見えるコースを歩くと何故か気持ちが高揚します。ただ富士山は五合目までは行ってよい場所で、それより上は富士山から来るなど言われているような感じがします。

このご時世、大きいリュックを背負って電車に乗るのがはばかれます。医療従事者の方々に感謝しつつ、コロナが収まり大腕振って出歩ける日が来ることを待ち望み、楽しく歩けるよう体力を落とさないようにしたいと思います。

初心者で経験も知識も無く、支部に入会するもなかなか山行に参加できませんが、横浜支部の皆さんには色々教えていただきたいです。

山の始まり

高木 千代美

「尾瀬の草紅葉が見頃となりました」 そんなニュースが流れて、テレビの画面にはなにやら美しい景色が映し出されています。

はて、草紅葉(くさもみじ)って何だろう…？ 始めて耳にする言葉に興味を湧き、早速ツアーに申し込んで出かけたのは、今から 20 年前のことです。夜行バスに乗り、鳩待峠から懐中電灯を片手に足下を照らしながら歩き出しました。次第に辺りは明るくなりましたが、初めての尾瀬ヶ原は深い霧に包まれた真っ白な世界。暫くすると舞台の幕が上がるように霧が昇っていき、一面に紅葉した湿原が現れました。そこはまるで一幅の絵を見ているような景色で、当時の驚き・感動は今でも忘れることができません。



【2001.10.7 尾瀬ヶ原】

それからというもの、季節ごとに尾瀬に出かけ、ミズバショウ・トガクシショウマ・ワタスゲ・ニッコウキスゲ etc. と沢山の花にも出会いました。

この尾瀬の美しい自然がきっかけとなり、私の山歩きが始まりました。この世のものとは思えない天上の花園、岩陰に咲く花、落ち葉の中からひょっこりと顔を出した花、どれも山に登らなくては見ることはできない健気な姿、美しさでした。そして歩き続けて疲労困憊した時に見た大きな山の景色や響き渡る鳥の声など、どれほどほっとして癒やされたことか。

これからも四季折々、自然の中に身を置いて山の時間をゆっくりと楽しんでいきたいと思えます。



【2002.5.30 水芭蕉】

山

城戸 靖子

私は、山とは縁のない生活をしてきました。母方の 18 歳年上の叔母が言うには、以前の私は、山小屋に泊まるとか、温泉に行くなどは全く考えられず、現在登山をするというのが信じられないそうです。

叔母は、7 歳のとき終戦を迎え、沼津で空襲も体験し、それなりに昭和の時代を生き抜いてきた人です。それでも山登りは 1960 年代、子育てが終わった 1990 年以降はいろいろ登ったようです。叔母の随筆で義叔父の写真を載せた「詩のある山行き」という本を見るとよくわかります。1997 年出版です。

この本の影響だと思いますが、私が 40 歳位の頃、初めて立山に登る機会がありました。当時男性中心の職場で、水曜日が休みだったので、思うように友人と出かけられず、職場の方たちが立山に行くというので、参加させてもらいました。初めて登った 3000m 級の山の景色は、すぐに虜になってしまいました。

それまで外国の景色はいろいろ体験していましたが、日本にも看板の無い、景色そのものが美しい、今から考えると当たり前の話ですが、尾根伝いに両側に広がる雪をかぶった山々の景色は、見た事が無かったせいか、荘厳で、そこに自分がいる事自体不思議な気がしました。スイスやカナディアンロッキーの景色に劣らない身近に見た山々でした。それ以降、その職場では、高い山に行く機会はありませんでした。

今から十年くらい前でしょうか。たまたま友人と中房温泉に 2 泊する機会がありました。温泉でゆっくりしようという算段でした。そのころ 3 人とも仕事が忙しく、合間を見ては温泉旅行で癒やしていました。それまで温泉と言えばカラスの行水だった私ですが、秘湯の温泉でゆっくりつかるという事も覚えました。

言うまでもなく、中房温泉は燕岳の入口です。夕方になると登山者が立ち寄ります。話を聞くと初心者でも登れる山だと言われました。まだ登れるうちにと、その言葉を頼りに次の年、燕岳に登ろうと友人に声をかけました。これが私の登山の始まりです。

その後、1 年に 1、2 回高い山を目指し、低山で練習する程度の友人の集まりでしたが、コロナ禍もあり、次第に活動が少なくなっていました。今は、年齢と登山の機会とのせめぎ合いです。

一生のうちで、できれば燕岳に登ってみたい、雲ノ平という地上の樂園に行きたい、などと良く知らないのを良い事に無謀にも登ってきましたが、これからは花を求めて、ゆっくり登山できたら良いかしら？などと考えています。



山で華やぐ

服部 八重子

1993年、横浜支部に入会してから、こぼれる程の山の思い出をいただきました。

珠算教室の休みの土曜、日曜を山行にあてて下さった山友と、“気をつけて行ってきてね”と送り出してくれた家族のお陰で、百名山を踏破することが出来て、感謝しています。山行後はお花畑やメンバーの満面の笑顔の写真がA4にパッチングされ、保存されています。

北海道の山行は、友達も駆けつけて下さり、思い出の山になりました。

比羅夫駅の隣りにロッジがあり、構内でバーベキューをしたり、ほろ酔い気分のまま、通過する列車に向かって“一杯いかが？”とおたけびをあげていました。丸太をくりぬいたお風呂があり、見えたの、見えないのと、大騒ぎの夜でした。

幌尻岳は、天候と川の水量に影響されるので、何度も計画を練り直して、8月上旬に決行しました。渡渉に備えて、前日に河のほとりにテントを張りました。滑らない靴の手配やら、リーダーは大変だったと思います。

2003年8月、針ノ木、蓮華岳に登山しました。船窪小屋のランプの宿でチャランゴ(南米民俗楽器)の調べに、悠久のひと時を過ごしました。その夜、福島之母が危篤との知らせが届き、翌朝、山の格好のまま新幹線に飛び乗りましたが、間に合いませんでした。

今は大好きな高尾山に登っています。

駅からすぐの琵琶滝コースに入り、川のせせらぎや鳥の声に癒される90分の楽しいひと時です。今年はオリンピックの年です。頂上にシンボルの五輪の大きな輪が、山を背に設置されていました。

山なみに新緑に仕事の疲れもリセットされます。



支部創立 60 周年記念 大野山植樹報告

小澤 勝太郎

支部創立 60 周年行事として大野山山頂に「大島桜」2 本を支部の記念樹として 2016 年 12 月 10 日に参加者 20 名で植樹を実施しました。

その後毎年 4 月の桜の咲く時期に、支部山行で大野山を訪問してきましたが、実施から 5 年を経過して 65 周年を迎えるにあたり、計画から植樹完了後の現在に至るまでの経緯を記録して、今後も継続して記念樹を見守ってゆきたいと思い、65 周年記念誌「羊歯第 35 号」に植樹実施経緯を寄稿します。

スタートは 2015 年の支部委員会に於いて、60 周年記念行事の一環に植樹計画を提案して採用され、実施することが決まりました。準備メンバーには池田様、板垣様、小笠原様にご協力を頂きました。

1. 植樹場所の選定

委員会決定を受けて植樹実施場所探しを 2016 年 4 月から開始しました。今回の計画で最も悩んだのが場所探しでした。希望候補地としては、誰もが気軽に訪問できる県内で、ハイキングクラブとしての植樹地にふさわしい場所をと考え、まずはホームグラウンドである東丹沢周辺です。

「大倉高原山の家」の裏のテント場に秦野山岳会が 2002 年に桜ソメイヨシノ 7 本を植樹しているとの情報を得て、その近くに植樹できないかと、法務局で 30 名近い地主（部落共有地）を調査してその中の責任者と会った結果、「大倉高原山の家」管理人と県が係争中なので、そこは望ましいとは思えないとの意見から諦めました。現在「大倉高原山の家」は閉鎖されています。

次にヤビツ峠のバス停上部の大山登山口の公園も立地条件が素晴らしい所であり、秦野市役所観光振興課を訪問した結果は、開発計画があり現在は触れないで欲しいとの回答。現在その場所にはレストハウスが完成しました。

また、鍋割山山頂ではと小屋主の草野様に会いましたが、県の土地だからダメとのこと。この他に支部会員から神社境内や金時山の民宿庭、大野山はどうか等の情報が寄せられました。

大野山は、山頂周辺が県の乳牛育成牧場で牧歌的な雰囲気があり、植樹には最適と思える場所です。ダメ元でと思いながら県庁畜産課に電話したところ、「県所有地はダメだが、それ以外は山北町の所有のため山北町から電話するよう話してあげますよ」との嬉しい回答。山北町役場から電話を受けて植樹 OK となりました。

山頂の地権は山北町財産区に属しており、山北町役場財務課が管轄しています。その後、植樹場所に関してメンバーと現地を確認し、山北町との折衝を経て現在の場所に決まりました。このような経緯で大野山に場所の選定が

できたことは本当にラッキーだったと思っています。場所選定に当たって法務局や市役所、また地主との面会、候補地訪問、草刈実施等に参加、ご協力頂いた方々に誌面を借りてお礼を申し上げます。

現在植樹した場所は一面草原状態になっていますが、最初は草丈 1m 位のススキが生い茂っていて、これを刈取、根を掘り起こして植樹が可能な平地にしました。ここにはトイレ、東屋があり、丹沢山塊、相模湾が一望でき、富士山の眺めが最高で関東の富士見百景に含まれる景勝地です。4月の桜開花時期には植樹場所の隣に桜の大木もあり、それらが満開となって真に綺麗なお花見が楽しめる素晴らしい場所です。

この場所を提供して頂いた山北町は 2019 年秋の台風で、ハイキングコースや登山道に甚大な被害が発生して、支部会員からの提案で 2020 年 7 月に支部特別会計から寄付を実施しました。山北町町長から支部宛にお礼状が届き、支部ニュース 2019 年 8 月号に掲載しました。



〔2016.10.23 草刈りの状況〕



〔2016.12.10 植樹記念(齋藤郁夫様撮影)〕

2. 植樹内容

- ◇大島桜 樹高 2.5m 2本 (大島桜に決定したのは山北町の推奨で、山頂は風が強いためソメイヨシノ、河津桜は不適とのこと)
- ◇樹高は現在 4m 位に育っています。植付けは松田町の園芸店、(株)グリーンカンパニーに依頼しました。植樹実施時に全員が根本に土かけを行いました。
- ◇風避け支柱(鳥居型)を取付け
- ◇鹿避けネットを取付け
- ◇プレート(銘板)を取付け アクリル板 1枚 サイズ 23cm × 17cm (A5版)

〔プレート記載文言〕

創立 60 周年記念植樹
“大島桜”
SHC 新ハイキングクラブ
横浜支部
2016 年 12 月

3. 植樹実施後の記念樹訪問履歴

- | | | |
|---------------|------------------------|--------|
| 1. 2016/12/10 | 植樹、セレモニーと芋煮会実施 | 20 名参加 |
| 2. 2017/4/17 | 花芽は見当たらず。来年に期待 | 10 名参加 |
| 3. 2017/12/9 | 忘年山行で大野山登山（中川温泉泊） | 11 名参加 |
| 4. 2018/4/14 | つぼみあり、チョボチョボ咲いていた | 8 名参加 |
| 5. 2019/4/13 | つぼみがあっても開花は見られず。 | 11 名参加 |
| 6. 2020/4/12 | 葉桜状態 コロナ禍のため山行中止（車で訪問） | |
| 7. 2021/4/11 | 4～5 輪が咲いていた。 | 10 名参加 |

現在まで記念樹が満開になっている状態は、一度も観ることができていませんが、将来 10 年、20 年にわたって創立の意義を確認し、気持ちを一つに集える場所が作れたことは良かったと思います。

計画当初に会員の方から、植樹された樹木の位置づけを例会において、公式に支部の資産と認定すること、その維持管理に年間計画を作成して実施にあたること等、貴重なご意見を頂きました。現在まで支部山行として毎年 4 月に年 1 回の訪問を実施できております。

もし、記念樹が枯れたら再度植えましょう。会員は時の経過とともに入れ替わりますが、記念樹は成長して残っています。今後支部を離れても是非機会を作って、大野山の支部記念樹を訪問して、みんなで大野山の支部記念樹「大島桜」を見守ってゆこうではありませんか。

大野山は簡単な日帰りハイキングには最適な場所です。山頂までは谷峨駅から 1 時間 40 分、往復で 3 時間です。山北駅からは山頂までタクシーでも行けます。

（以上）



〔2021.4.11 大きくなった支部の桜〕



〔2021.4.11 本部支部合同祈念山行 大野山山頂にて〕

私の山行・その3 …この5年間に振り返る…

竹尾 亮三

私が横浜支部に入会した理由、山行への期待、思い出の山行などを「私の山行」の題で2011年12月発行の羊歯第33号(55周年記念号)に、その5年後の2016年12月発行の60周年記念号に、「私の山行・その2…この5年間に振り返る…」を掲載して頂きました。

65周年を迎え、2016年4月から2020年1月まで実施した山行から選び、思い出の一端を記します。

この5年間で出かけた山行は、支部山行と個人山行の合計で、127回でした。私の山行開始は会社卒業の直前です。私が係をする山行は体力、技術等を考え、展望、お花、写真撮影、未知との遭遇などを楽しめる山を選び、行動時間に余裕を持って計画しました。その山の歩きたい時期、期待するものに少しこだわりました。

期待した雷鳥親子に会った時、初めての高山植物や見頃の花に出会った時は嬉しいものです。写真を整理し、USBメモリーに保存しています。

1月、正月は今まで行ったことがない七福神巡りを2015年から計画しました。2016年「佐倉七福神と武家屋敷」、2017年「小田原七福人と小田原城址」、2018年「小江戸・川越の見所と七福神」、2019年「青梅七福神」に出かけました。

2014年まで8年間続けた支部山行としての冬のスキー山行は、2015年以降、高校の学友と毎年、温泉宿泊り2泊3日で続け、2016年は草津国際スキー場、2017年札幌国際スキー場～ニセコスキー場、2018年、2019年は野沢温泉スキー場でした。

2016年4月、日影沢林道～城山(670m)～高尾山(599m)に春山を待っていた私を含め14名が参加して、タカオスマレをはじめ色々なスマレやニリンソウ、シュンラン、桜などを楽しみました。

2016年4月、日光市の鳴虫山(1104m)では、見頃のアカヤシオの大きい、優雅なピンクの花は急登の疲れを忘れさせてくれました。

2017年4月の坪山(1103m)は6年ぶりに訪れました。ロープを張った岩場の急坂に咲く淡ピンクのイワウチワ群を楽しんだ後、緩斜面に咲く淡黄色のヒカゲツツジ群が迎えてくれました。

2018年4月、武蔵丘陵森林公園での「野草コース～お花見バーベキュー」では、準備なし、席とりなし、後片付けなし、¥3000のみ持参で見頃、見事なソメイヨシノ群に囲まれ話に花が咲きました。



〔2018年4月1日
国営武蔵丘陵森林公園
バーベキュー広場、
生ビールジョッキで乾杯!〕

2018 年 4 月 16 日の御岩山～高鈴山が、私の 500 回目の嬉しい記念山行になりました。1 回目は 2003 年 9 月大野山 (723m) ～丹沢湖、第 100 回は 2007 年 2 月千葉の鳥場山 (267m)、第 200 回は 2009 年 9 月奥多摩の御前山 (1405m)、第 300 回が 2012 年 7～8 月の白馬三山 (2932m)、第 400 回が 2015 年 8 月の入笠山 (1955m) でした。私の山行の約 95% が初めて登る山、初めて歩くコースでした。一緒に歩き、楽しんだ学友、横浜支部の皆さんに感謝です。

2018 年 5 月、釈迦ヶ岳 (1633m) ～スズラン自生群生地 (1330m) では冠雪の富士山とトウゴクミツバツツジとヤマツツジ越しに青空にそびえる残雪の素晴らしい富士山を眺めました。写真を SHC 本部に投稿したところ、新ハイキングクラブ 2020 年 5 月号の表紙に掲載されました。

2019 年 6 月、田代山 (田代湿原 1971m) ～帝釈山 (2060m) を鬼怒川温泉・ホテルおおり 2 泊 3 日で、温泉とハイキング、登山、散策などを楽しみました。初日は鬼怒川の清流が侵食した龍王峡の溪谷の素晴らしい景色を見ながら周回しました。2 日目、登山道からミツバオーレンやタテヤマリンドウなどの花と日光連山を見ながら登り、田代湿原の木道に出ると、正面に青空の下、冠雪の会津駒ヶ岳連山と紺色の池塘が現れ感動の景色。帝釈山に向かうと、初めて見る、純白の見頃、見事なおサバグサが山道沿いに続き感激。おサバグサ街道を進み帝釈山頂に到着。尾瀬の冠雪の燧ヶ岳も素晴らしい。おサバグサを見ながら馬坂峠に到着。最終日は朝、鬼怒川温泉の楯岩大吊橋から鬼怒川の溪谷の景色を見て、楯岩のてっぺんの展望台に登り、鬼怒川溪谷、大吊橋、温泉街を見下ろしました。



〔2019 年 6 月 13 日 会津駒ヶ岳連山をバックに田代湿原で〕



〔見頃見事な純白のおサバグサが続く〕

2016 年 7 月は、10～11 日、尾瀬沼 (1660m) ～尾瀬ヶ原 (1400m) を青空の下、単独で歩き、24～26 日は鳳凰三山へ、31 日～8 月 3 日は白山に出かけ、充実の 7 月でした。

鳳凰三山では薬師岳 (2780m) に向かう登りから、見頃の、淡いピンク、紅紫、白色のタカネピランジが次々と現れ、観音岳 (2840m) ～地藏岳 (2764m) ～鳳凰小屋まではタカネピランジ街道でした。地藏岳・オベリスクの直下の岩にタカネピランジが咲いているのに感動し、A4 の写真を私の寝室の壁に額に入れて飾ってあります。

白山は標高 2080m と 2450m の 2 か所の山小屋に泊まり、主峰・御前峰 (2702m) から、点在する火口湖 (池) の周回コースを歩き、3 日間たくさんの、色々な花と展望、オコジョや、とぐろを巻いた蛇に出会うなど、色々体験した楽しい山行になりました。

2017 年 7 月、予備 1 日を入れ 5 泊 6 日で北海道大雪山の黒岳 (1984m) 北鎮岳 (2244m)

北海岳（2149m）白雲岳（2230m）、他 3 山の縦走を計画しました。避難小屋 3 泊の為に 8 名全員が自炊用の食料を、男性 3 名がコンロと燃料を持参しました。雪の多い年でアイゼンも持参しました。2 日目の北海岳への幅 20m の徒渉は雪解け水が多く、渡れず、噴火口跡の御鉢平の稜線の 2100m 級の 4 山を一周して北海岳に到着しました。予備日をとっていたので白雲避難小屋に 2 泊して、予定のコースを歩けたことに感謝です。広さでも花の種類之多さでも日本一の高山植物の群落を誇る天空のお花畑を十分に楽しみました。北海道最高峰の大雪山は 2291m です。

2017 年 7 月 30 日～8 月 1 日、2 泊 3 日で木曾駒ヶ岳（2956m）と岩峰の宝剣岳（2931m）を登りました。青空の下、宝剣岳を見上げ、シナノキンバイの群生を見ながら急坂の千畳カールを登り、宝剣山荘を経由し、コマクサを見て木曾駒ヶ岳に到着。宝剣岳、三ノ沢山に伸びる稜線、富士山、北岳の眺望が素晴らしい。駒ヶ岳周辺に咲くヒメウスユキソウにも出会えました。



〔2017 年 7 月 31 日 千畳敷カールから宝剣岳を望み、8 月 1 日宝剣岳の鎖場を登る〕

2018 年 8 月、北沢峠から仙丈ヶ岳（3033m）～小仙丈ヶ岳（2855m）の周遊コースを歩く。2 日目、北沢峠のこもれび山荘を出発、トリカブト群生やヨツバシオガマ等の花が続き、宿の馬ノ背ヒュッテを経由してお花畑のある馬ノ背に向かうと、仙丈ヶ岳と小仙丈ヶ岳の山頂と稜線が素晴らしい。鳳凰山で見た淡紅色のタカネビランジを見つける。最終日、ご来光を見れず、出発はガスの中。日程を変更したので、泊まれなかった仙丈ヶ岳直下の仙丈小屋の前には風速発電用小型風車が 10 基並んでいて、標高 2890m の高地で電力で水洗トイレを実現した技術に驚く。40 分で仙丈ヶ岳に到着。残念ながらガスで展望なし。向かう小仙丈ヶ岳へ下り、登り返す鞍部で小仙丈ヶ岳の上に青空も見え、嬉しい。振り返ると仙丈ヶ岳の山頂も見える。淡黄色のトウヤクリンドウ街道が続き、こもれび山荘に向かう。久しぶりに 3000m 級の山を楽しみました。

2018 年 9 月、NHK BS TV で私と同姓の 40 代の竹尾ガイドがお勧めの紅葉のコースを案内するのを見て、紅葉を期待して濃ヶ池（2650m）～木曾駒ヶ岳（2956m）を歩きました。

千畳敷から雲一つない青空の下、宝剣岳を見上げ、後方には甲斐駒、北岳、富士山を遠望し、宝剣山荘経由で濃ヶ池に向けて降りる。紅葉に染まった山肌、ハヶ岳連峰が遠望される。ハシゴ、徒渉、大小の岩に苦戦しながら濃ヶ池に到着。目前に紅葉した氷河が削った絶壁のカール、宝剣岳が遠望される景色は素晴らしい。濃ヶ池から登り返し、駒ヶ岳に

向かう急登を終えると、先ほど見上げたカールの頂上にいる事が判る。馬の背を経て駒ヶ岳に到着。

2019 年 9 月、日本で一番早く紅葉が始まる北海道・大雪山の紅葉の名所 4 か所を、予備日 1 日を入れ、5 泊 6 日で巡りました。

2 日目、青空の下、黒岳（1984m）の 9 合目のまねき岩と付近の紅葉の素晴らしい景色を見て黒岳に到着。山頂からは紅葉を散りばめた北鎮岳（2244m）、翌日登る北海岳（2149m）など、見事な大パノラマ。縦走路を降りると宿泊の黒岳石室の周辺は赤、黄、橙に緑が混ざり、青空を含めたコントラストが見事。お鉢平展望台への山道沿いはチングルマ群落の赤やウラシマツツジ群落の真っ赤な紅葉、遠くにはウラジロナナカマドの鮮やかな橙色、北海岳の姿と合わせて感動の眺望である。展望台から、カルデラの御鉢平の端から流れる赤石川の周りに点々と宝石のように輝く紅葉。北鎮岳分岐の手前 100m で、風が出て、北鎮岳山頂にガスがかかり、ここで残念ながら黒岳石室に向けて往路を引返す。

3 日目は赤石川の 20m 幅の徒渉を慎重に渡り、斜面が赤・橙色の横列の紅葉と緑色の横列が幾重にもなっている横縞模様を見て、稜線を登り北海岳山頂に到着。360 度の展望に旭岳、トムラウシ山、白雲岳を美しく眺める。往路を戻り、黒岳石室経由で黒岳を経由して層雲峡に降りる。前日より紅葉が進んだ山道からの景色を楽しみ民宿に到着。

4 日目は防寒着と雨具を付け、銀泉台のパトロール事務所を出発。ダケカンバ林の林道を進むと赤岳登山口。山肌が見える展望所まで 30 分登り、状況判断をし、小雪が降る中を銀泉台に戻る。パトロール事務所で暖房と熱湯の提供の幸運に恵まれ、バスに乗り層雲峡の民宿に向かう。

5 日目は防寒着と雨具を付けて、ヒグマ情報センターで雪の山道状況を確認、積雪は 20～30cm、踏み跡がある山道を、時折紅葉を見ながら登る。3 か所目の大学沼で、状況判断をして往路を戻す。バス停前の暖房の効いた大雪高原山荘でコーヒーと昼食を食べ、層雲峡の民宿に向かう。

6 日目は旭岳ロープウェイ山頂駅から積雪 30 cm の踏み跡を進むと、青空に噴煙を上げる真白い旭岳が現れ、絶景。紅葉がアクセントを付けた北海道の最高峰・旭岳を楽しみながら姿見ノ池展望台に到着。水面に噴煙と旭岳、青空が映っていて素晴らしい。噴煙展望台の、音を立てて噴煙があがる迫力は凄い。予定の裾合平のチングルマ群生の紅葉は雪の下なので、登るのを止め旭川空港に向かう。色々経験、遭遇し、幸運、温かい親切を受け、心に残る素晴らしい山旅山行でした。



〔2019 年 9 月 17 日 真っ赤な紅葉の絨毯越しに北海岳〕



〔2019 年 9 月 21 日 噴煙上がる旭岳をバックに青空と紅葉と前日の新雪のコントラスト〕

2018 年 10 月、那須高雄温泉のおおるり山荘に 2 泊し、紅葉の絶景ポイント姥ヶ平（1594m）～朝日岳（1896m）を登る。山荘の部屋からご来光と雲海を眺め、ロープウェイ山頂駅から登り、牛ヶ首に到着すると、荒々しい茶臼岳が青空に噴煙を上げている。少し降りると突然、紅葉した山肌と斜面に囲まれた姥ヶ平が眼下に現れる。素晴らしい景色で足が進まない。姥ヶ平で、見頃の紅葉越しに見る噴煙立ち上る茶臼岳の景色は絶景である。小さいひょうたん池に着くと、紅葉と茶臼岳（1950m）が鏡のような水面に青空と共に映っている、感激！ 沼原の分岐を経て那須岳避難小屋まで、陽を浴びての約 2 時間は素晴らしい紅葉街道を楽しみました。

2019 年 12 月 1 日は、桜山公園～桜山（591m）～桜山日本庭園～八塩温泉で、見頃、見事な紅葉と冬桜の競演と周囲の山々の眺望、噴水を配した日本庭園と温泉を楽しみました。さすが国の名勝、天然記念物に指定されている 7000 本の冬桜でした。

2020 年 1 月 18 日、焼津市の高草山（501m）が私の系の最後の山の支部山行になりました。78 歳の誕生日の翌日、冬の陽だまり山行・557 回目をしました。感謝です。3 月に入院、手術、4 月退院の後は新型コロナ感染の危機が続きました。557 回の山行で撮った、USB に整理保存した写真が 32GB の USB2 本のアルバムになっています。入院中、四季折々に訪れた山行での景色、花、紅葉、参加者の笑顔などをデジタルフォトフレームでスライドして楽しんでいました。

以前から 80 歳になったら支部山行の係を卒業すると決めていましたので、2021 年 11 月と 12 月のウォーキング支部山行で、係を卒業することにしました。今後はハイキングやウォーキングコースを個人山行として歩きたいと思っています。我が山行人生に悔いはなしです。

私自身が行きたい山行を計画しました。参加してくれた皆さん ありがとうございます。また他のリーダーさんの山行にも参加させて頂きました。ありがとうございました。



〔2018 年 4 月 16 日 高鈴山にて筆者
第 500 回記念山行（御岩山～高鈴山）〕



〔2012 年 7 月 30 日 白馬岳にて〕
第 300 回記念山行
〔白馬三山縦走 7 月 29 日～8 月 1 日〕

（2021 年 5 月 7 日 記）

70代になった山女

谷 真理子

前回の羊歯より早くも5年が経過し、60代から70代に年代が移りました。私なりに酸いも甘いも体験し、人生の重みを感じる様になりました。

ここ数年、横浜支部の山行計画も、結構施行せずが続いております。コロナの影響で中止が多く残念ではあります。しかし、休業したわけではなく、鋭気を養おうと気張っております。若い方々が、また、鳴りを潜めていた諸先輩方が、再び立ち上がって頂けたので、大変有り難く感謝致しております。その分、所属している他の支部にも役に立つことができますゆえ、横浜支部でこれまで施行しました数々の計画を、少しずつ使用することが出来ます。

私は若い頃より山行ノートをつけております。過去の山々、数十年ご無沙汰の山々も、山行ノートを所持して歩きますと、成る程、多少はルート変化していてもとても役立ちます。山行ノートは、地図と同様、山の生命線にもなるものです。リーダーと一緒に連れて行ってもらえたら、また、二度目に行くときは、自分が連れて行くのだと言う気迫が、山好きの人への義理を果たすことが出来ると思います。金魚の糞にはなってほしくはないのです。

元に戻りますが、山行ノートはコクヨのキャンパスのミニノートBをお薦めします。リングノートは破けたらオジャン！です。ノートには横線があり、年・月・日・山行名を書き、次回は次の段へ書いていくと、一年間の記録になります。タクシーの料金やタクシー会社の電話番号、登山口から分岐、頂上までのメモ、さらに下りルートの下山口までのメモ等々です。御案内なさるリーダー方も、メモを取るあいだは足を止めて、記入するまでご協力して頂きたいものです。リーダーは歩く速度に気を配ることも必要です。ついて行くのに精一杯で、そのまま歩くと転んで怪我もするし、後、疲労感が残ると二度と参加せずになります。

自然界の息吹を感じながら、楽しく歩き、五感を磨いて行きましょう！ また、5年後に…！



〔私の好きなカタクリの花〕

(続)山梨百名山

久保 正文

前回の羊歯第34号(60周年記念号)では、「私の百名山」の題名で山梨百名山について寄稿しました。65周年記念号でも、続いて山梨百名山と、普段思っていることを書きたいと思います。

一部前回と重複しますが、山梨百名山は、平成9年に山梨県が県内各地の100山を選定したものです。山国山梨県ですので、日本一の富士山から第二位の北岳、第三位の間ノ岳(m表示では奥穂高岳と同位)と日本の山岳標高順の金、銀、銅とまさに表彰台独占の豪華さです。

私が山梨百名山を目標とする理由は、なんといっても出身が山梨県で故郷の山だからです。何か目標となる山があった方がモチベーションも上がり、達成感もあるかと思い、手近の山梨百名山を目標としました。



〔山梨百名山手帳〕

◇各山の簡単な紹介があり、登頂履歴が記入できるー希望者に配付しています。

ところで皆さんの「なぜ山に登るのか？」の問いへの答えは何ですか。「暇つぶし、健康のため、自然との一体感や達成感、仲間との語らい、下りてからのビールのうまさ(やっぱりこれでしょう)や温泉・・・」。

有名なものに、「そこに山があるから」という名(迷)文句があります。エベレスト初登頂を競う英国隊の登山家ジョージ・マロリーの新聞記者の質問への回答の言葉だそうです。しかし、マロリーは、そこに山(エベレスト)があるから(Because it's there)と単純に答えたものが、日本ではなぜか山一般を指すように翻訳(誤訳?)されて、なんとなく哲学的な問答となっているのが真相のようです。

余談になりましたが、私の答えは、上にあげたすべてがあてはまるというものです。日本百名山の著者の深田久弥が「百の頂に、百の喜びあり」とっていますが、まさに「百の山登りに、百の喜びあり」と思っています。



〔茅ヶ岳登山口の深田久弥記念碑〕
◇「百の頂に、百の喜びあり」

昨年５月から支部山行として「山梨百名山」シリーズの山行を開始し、昨年中は第６回まで実施することができました。昨年は主に中央線沿線の山に行きましたが、今年は主に御坂山地および南部（静岡県側）の山を毎月１山計画したいと思っています。このおかげもあり、１月時点で７８座の山に登頂済みです。残り２２座ですので、今年中または来年初め頃までには達成したいと思っています。

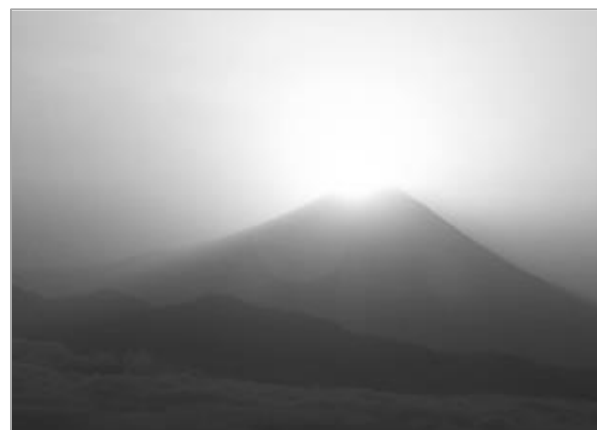
山梨百名山には、エキスパート向けと指定されているやや難峰が４山あります。岩山で初歩の岩登りがある鋸岳（南アルプス山系）と鶏冠山（奥秩父山系）、登山口からの標高差が大きく、途中に山小屋がないためテント泊が必要となる策ヶ岳（南アルプス山系）と笹山（同山系）です。

これらの山は支部山行での実施は難しいので、希望の方がいましたら、個人山行で実施したいと思います。但し、私の体力的にこれら難峰に再度登る賞味期限は、あと数年と思いますので早めの希望をお願いしたいと思います。

新ハイ横浜支部の皆さんも、是非一緒に「山梨百名山」の登頂達成を目指しましょう。



〔難峰の一つ、鋸岳稜線〕



〔七面山からのダイヤモンド富士〕
◇春秋の彼岸にみられる

新ハイキングとの出会い

小黒 陽子

ふと立ち寄った書店で、新ハイの本を見かけたのが始まりでした。

仕事を辞め、毎日介護に追われる生活をし、解放されたいという欲求が強い時期でした。時間的拘束があっても、山行計画が多数あったのが魅力で、即、電話をかけたのを覚えています。

60歳を超えて本部に入会。歩くのが嫌いで、すぐ車に乗る生活をしていた人間がハイキングとは!! 自分でもビックリしました。入会はしたものの、さあハイキングに行くのがやっとで、全く歩けない。帰宅後1週間は疲れて思うように動けない日々が続きました。それでも続けられたのは、家から離れた解放感があったから。これが精神的に良かった。

街中歩きは年配の方が多く、参加するたびに、孫が何人もいるのに「若い」と言われ、不思議な感覚でした。世間的には60過ぎの疲れたおばさんを、若いとは言いません。新ハイ本部の年上の方々が、元気はつらつ頑張って歩く姿を見るたびに、リフレッシュして帰宅。歩くのが楽しみになってきました。そのうち、参加するたびに持ち物や歩き方等を見聞きし、何とかついて歩けるように。そこで少し欲が出て、横浜支部に入会してはや6年。歩きはまだまだですが、介護との折り合いをつけて何とか続けています。

現在、義父母はすでに他界し、3月末、誤嚥性肺炎で父を看取り、実家の母一人を残すのみとなりました。

未だバイクで家と実家を往復する毎日ですが、残された認知症の母と喧嘩しながらも、母との最期のひとときを大事に過ごそうと思えるようになった今日この頃です。

新ハイで「年齢は関係なく、頑張ればまだまだできることは沢山ある」と思えるようになりました。私のいまの生活に欠かせないピリッと山椒のような存在です。



HPギャラリーから転載

(左)支部山行「丹沢主脈縦走」 2021.5.22～23

(上)支部山行「南蔵王縦走」 2021.6.20～21

楽しくなってきた私のハイキング

梶本 弘子

私が新ハイ横浜支部に入ったのは、同じ会社の上司 A 氏からのお誘いからでした。

私は昭和 31 年生まれで、新ハイ横浜支部が発足した年に生まれ、今年で 65 歳です。何と長い年月とともにあるのかと思うと、すごく考え深いです。

もともとは、子供の頃から山歩きや山で遊ぶのが好きで、横浜市のはずれでは、自然豊かな場所がまだまだ沢山あった頃。そんな思い出から入会したのですが、お試し山行は「高尾山」で、辛いなのなの。こりゃ入会は間違ったかと内心思ったけれど、折しも山ガールが流行っていた時期。格好から入ってしまった私は、この散財は無駄にできないと心に誓い、軟弱な山ガールが出来上がったのでした。

その後は、年に数回の参加では体力がつくわけもなく、山歩きの楽しみを見つけることもできず、何とも情けない時間を過ごしておりました。ある時、A 氏が「早く山行に参加しないとみんな歳をとってしまうよ」。その言葉に今更ながらハッとし、これはまずいと参加回数が増え、いい先輩に出会い、そのきっかけで世界が広がり、こんなに山って楽しいの？ 登る辛さだけの山行が、仲間との会話や下山後の反省会と称した飲み会が、やたらと楽しくなりました。

それに一番の感動は頂上に登った時に見た景色でした。山々が重なり合う奥行きのある薄紫の世界が幻想的で、スマホでは撮影しきれないもどかしさがありました。その山は「陣馬山」。一体今まで何を見ていたのか疑問ですが、記憶に焼き付けるはかなさは、次回の山行への意欲に変わりました。

仲間に受け入れてもらえないと感じていましたが、自分が溶け込もうとしていない事がよく分かりました。こんな歳になっても、こんな単純なことにも気が付かないとは…、自分を見直すきっかけにもなりました。

今は、登ることより下ることが苦手で、何とか克服することを毎回の課題としています。ザレた下りの急こう配。経験の少ない私には、山梨県にある甲州高尾山の下りは、今のところ一番です。毎回塗り替えられる「私のベスト下り坂」は、今のところ甲州高尾山で止まっています。次はどこの下り坂が一番になるか、楽しみでもあります。

登りでのベスト登りは、滝子山です。寂ショウ尾根コースとすみ沢コースとに分かれていました。地図を見れば、頂上からは同じコースを下る寂ショウ尾根は岩稜でかなり厳しいコースだと知ったけれど、私にとっては下りのコースが同じであれば、寂ショウ尾根に挑戦しようと意を決して臨みました。

ハラハラドキドキしながらの岩稜地帯だったけれど、何故か楽しめました。ガシガシと手足四本フルに使って登る、なんて楽しいのか。うまい具合に足場があり、枝がありで、手足はフル活動。もちろん、先輩方が前後にいらして支持してくれているからでしたが…。



HPギャラリーから転載

(左) 急登を登るメンバー
(上) 山頂集合写真
(右) 滝子山頂の看板

しかしその後、会津蒲生岳に参加しましたが、登りも下りも簡単に記録は塗り替えられてしまいました。急峻になる急斜面、スラブをくさりやロープを頼りに必死に登り、トラバースが何ヶ所もありました。次々に迫りくる私にとっては難関コースでした。下りにいたってはピストンだったので慎重に降りました。途中一度、思いっきりシリモチをつき、その青あざはお尻から膝上まで真っ青になってしまいました。それぐらいですんで本当に良かったとホッとしました。この経験が次に進むと確信しています。貴重な経験をさせていただき、リーダーの1さんを初め、最後まで面倒を見て頂いたメンバーの皆さんには感謝しかありません。



HPギャラリーから転載

(左) 急斜面を登るメンバー
(上) 山頂集合写真
(右) 会津蒲生岳の遠景



先輩方にもう少しお世話になり、色々教えて頂きたい。まだまだお世話になります。

直近 5 年間の横浜支部山行実績を見る

小嶋 幹雄

横浜支部の会則第2条（目的）は、「登山、ハイキングを通じて会員相互の親睦を図る」とことと定め、第4条（活動内容）では、「（1）例会及び支部山行の開催」と定められています。支部活動には様々ありますが、その基本は「支部山行の開催」にあることは言うまでもありません。

この支部山行がどのように実施されたかを見ることは、支部活動の現在地を映し出すことにつながるのではと思われます。そのため、過去5年間の山行記録を別紙に整理し、以下に特徴的な傾向等についてまとめてみました。また、この直近5年間の山行記録が、それ以前の5年間と比べどのように変化、推移しているかについても比較を行いました。なお、実績データはホームページの山行記録から抽出しています。



（1）直近 5 年間の支部山行実施状況と過去10年間の推移

《表1》 直近5年間（2016～2020年度）の支部山行実績

年度	会員数	実施数	実施/会員	宿泊山行数	難易度	参加者数	1回あたり数
2016年度	73名	51回	0.70回	15回（29％）	2.6	484人	9.5人
2017年度	71名	56回	0.79回	17回（30％）	2.7	435人	7.8人
2018年度	63名	48回	0.76回	9回（19％）	2.9	416人	8.7人
2019年度	60名	36回	0.60回	11回（26％）	2.7	294人	8.2人
2020年度	53名	26回	0.49回	6回（23％）	3.2	192人	7.4人
5年平均	64名	43.4回	0.68回	11.4回（26％）	2.8	364人	8.4人

※コース難度は健脚向き＝5、やや健脚向き＝4、一般向き強＝3、一般向き＝2、軽ハイキング＝1で指数化

《表2》 前期5年間（2011～2015年度）の支部山行実績

年度	会員数	実施数	実施/会員	宿泊山行数	難易度	参加者数	1回あたり数
2011年度	83名	59回	0.71回	10回（17％）	2.6	622人	10.5人
2012年度	81名	68回	0.84回	15回（22％）	2.9	586人	8.6人
2013年度	74名	55回	0.74回	16回（29％）	2.6	501人	9.1人
2014年度	66名	61回	0.92回	14回（23％）	2.6	543人	8.9人
2015年度	73名	50回	0.68回	12回（24％）	2.5	470人	9.4人
5年平均	75.4名	58.6回	0.77回	13.4回（23％）	2.6	544.4人	9.3人

直近5年間の年度別山行実績（2016年度～2020年度）は《表1》のとおりです。そして、前期5年間の年度別山行実績（2011年度～2015年度）を《表2》

で示しています。双方の対比をしながら、以下に直近5年間の特徴的傾向について明らかにしたいと思います。

山行実施率について

横浜支部では、毎年度2月、8月に開催される拡大支部委員会（山行計画会議）において、半期ごとの山行計画をたてています。ここで決められた企画が実際に実施されたかを示すのが山行実施率です。

直近5年間の山行企画回数は358回ですが、実施回数は217回であり、実施率は61%となっています。他方、前期5年間は444回の企画がなされ、実施回数は293回なので、実施率は66%となります。

直近5年間の実施率は前期と比べ低下しています。山行中止は天候要因や「係」都合、社会的要因等によりますが、2019年度は台風等の天候要因の影響が大きく、2020年度はこれまで中心的に山行企画を担われてこられた方が病気都合で上期の全企画を中止されたこと、加えて新型コロナウイルスの2回にわたる緊急事態宣言による自粛中止が重なり、実施率が大きく低下したことが影響しています。

山行実施回数について

山行実施回数は大きく減少しています。減少傾向は2015年度以降に顕著です。直近5年間の平均実施回数は43.4回ですが、前期5年間の平均実施回数は58.6回ですので、年間15回（前期比74%）ほど減少していることになります。これまで横浜支部では、毎週1回以上の山行を実施する状況が常態化していましたが、この伝統が直近5年間は引き継がれていないことを示しています。

特に実施回数を大きく減らしたのは2019年度、2020年度であり、前記の実施率の減少要因に加え、後述する「係」担当者の減少などの山行推進体制のあり様によるものと思われます。

宿泊山行の実施状況について

宿泊山行の直近5年間の平均実施回数は11.4回で、その比率は山行実施回数の26%、ならずと月1回程度は宿泊付の山行を実施してきたこととなります。宿泊山行の比率は前期5年間の平均が23%ですから、むしろ上昇しております。これは山行実施回数の減少やコース難易度の上昇傾向にもつながりますが、近場の日帰り山行の実施回数が大きく減少していることの反映とも推察されます。

コース難易度について

コース難易度の設定については、2012年度に横浜支部としての基準明確化がはかられたとされています。それ以降、毎年度の平均難易度は若干の変動はありますが、総じて2.7前後、実歩行時間3～5時間程度の山行が中心になっています。前記の宿泊比率の上昇もあってか、直近5年間のコース難易度は前期5年間と比べ、微妙に上昇傾向も窺えます。

なお、このコース難易度は半期毎の山行計画書をベースに統計をとっていますが、計画時の難易度が実施時の難易度と乖離するケースが多々あります。山行計画会議での十分な検討が求められます。

山行参加者数について

山行参加者数は、2011年度～2018年度にかけては、会員数の減少と相まって漸減してきました。更に、2019年度～2020年度は、前記の山行実施状況を反映し、これまでと比べて半減状態に陥っています。

1回あたりの参加者数は、山行の魅力や会員の参加意欲のパロメーターで

もありますが、これが漸減しつつあります。前期5年間平均の1回あたり参加者数は9.3人で、それが徐々に減ってきて直近5年間平均では8.4人になっています。しかし、1回あたり参加者数の会員数に対する比率は12%から13%と微増しており、必ずしも山行の魅力や会員の参加意欲が減少しているとは言えません。会員数の減少が影響していると思われます。

(2) 直近5年間の山行の特長

直近5年間の山行では、新たなシリーズ企画が立ち上がるなど、山行のパラエティーが大きく広がりました。

「街道を歩く」シリーズは、2008年9月にスタートした中山道、2012年3月にスタートした日光街道、2013年9月にスタートした奥州街道、2014年9月にスタートした甲州街道と続き、今期は2017年3月から北国街道がスタートし、全9回で2018年4月に完歩、2019年9月からは会津西街道がスタートし、全6回で2020年11月に完歩されています。息の長い素晴らしい取り組みで、横浜支部の歴史に貴重な足跡を残しています。

また、支部創立60周年記念行事の一環として、県内の山を60座選定し、順次それを踏破していく企画が実行に移され、2021年度中には全座踏破がなされる予定です。県内の海岸線をリレー式に歩くシリーズも狙上に上っており、2021年度から実行に移されます。

更に、2020年2月からは支部健康登山と銘打ったシリーズ山行が開始されました。毎月第1水曜日を基本に日帰り山行を実施していくという、特徴ある取り組みです。続いて、2020年6月からは山梨百名山シリーズも開始されました。このシリーズもほぼ毎月1回実施されています。

シリーズ企画ではありませんが、定番企画もすっかり定着しています。「おでん山行」は「おでん・焼鳥・合唱山行」に進化しています。「忘年山行」も集中山行方式で、希望者による忘年会を楽しむ企画が復活し、2019年度は寄周辺の山歩き、2020年度は河口湖周辺の山歩きを皆で楽しみました。2021年度は支部創設65周年記念行事として大山の集中山行を実施するとともに、救急法訓練を実施する予定です。

なお、支部山行ではありませんが、太平洋から日本海にかけて日本を縦断するといった特徴ある企画も、個人山行として会員に広く紹介されました。

(3) 「係」担当者の状況

ここ10年間の「係」担当者の推移と、直近5年間の「係」担当者の状況を《表3》と《表4》に示しました。

《表3》 ここ10年間の「係」担当者の推移

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
山行実施回数	59回	68回	55回	61回	50回	51回	56回	48回	36回	26回
「係」担当者数	16名	14名	14名	12名	12名	7名	8名	7名	10名	9名
年4回以上担当者数	4名	7名	5名	6名	4名	4名	6名	5名	5名	3名
上記の実施回数	40回	53回	41回	52回	35回	44回	52回	45回	30回	19回
上記の占める比率	68%	78%	75%	85%	70%	86%	93%	94%	83%	73%

《表4》 直近5年間の「係」担当者の状況

	5年間合計		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
	担当者	回	担当者	回	担当者	回	担当者	回	担当者	回	担当者	回
1	竹尾	76	竹尾	21	竹尾	19	竹尾	23	竹尾	13		
2	鈴木	32	鈴木	10	鈴木	6	鈴木	6	鈴木	8	鈴木	2
3	小澤	24	小澤	5	小澤	2	小澤	6	小澤	5	小澤	6
4	谷	23	谷	8	谷	6	谷	5	谷	2	谷	2
5	井上(恵)	18	井上(恵)	2	井上(恵)	10	井上(恵)	5	井上(恵)	1		
6	芹沢	16	芹沢	2	芹沢	7	芹沢	1	芹沢	4	芹沢	2
7	久保	8									久保	8
8	板垣	5									板垣	5
8	足立	5			足立	2	足立	2	足立	1		
8	小笠原	5	小笠原	1	小笠原	4						
9	桜井	1							桜井	1		
9	渡部	1							渡部	1		
9	齋藤(郁)	1							齋藤(郁)	1		
9	高橋(健)	1									高橋(健)	1
9	若生	1									若生	1
計	係＝15名		係＝7名		係＝8名		係＝7名		係＝10名		係＝8名	

《表3》からは、「係」担当者数が年々減少しつつあることが読み取れます。2011年度に16名いた「係」担当者は、2016年度に7名まで減少しました。これまで「係」を担ったベテランが下り、それに代わる新人の登場が少なかったためではと思われます。しかし、ようやく2019年度から微増傾向に転じました。《表4》が示すように、新たに「係」を担う方が山行実施に至らなかった方を含めると7名誕生、女性の「係」担当者も複数名誕生するなどの新たな兆しが覗えます。

また、年4回以上「係」を担っている方への山行の実施集中率が高まっていることも読み取れます。直近5年間の山行実施回数は217回ですが、年間4回以上の「係」を担われた方の実施回数は190回で、その比率は87%に達します。前期5年間の実施回数は293回で、同じく年間4回以上の「係」を担われた方の実施回数は226回、その比率は77%にすぎません。前期と比べると10%ほど集中率が高まっており、「係」の固定化が進んでいます。継続的に山行を企画し、実施する方の実務負担は多大なものがあります。この特定個人への集中率は、「係」を担ったことがない多くの会員の立場からすると「依存率」と言い換えることもできます。支部創立65周年の節目にあたり、会員皆が等しく山行を担いあう組織風土をいかにめざしていくべきか、私たち一人一人の主體的な関わり方が改めて求められているのではないかと思います。



2016年度～2020年度 支部山行実績一覧

2016年度山行実績(2016年4月～2017年3月)

回数	実施日			山行名	行程	係	コース 難度	参加 人数
	月	日	曜日					
2314	4	2	土	本部・支部合同山行 鷹取山	日帰り	鈴木	2	18
2315	4	3	日	日影林道～城山～高尾山～4号路	日帰り	竹尾	2	14
2316	4	6	水	鷲尾山・八菅山	日帰り	谷	2	3
2319	4	10	日	本部集中 七沢森林公園	日帰り	鈴木	2	10
2321	4	17～18	日～月	女神山・花見山・十万劫山	1泊2日	竹尾	2	9
2324	4	23	日	神ノ主山～鳴虫山	日帰り	竹尾	3	4
2325	5	2	月	大高取山～五大尊つつじ公園	日帰り	竹尾	2	12
2326	5	5	木	松田山ウォーキング	日帰り	谷	2	4
2322	5	20～21	金～土	街道を歩く(甲州街道その13、最終回)	1泊2日	芹沢	2	12
2327	5	21	土	棒ノ折山	日帰り	鈴木	3	5
2329	5	22	日	檜洞丸	日帰り	鈴木	3	13
2330	5	29～31	日～火	戦場ヶ原・竜頭滝～高山・湯ノ湖	2泊3日	竹尾	2	11
2332	6	2	木	要害山～尾続山	日帰り	谷	3	5
2333	6	11	日	三つ峠山	日帰り	鈴木	3	12
2335	6	26～27	日～月	浅草岳・守門岳	1泊2日	小澤	3	7
2336	6	30～7/1	木～金	レンゲ沼～桧原湖畔探勝路・猫魔ヶ岳～雄国沼	1泊2日	竹尾	2	5
2337	7	11～16	月～土	トムラウシ山・旭岳・黒岳	5泊6日	小澤	5	6
2338	7	24～26	日～火	鳳凰三山(薬師岳・観音岳・地蔵岳)	2泊3日	竹尾	4	8
2339	7	31～8/3	日～水	白山・御前峰	3泊4日	竹尾	3	6
2340	8	1～7	月～日	三保蓮華・鷺羽山・水晶岳・雲ノ平	6泊7日	足立	4	4
2341	8	11	木	入笠湿原～入笠山	日帰り	竹尾	2	4
2344	9	4	日	野辺山～飯盛山～清里	日帰り	竹尾	2	7
2346	9	10	土	景信山・城山	日帰り	鈴木	3	6
2350	10	9～10	日～月	大弛峠～金峰山～増富温泉	1泊2日	竹尾	3	9
2351	10	7～9	金～日	裏剣縦走	2泊3日	小澤	4	3
2354	10	22～23	土～日	60周年記念山行 金時山(金時山荘)	1泊2日	鈴木	2	24
2353	10	29～30	土～日	雲取山	1泊2日	鈴木	4	8
2355	11	8	火	甲東不老山	日帰り	谷	3	7
2356	11	10～11	木～金	甲武信岳	1泊2日	小澤	5	4
2357	11	20	日	花貫溪谷～土岳	日帰り	竹尾	2	7
2358	11	22	火	高尾山～城山～相模湖	日帰り	竹尾	3	7
2359	11	25	金	観音崎ウォーキング	日帰り	谷	2	7
2360	11	26	土	高取山・華厳山・経ヶ岳	日帰り	竹尾	3	14
2361	12	4	日	仏果山・高取山・宮ヶ瀬イルミネーション	日帰り	竹尾	3	8
2414	12	10	土	大野山 60周年記念植樹	日帰り	小澤	1	20
2364	12	21	水	南山・志田尾根	日帰り	谷	2	6
2365	1	7	土	扇山	日帰り	鈴木	2	8
2366	1	8	日	小田原七福神と城跡の遺構巡り	日帰り	竹尾	2	13
2368	1	14	土	巢雲山～ミカン園	日帰り	竹尾	2	12
2369	1	24	火	三浦アルプス	日帰り	谷	2	12
2371	2	4	土	おでん山行	日帰り	足立	1	24
2372	2	5	日	富山	日帰り	竹尾	2	9
2373	2	10	金	円海山～大丸山～衣張山	日帰り	井上(恵)	3	13
2374	2	11	土	吾妻山～曾我梅林	日帰り	小笠原	2	12
2376	2	25	土	陣馬山	日帰り	竹尾	2	13
2377	3	7	火	丸岳～湖尻～桃源台	日帰り	谷	3	3
2378	3	10	金	吾妻山～桐生南公園梅園	日帰り	竹尾	2	4
2379	3	11	土	武山・三浦富士	日帰り	井上(恵)	3	11
2380	3	17～18	金～土	街道を歩く(北国街道その1)	1泊2日	芹沢	2	11
2382	3	23	木	城山かたりの里～草戸山	日帰り	竹尾	2	9
2383	3	25	土	本部支部合同山行 要倉山・高茶山	日帰り	鈴木	3	21

51

131

484

2.6

9.5

2017年度山行実績(2017年4月～2018年3月)

回数	実施日			山行名	行程	係	コース 難度	参加 人数
	月	日	曜日					
2385	4	3～6	月～木	熊野古道～奈良吉野	3泊4日	小笠原	2	5
2386	4	9	日	本部集中山行 津久井城山	日帰り	鈴木	3	2
2388	4	15	土	坪山	日帰り	竹尾	3	8
2389	4	19	水	つつじウォーキング	日帰り	谷	3	3
2390	4	21～22	金～土	街道を歩く(北国街道その2)	1泊2日	芹沢	3	8
2391	4	24	月	西場富士～大小山(妙義山)～あしかがフラワーパーク	日帰り	竹尾	3	10

2392	4	29	土	西御奇鋒山・東御奇鋒山	日帰り	井上(忠)	3	7
2393	5	7	日	鳴神山(桐生嶽)	日帰り	竹尾	2	9
2394	5	9	火	町田ウォーキング	日帰り	谷	2	3
2395	5	11	木	鍋割山	日帰り	井上(忠)	4	5
2398	5	20	土	丁須の頭	日帰り	井上(忠)	4	3
2397	5	18～20	木～土	八幡つづじ園地・茶臼岳～朝日岳	2泊3日	竹尾	3	6
2400	5	26～27	金～土	街道を歩く(北国街道その3)	1泊2日	芹沢	3	8
2401	6	5～6	月～火	平標山～三国山	1泊2日	竹尾	3	6
2405	6	13	火	大山	日帰り	井上(忠)	3	5
2406	6	18	日	畑宿～千条の滝	日帰り	小笠原	2	6
2407	6	20	火	江ノ島(夕食会)	日帰り	谷	1	6
2408	7	5～6	水～木	早池峰・薬師岳	1泊2日	足立	3	8
2409	6	23～24	金～土	街道を歩く(北国街道その4)	1泊2日	芹沢	3	9
2414	7	8	土	丹沢寄バーベキュー	日帰り	小笠原	2	10
2410	7	11	火	畦ヶ丸山	日帰り	井上(忠)	4	4
2412	7	18～23	火～日	黒岳・北鎮岳・白雲岳・小泉岳・赤岳	5泊6日	竹尾	4	8
2413	7	30～8/1	日～火	駒ヶ根高原・木曽駒ヶ岳・宝剣岳	2泊3日	竹尾	3	14
2417	8	13～14	日～月	谷川岳～ノ倉岳～茂倉岳	1泊2日	竹尾	3	9
2418	8	19	土	御巢鷹山(三ツ峠)	日帰り	鈴木	3	3
2420	9	1	日	湯ノ丸山	日帰り	竹尾	2	8
2422	9	11	月	明神ヶ岳・明星ヶ岳	日帰り	井上(忠)	3	7
2423	9	19	火	大山南尾根の高取山	日帰り	竹尾	2	6
2424	9	29～30	金～土	街道を歩く(北国街道その5)	1泊2日	芹沢	2	10
2425	10	1～3	日～火	上高地～濁沢	2泊3日	竹尾	4	9
2426	10	11	水	三国山・屏風山	日帰り	井上(忠)	3	3
2430	10	19～20	木～金	街道を歩く(北国街道その6)	1泊2日	芹沢	2	9
2432	11	3～4	金～土	霊山・女神山	1泊2日	竹尾	3	6
2433	11	12	日	両神山	日帰り	鈴木	3	4
2436	11	19	日	宇都宮アルプス4山縦走	日帰り	竹尾	3	8
2438	11	25	土	栗の木洞	日帰り	鈴木	3	6
2439	11	24～25	金～土	街道を歩く(北国街道その7)	1泊2日	芹沢	2	7
2440	11	29	水	三崎ウォーキング(小網代の森と三崎漁港)	日帰り	谷	2	7
2441	12	3	日	梅ヶ瀬溪谷～大福山	日帰り	竹尾	2	11
2443	12	9～10	土～日	忘年山行(大野山)	1泊2日	小澤	2	15
2449	12	15	金	塔の峰～水之尾	日帰り	谷	3	9
2448	12	16	土	大磯ウォーキング	日帰り	小笠原	2	15
2450	1	6	土	菊花山	日帰り	鈴木	3	7
2451	1	7	日	小江戸・川越の見所と川越七福神巡り	日帰り	竹尾	2	11
2452	1	11	木	高取山・弘法山	日帰り	井上(忠)	2	7
2454	1	14	日	津森山～江月スイセンロード	日帰り	竹尾	2	8
2455	1	25	木	三浦アルプス	日帰り	谷	3	4
2456	2	4	日	おでん山行(田浦梅林、青少年自然の家)	日帰り	足立	1	27
2459	2	11	日	浜石岳～薩埵峠	日帰り	竹尾	2	8
2460	2	11	日	大楠山	日帰り	井上(忠)	2	7
2461	2	17	土	大山千枚田～二ツ山～愛宕山	日帰り	竹尾	2	12
2463	3	11	日	鷹取山・二子山	日帰り	井上(忠)	2	10
2464	3	17	土	屏風岩山	日帰り	小澤	4	6
2466	3	24	日	八幡山～鐘撞堂山～カタクリの群生地	日帰り	竹尾	2	13
2468	3	30～31	金～土	街道を歩く(北国街道その8)	1泊2日	芹沢	3	5
2469	3	31	土	本部支部合同山行 鷹落場	日帰り	鈴木	4	5

56

149

435

2.7

7.8

2018年度山行実績(2018年4月～2019年3月)

回数	実施日			山行名	行程	係	コース 難度	参加 人数
	月	日	曜日					
2470	4	1	日	国営武蔵丘陵森林公園・野草コース～桜園・お花見バーベキュー	日帰り	竹尾	2	13
2473	4	13	金	高松山～第六天～最明寺史跡公園	日帰り	井上(忠)	4	5
2474	4	14	土	大野山	日帰り	小澤	2	7
2475	4	16	月	御岩山～高鈴山	日帰り	竹尾	3	6
2476	4	21	土	鎌倉ウォーキング(天園コース)	日帰り	谷	2	7
2479	4	27～28	金～土	街道を歩く(北国街道その9・最終回)	1泊2日	芹沢	3	7
2477	4	28	土	高川山～おむすび山	日帰り	竹尾	2	12
2480	5	5	土	奈良倉山～鶴寝山	日帰り	竹尾	3	7
2482	5	12	土	大菩薩嶺	日帰り	小澤	4	4
2483	5	18～20	金～日	大杉峡谷～大台ヶ原	2泊3日	井上(忠)	5	7
2485	5	20	日	釈迦ヶ岳～すずらん群生地	日帰り	竹尾	3	9
2484	5	26	土	杓子山	日帰り	鈴木	4	5

2488	6	2	土	岩櫃山	日帰り	小澤	3	3
2477	6	17	日	甘利山～千頭星山	日帰り	竹尾	3	10
2492	7	1	日	新山峠～登り尾	日帰り	竹尾	3	9
2493	7	29～31	日～火	月山～高層湿原・弥陀ヶ原	2泊3日	竹尾	3	11
2495	8	10～12	金～日	北沢峠～仙丈ヶ岳	2泊3日	竹尾	4	6
2496	8	11	土	屏風山～飛龍の滝	日帰り	井上(忠)	3	7
2497	8	18	土	玉原高原～鹿保山	日帰り	竹尾	3	10
2503	8	18～20	土～月	越後駒ヶ岳・平ヶ岳	2泊3日	小澤	5	4
2500	9	17	月	大洞山～鉄砲木ノ頭	日帰り	竹尾	3	11
2499	9	23	日	大嵐山	日帰り	鈴木	3	9
2501	9	27～29	木～土	濃ヶ池～木曾駒ヶ岳・宝剣岳	2泊3日	竹尾	4	6
2504	10	8～10	月～水	那須・姥ヶ岳～朝日岳	2泊3日	竹尾	3	5
2522	10	8～9	月～火	西吾妻山	1泊2日	足立	2	11
2506	10	16	火	大山～広沢寺温泉	日帰り	谷	3	8
2507	10	21	日	霧ヶ峰・南の耳～北の耳～八島ヶ原湿原	日帰り	竹尾	2	8
2508	11	5～7	月～水	三宅島一周ウォーキング	2泊3日	小澤	3	6
2509	11	11	日	曾我山	日帰り	井上(忠)	3	13
2510	11	17	土	笹子雁ヶ腹摺山	日帰り	鈴木	3	7
2511	11	18	日	城峯公園～神山～神流湖	日帰り	竹尾	3	10
2512	11	21	水	茅ヶ崎ウォーキング	日帰り	谷	2	2
2513	11	27	火	滝めぐり遊歩道～粟又の滝～養老溪谷	日帰り	竹尾	2	5
2514	12	1	土	本部支所合同山行 矢筈山	日帰り	鈴木	4	6
2515	12	2	日	南山～権現平～宮ヶ瀬湖畔園地(イルミネーション)	日帰り	竹尾	2	9
2516	12	18	火	忘年山行(保土ヶ谷ウォーキング)	日帰り	谷	2	22
2517	1	5	土	高柄山	日帰り	鈴木	3	12
2518	1	6	日	青梅七福神巡り	日帰り	竹尾	2	13
2519	1	19	土	大平山～馬場の原	日帰り	竹尾	3	8
2520	1	21	月	三浦アルプス	日帰り	谷	3	10
2523	2	3	日	おでん山行(田浦梅林、青少年自然の家)	日帰り	足立	1	21
2524	2	10	日	三ノ塔	日帰り	小澤	3	7
2525	2	16	土	高塚山～千倉お花畑	日帰り	竹尾	2	10
2527	3	1	金	国営武蔵丘陵森林公園・梅林～野草コース	日帰り	竹尾	2	8
2528	3	9	土	四阿屋山～節分草自生地	日帰り	竹尾	3	8
2529	3	9	土	石老山・石砂山	日帰り	井上(忠)	3	12
2531	3	22	金	景信山	日帰り	鈴木	3	13
2533	3	31	日	愛宕山～皇鈴山～登谷山～花桃の郷	日帰り	竹尾	2	7

48

138

416

2.9

8.7

2019年度山行実績(2019年4月～2020年3月)

回数	実施日			山行名	行程	係	コース 難度	参加 人数
	月	日	曜日					
2535	4	9	火	岩根山つつじ園～金ヶ岳～長瀬の桜並木	日帰り	竹尾	2	4
2536	4	13	土	大野山	日帰り	小澤	2	11
2537	4	14	日	本部集中山行 今熊山	日帰り	鈴木	3	6
2538	4	20	土	神ノ主山～鳴虫山	日帰り	竹尾	3	10
2532	4	21	日	笠取山	日帰り	小澤	2	8
2541	5	3	金	鶴峠～三頭山～都民の森	日帰り	竹尾	3	7
2542	5	11	土	大山三峰・鐘ヶ嶽	日帰り	井上(忠)	4	8
2543	5	12	日	矢平山	日帰り	鈴木	4	6
2544	5	25	土	天城山(万二郎岳～万三郎岳)	日帰り	竹尾	3	7
2548	6	12～14	水～金	田代山～帝釈山	2泊3日	竹尾	3	12
2551	7	6～7	土～日	志賀高原自然探勝コース・志賀山～四十八池	1泊2日	竹尾	3	7
2554	7	25～27	木～土	茶臼山～縞枯山～北横岳～蓼科山	2泊3日	竹尾	4	9
2555	8	3～5	土～月	大朝日岳	2泊3日	小澤	4	3
2556	8	5～6	月～火	白馬八方池・梅池自然園	1泊2日	竹尾	2	7
2559	9	6	金	陣馬山	日帰り	竹尾	3	8
2560	9	16～21	月～土	黒岳・北海岳・銀泉台・大雪高原沼巡り・旭岳展望台	5泊6日	竹尾	4	6
2564	9	27～28	金～土	街道を歩く(会津西街道その1)	1泊2日	芹沢	2	7
2570	10	27～28	日～月	街道を歩く(会津西街道その2)	1泊2日	芹沢	2	5
2572	10	30	水	鐘ヶ岳～見城山	日帰り	谷	3	4
2573	11	2	土	本部支部合同山行 秋山・二十六夜山	日帰り	鈴木	3	8
2576	11	18	月	国営昭和記念公園	日帰り	竹尾	2	10
2578	11	22～23	金～土	街道を歩く(会津西街道その3)	1泊2日	芹沢	2	5
2579	12	1	日	桜山公園～桜山～八塩温泉	日帰り	竹尾	2	7
2582	12	8	日	御春山～綱之上御前山	日帰り	鈴木	3	5
2583	12	14～15	土～日	忘年山行(寄地区周辺の山歩き)	1泊2日	渡部・齋藤	3	25
2586	1	5	日	倉岳山	日帰り	鈴木	3	16

2588	1	19	日	高草山	日帰り	竹尾	2	7
2591	1	31	金	丹沢二股～後沢乗越～栗ノ木洞～寄	日帰り	桜井	3	7
2592	2	1	土	子の権現・竹寺	日帰り	鈴木	2	5
2593	2	2	日	おでん山行(逗子大崎公園)	日帰り	足立	1	22
2594	2	5	水	支部健康登山No1 金時山	日帰り	小澤	2	9
2596	2	14	水	三浦アルプス	日帰り	谷	3	5
2598	3	1	日	本部支部合同山行 頭高山	日帰り	鈴木	2	8
2601	3	6	金	支部健康登山No2 岩殿山	日帰り	小澤	4	6
2603	3	21	土	八王子城山	日帰り	鈴木	2	10
2604	3	27～28	金～土	街道を歩く(会津西街道その4)	1泊2日	芹沢	2	4

36

97 294

2.7 8.2

2020年度山行実績(2020年4月～2021年3月)

回数	実施日			山行名	行程	係	コース 難度	参加 人数
	月	日	曜日					
希望山行	4	4	土	高麗山～湘南平	日帰り	板垣	2	5
2621	6	3	金	支部健康登山No3 日の出山～御岳山	日帰り	小澤	2	6
2606	6	21	日	山梨百名山その1 大蔵高丸～ハマイバ丸	日帰り	久保	3	7
2621	8	5	水	支部健康登山No4 大持山・小持山	日帰り	小澤	2	6
2632	8	29	土	山梨百名山その2 国師ヶ岳・北奥千丈岳	日帰り	久保	2	9
2634	9	5～7	土～月	会津駒ヶ岳・三ツ岩岳	2泊3日	板垣	5	7
2628	9	15～17	火～木	北アルプス五色ヶ原～黒部ダム	2泊3日	小澤	4	5
2611	9	24～26	木～土	街道を歩く(会津西街道その5)	2泊3日	芹沢	3	4
2635	9	26	土	山梨百名山その3 黒金山	日帰り	久保	5	8
2637	10	1～2	木～金	栗駒山	1泊2日	小澤	2	8
2638	10	7	水	支部健康登山No5 秩父御岳山	日帰り	小澤	2	2
2642	10	18	日	山梨百名山その4 茅ヶ岳・金ヶ岳	日帰り	久保	4	8
2641	10	21	水	高水三山	日帰り	高橋(健)	3	9
2643	10	25	日	北高尾縦走	日帰り	鈴木	4	12
2644	10	31	土	牛奥ノ雁ヶ腹摺山～黒岳	日帰り	若生	4	14
2645	11	4	水	支部健康登山No6 鍋割山	日帰り	板垣	4	9
2620	11	6～7	金～土	街道を歩く(会津西街道その6・最終回)	1泊2日	芹沢	2	7
2648	11	17	火	権現山～雨降山	日帰り	谷	3	3
2649	11	21	土	山梨百名山その5 黒川山・鶏冠山	日帰り	久保	4	10
2650	12	2	水	支部健康登山No7 笹尾根・檜寄山	日帰り	小澤	4	5
2651	12	5	土	聖武連山	日帰り	鈴木	4	6
2652	12	8	火	辺室山～物見峠	日帰り	谷	3	3
2653	12	12～13	土～日	忘年山行(河口湖周辺の山歩き)	1泊2日	板垣・久保	3	15
2654	12	19	土	山梨百名山その6 日向山	日帰り	久保	3	7
2665	1	6	水	支部健康登山No8 明神ヶ岳	日帰り	板垣	3	6
2658	3	27	土	山梨百名山 棚横手山・甲州高尾山	日帰り	久保	4	11

26

84 192

3.2 7.4

※以上の一覧表はホームページの「山行記録」欄、「支部ニュース」欄をもとに作成しています。

※同一企画で複数の山に登る場合の難易度は一番大きい数にしました。

※本部支部合同山行の参加者数は支部会員の参加者数としました。

※忘年山行の参加者数は出席者数であり、山行の延べ参加者数ではありません。



《資料編 No.1》

SHC横浜支部 65 年の歩み(小史)

年	月日	トピックス	氏名(敬称略)
1957 年(昭 32)	2/7	横浜支部発会(南区の町内会館)、支部構成数は 25 名	
々	3/23～24	第 1 回支部山行「丹沢主脈縦走」	
1958 年(昭 33)	4/1	「支部会則」制定	代表 中山 博
1959 年(昭 34)	11/15	支部ニュース第 1 号発行	編集 影山元芳
1960 年(昭 35)	4 月		代表 中山 博
1961 年(昭 36)	4 月		代表 八田幹雄
1963 年(昭 38)	4 月		代表 小川竜利
1964 年(昭 39)	4 月		代表 小川竜利
1966 年(昭 41)	4 月		代表 影山元芳
々	12 月	「羊歯」第 17 号発行(B5 版 56 頁)	
々	12/3～4	支部設立 10 周年記念山行、丹沢・塔ノ岳にて実施	
1967 年(昭 42)	4 月		代表 影山元芳
々	9/2～3	本部集中山行 寄沢合同キャンプ 横浜支部が幹事支部	
々	11 月	支部ニュース第 100 号発行	
々	12 月	「羊歯」第 18 号発行(B5 版 41 頁)	
1968 年(昭 43)	4 月		代表 影山元芳
々	7 月	「羊歯」第 19 号発行(B5 版 61 頁)	
1969 年(昭 44)	3 月	「羊歯」第 20 号発行(B5 版 72 頁)	
々	4 月		代表 影山元芳
1970 年(昭 45)	4 月		代表 鈴木国之
々	7 月	「羊歯」第 21 号発行(B5 版 48 頁)	
1971 年(昭 46)	3 月	「羊歯」第 22 号発行(B5 版 90 頁)	
々	4 月		代表 竹田 明
々	8/21	支部 15 周年記念キャンプ「四十八瀬川」	
1972 年(昭 47)	4 月		代表 山田 進
1973 年(昭 48)	4 月		代表 山田 進
1974 年(昭 49)	4 月		代表 山田 進
1975 年(昭 50)	3 月	「羊歯」第 25 号発行(B5 版 44 頁)	
々	4 月		代表 鈴木国之
1976 年(昭 51)	4 月		代表 碓 清人
1977 年(昭 52)	4 月		代表 碓 清人
々	5 月	翌年 4 月まで、支部ニュースをはがき版で発行	
1978 年(昭 53)	4 月		支部長 北村 裏
1979 年(昭 54)	4 月		支部長 北村 裏
1980 年(昭 55)	4 月		支部長 北村 裏
1981 年(昭 56)	4 月	「羊歯」第 26 号発行(B5 版 54 頁)	
1982 年(昭 57)	4 月		支部長 北村 裏
1983 年(昭 58)	4 月	「羊歯」第 27 号発行(B5 版 38 頁)	
1984 年(昭 59)	4 月		支部長 北村 裏
1985 年(昭 60)	4 月		支部長 北村 裏
1986 年(昭 61)	4 月		支部長 北村 裏
1987 年(昭 62)	4 月		支部長 北村 裏
1988 年(昭 63)	12 月	「羊歯」第 28 号発行(B5 版 48 頁)	
1989 年(平 01)	4 月		支部長 北村 裏
1990 年(平 02)	4 月		支部長 熊谷松治
1991 年(平 03)	11 月	「支部ニュース」第 400 号達成	
1992 年(平 04)	3 月	支部山行第 700 回「大楠山」 参加 21 名	担当係 芹沢隆久
1993 年(平 04)	4 月		支部長 熊谷松治
々	3 月	「羊歯」第 29 号発行(B5 版 76 頁)	
1994 年(平 05)	4 月		支部長 熊谷松治
1995 年(平 05)	4 月		支部長 石原弘之
1996 年(平 08)	4 月		支部長 石原弘之
々	10 月	「羊歯」第 30 号発行(B5 版 52 頁)	
々	11/16～17	支部創立 40 周年記念山行「塔ノ岳」 参加 35 名	担当係 御園培博

1996 年(平 08)	4 月		支部長 石原弘之
1997 年(平 09)	4 月		支部長 石原弘之
1998 年(平 10)	4 月		支部長 石原弘之
々	5/10	支部山行第 1000 回「大山」 参加 35 名	担当係 石原弘之
1999 年(平 11)	4 月		支部長 小池廣治
2000 年(平 12)	3 月	支部創立 45 周年「羊齒」第 31 号発行(B5 版 64 頁)	担当係 永井和夫、他
2000 年(平 12)	4 月		支部長 小池廣治
2001 年(平 13)	4 月		支部長 小池廣治
2001 年(平 13)	5/5	支部山行 1200 回「相模川を歩く」 参加 11 名	担当係 祖父川精治
2002 年(平 14)	4 月		支部長 佐野純一郎
2003 年(平 15)	4 月		支部長 澤野正明
2004 年(平 16)	4 月		支部長 澤野正明
々	11/7	支部山行第 1400 回「三国峠～籠坂峠」 参加 6 名	担当係 祖父川精治
2005 年(平 17)	4 月		支部長 澤野正明
2006 年(平 18)	4 月		支部長 澤野正明
々	8/5～8	支部山行第 1500 回「五色が原～薬師岳」参加 42 名	担当係 金本 勲
々	10/28～29	支部創立 50 周年記念山行「金時山」 参加 42 名	担当係 井上忠秋
々	12/13	「羊齒」第 32 号(50 周年記念号)発行(B5 版 148 頁)	担当係 齋藤郁夫、他
2007 年(平 19)	4 月		支部長 澤野正明
々	6/25	横浜支部ホームページ開設(支部として 6 番目)	担当係 和智邦久
2008 年(平 20)	4 月		支部長 芹沢隆久
2009 年(平 21)	4 月		支部長 芹沢隆久
々	5/23	支部山行 1700 回「街道を歩く(中山道 8)」参加 11 名	担当係 芹沢隆久
々	7 月	支部ニュース 600 号発行	担当係 岡野 達
2010 年(平 22)	4 月		支部長 芹沢隆久
々	5/23	第 61 回全国植樹祭に参加 秦野会場 参加 16 名	担当係 金本 勲
々	10/13	支部入会の年齢制限(70 歳未満)を実施	支部長 芹沢隆久
2011 年(平 23)	3/11	東日本大震災…多くの山行中止、義捐金寄付	担当係 和智邦久
々	3/31	全員が会費など合計 3300 円を支部口座に振込実施	担当係 金本 勲
々	4 月	救護者費用・個人賠償責任付保険加入を義務化	担当係 池田邦雄、他
々	5/6	ホームページ閲覧者延 20,000 人突破	支部長 竹尾亮三
々	10/29～31	創立 55 周年記念集中登山「明神ヶ岳」 参加 47 名	担当係 熊谷松治
々	12/13	「羊齒」第 33 号(55 周年記念号)発行(B5 版 100 頁)	
2012 年(平 24)	4 月		担当係 小澤勝太郎
々	9/22	支部山行 2000 回「源氏山～銭洗弁天」 参加 4 名	支部長 竹尾亮三
々	12/12	覚書 1「支部長、副支部長、担当係の委員選出方法」承認	担当係 熊谷松治
2013 年(平 23)	3/16	支部山行「ミツバ岳～権現山」にて遭難事故発生	
々	4 月		担当係 小澤勝太郎
々	5/8	会員在籍 20 年表彰実施 23 名	支部長 竹尾亮三
々	6 月		
2014 年(平 26)	4 月		支部長 井上忠秋
2015 年(平 27)	4 月		支部長 井上忠秋
2016 年(平 28)	1/16	支部山行 2300 回「人骨山～ふるさと峠」 参加 12 名	支部長 井上忠秋
々	4 月		担当係 竹尾亮三
々	10/22～23	支部創立 60 周年記念山行を金時山にて実施、25 名参加	支部長 鈴木国之
々	12 月	「羊齒」第 34 号(60 周年記念号)発行、A4 版 106 頁	担当係 鈴木国之
々	12/10	支部創立 60 周年記念植樹(大野山、大島桜 2 本)	担当係 小嶋幹雄、他
々	12/14～18	支部創立 60 周年記念展示会(於:かなっくホール)	担当係 小澤勝太郎
2017 年(平 29)	4 月		担当係 齋藤郁夫、他
々	4 月	ホームページ・リメイク開設	支部長 鈴木国之
々	12/13	支部ニュース 700 号発行	担当係 里見克嗣
々	12 月	雑誌「新ハイキング」廃刊、翌 1 月から会報に変更	担当係 丸 明美
2018 年(平 30)	1/10	SHC 組織変更に伴う支部会則の修正を承認	
々	4 月		支部長 鈴木国之
々	9/17	支部山行 2500 回「大洞山～鉄砲木の頭」参加 11 名	担当係 竹尾亮三
々	12/24	「レンタカー及びマイカーを利用した山行に関する規約」承認	
2019 年(令 01)	4 月		支部長 鈴木国之
々	12/10	支部入会条件を「概ね 70 歳未満」に修正	
2020 年(令 02)	3 月	Covid-19 感染防止のため、3 月・4 月・5 月の例会中止	
々	4 月		支部長 小澤勝太郎

2021 年(令 03)	4 月	例会欠席者への支部ニュース配布中止、不要者 21 名	担当係 西川重昭
	5 月	支部自前プリンターを購入、支部ニュース印刷を開始	担当係 久保正文
	5 月	Covid-19 対策のため Web ミーティングで支部委員会を実施	
	7 月	山北町に自然災害見舞金の寄付を実施、お礼状受領	
	1、2、3 月	Covid-19 感染防止のため、1 月・2 月・3 月の例会中止	
	4 月		支部長 小澤勝太郎
	4 月	例会会場を県民センターからかながわ労働プラザに変更	
	4 月	本部支部合同「祈念山行」大野山 支部 10 名参加	担当係 齋藤郁夫
	5、6、7 月	Covid-19 感染防止のため、5・6・7 月例会を再び中止	

(2021 年 7 月まで)

《資料編 No.2》

直近 5 年間の年度別入会者・退会者の状況

	入会者数	退会者数	差引数	期首会員数
2016 年度	5	6	-1	72
2017 年度	5	6	-1	71
2018 年度	3	11	-8	63
2019 年度	2	5	-3	60
2020 年度	2	9	-7	53

(注)上表は支部ニュースのバックナンバーから作成しています。期首会員数は「4 月度例会出席者表」の会員数を基本とし、入会者数は支部ニュース上で新入会員紹介された数となっています。そのため、年度切り替え時に入退会された方は翌年度に繰り越されたりするなどの齟齬が発生している可能性があります。以上から正確な実数とはなっていませんので、趨勢値として参考にいただければ幸いです。

《資料編 No.3》

会員の男女別年齢構成と平均年齢

(2021 年 5 月 31 日現在)

	男性	女性	合計	構成比
40～59 歳	0 人	3 人	3 人	5.8%
60～64 歳	0 人	4 人	4 人	7.7%
65～69 歳	3 人	4 人	7 人	13.5%
70～74 歳	7 人	11 人	18 人	34.6%
75～79 歳	10 人	4 人	14 人	26.9%
80～84 歳	3 人	1 人	4 人	7.7%
85 歳～	2 人	0 人	2 人	3.8%
計	25 人	27 人	52 人	—

	平均年齢
2018 年度期首	70.4 歳
2019 年度期首	71.4 歳
2020 年度期首	71.6 歳
2021 年度期首	72.6 歳

※2021 年度の男女別平均年齢

男性	75.0 歳
女性	70.4 歳

《資料編 No.4》

横浜支部会員名簿(入会順)

2021 年 5 月 1 日現在

No.	会員 種別	氏 名	住所(市区)	No.	会員 種別	氏 名	住所(市区)
1	本部	祖父川精治	横浜市旭区	27	賛助	久保 正文	横浜市鶴見区
2	本部	芹沢 隆久	横須賀市平作町	28	賛助	水鳥 妙子	藤沢市鵜沼神明
3	賛助	山田 和子	横須賀市グリーンハイツ	29	賛助	小泉 葉子	川崎市川崎区
4	賛助	岩方美津子	横浜市神奈川区	30	賛助	桜井 素子	横浜市神奈川区
5	賛助	井上 忠秋	横浜市戸塚区	31	賛助	野崎 佳宏	茅ヶ崎市高田
6	賛助	服部八重子	川崎市幸区	32	賛助	西川 重昭	横浜市西区
7	本部	川野奈津子	横須賀市公郷町	33	本部	梶本 弘子	横浜市瀬谷区
8	賛助	足立 忠彦	横須賀市長沢	34	賛助	菊川 光由	横浜市西区
9	賛助	齋藤 郁夫	横浜市戸塚区	35	賛助	鈴木由美子	東京都北区
10	本部	小澤勝太郎	逗子市池子	36	賛助	豊 澤 績	横浜市戸塚区
11	賛助	青柳 征勝	横浜市港南区	37	本部	小黑 陽子	横浜市磯子区
12	本部	竹尾 亮三	横浜市神奈川区	38	賛助	宮川喜美江	横浜市磯子区
13	本部	谷 真理子	藤沢市鵜沼神明	39	本部	棟方千恵子	横浜市戸塚区
14	賛助	和智 邦久	横浜市南区	40	賛助	木村 久実	横浜市磯子区
15	賛助	渡部 道明	横浜市港南区	41	賛助	若生 典男	横浜市港南区
16	本部	大川れい子	横須賀市平作	42	賛助	劉 ュ 玉オク	横浜市中区
17	賛助	戸野部武彦	横須賀市長沢	43	本部	高橋 健二	横浜市磯子区
18	本部	湯浅 克枝	横浜市鶴見区	44	賛助	横山レイ子	東京都大田区
19	本部	板垣恵美子	小田原市中村原	45	賛助	溝尾 文子	横浜市戸塚区
20	賛助	佐藤 哲夫	逗子市新宿	46	賛助	中 村 淳	横浜市神奈川区
21	賛助	池田 邦雄	横浜市緑区	47	賛助	高橋有紀子	横浜市金沢区
22	賛助	古屋喜代子	横浜市南区	48	賛助	有本ひとみ	横浜市青葉区
23	賛助	斉 藤 博	横浜市瀬谷区	49	賛助	工 藤 圭	横浜市保土ヶ谷区
24	賛助	石 井 誠	横浜市神奈川区	50	本部	菅野 紀子	茅ヶ崎市矢畑
25	賛助	小嶋 幹雄	横浜市泉区	51	本部	高木千代美	中郡大磯町
26	本部	鈴木 国之	横浜市戸塚区	52	賛助	城戸 靖子	横浜市鶴見区

《資料編 No.5》

直近5年間の年度別支部委員名簿

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度※
支部長	鈴木 国之	鈴木 国之	鈴木 国之	鈴木 国之	小澤勝太郎
副支部長				小嶋 幹雄	小嶋 幹雄
				谷 真理子	
会報係	板垣恵美子	丸 明 美	小嶋 幹雄	小嶋 幹雄	小嶋 幹雄
	丸 明 美	鈴木 国之			
山行委員	鈴木国之(代理)	豊澤 績	豊澤 績	豊澤 績	豊澤 績
	小泉 葉子	小泉 葉子	桜井 素子	桜井 素子	板垣恵美子
会場係	古屋喜代子	古屋喜代子	古屋喜代子	古屋喜代子	小黒 陽子
印刷係	西川 重昭	西川 重昭	西川 重昭	西川 重昭	西川 重昭
	水鳥 妙子	水鳥 妙子	水鳥 妙子	水鳥 妙子	高橋 健二
発送係	佐藤 哲夫	大溝 陽子	鈴木 国之	鈴木 国之	久保 正文
	大溝 陽子	鈴木 国之			劉ユ 玉オク
	服部八重子	服部八重子			
会計係	石 井 誠	石 井 誠	石 井 誠	若生 典男	若生 典男
保険・名簿係	戸野部武彦	木村 久美	木村 久美	菊川 光由	菊川 光由
書記係	福田 徳郎	齋藤 郁夫	齋藤 郁夫	若生 典男	久保 正文
H P 係	和智 邦久	里見 克嗣	里見 克嗣		
Web サイト係				里見 克嗣	鈴木 国之
本部報告係	大川れい子	大川れい子	宮川喜美江	宮川喜美江	梶本 弘子
会計監査	斉 藤 博	斉 藤 博	斉 藤 博	斉 藤 博	佐藤 哲夫
60 周年事業	齋藤 郁夫				

※ 2020 年度期中において、従来使用していた県民センターの印刷機が使用できなくなった為、支部ニュースの印刷を自前プリンターで印刷することになり、それに伴って下記のような支部委員の期中役割変更がありました。

印刷・発送係を久保正文委員が兼務、書記係を西川重昭委員が担当

(補足) 2021年度の支部委員体制

支部長	小澤 勝太郎 (再任)	山行委員	豊澤 績 (再任)
副支部長	板垣 恵美子 (新任)	山行委員	板垣 恵美子 (再任)
副支部長	久保 正文 (新任)	会計係	若生 典男 (再任)
会場係	小黒 陽子 (再任)	保険・名簿係	菊川 光由 (再任)
会報係	小嶋 幹雄 (再任)	書記係	西川 重昭 (再任)
印刷係	高橋 健二 (新任)	本部連絡係	梶本 弘子 (再任)
発送係	高橋 健二 (新任)	Webサイト係	鈴木 国之 (再任)
発送係	劉ユ 玉オク (再任)	会計監査	佐藤 哲夫 (再任)

支部創立 65 周年記念行事に関して

支部創立 65 周年記念行事実行委員長 小澤 勝太郎

2020 年 5 月 25 日 支部委員会で創立 65 周年記念行事について支部員の中から候補者を推薦して、実行委員長を決定する予定でした。審議の結果は支部長が実行委員長を兼ねることで運営がし易いとの意見から、支部長が実行委員長を兼任することになり、また実行委員は実行委員長がアイテム毎に指名することに決定しました。

2020 年 11 月 24 日の委員会で 65 周年記念行事として委員から出された案は下記の内容です。

① 記念誌「羊歯第 35 号」を発行します。

発刊は 2021 年 12 月を目標とします。

編集委員会の体制は下記 3 名で担当します。

小嶋 幹雄 編集長 前号に続いて再度編集長を担当して頂きました。

小泉 葉子 会計係、投稿募集・編集校正

高橋 有紀子 書記係、投稿募集・編集校正

② 集中登山兼忘年会の実施

場所は大山に体力に応じて 3 コース（1. ケーブル利用、2. ヤビツ峠、3. 養毛）から登ります。山頂にて記念式典、救急法訓練（三角布）の講習を実施して、日向薬師に下山して宿泊します。忘年会を兼ねて係は久保副支部長がメインで担当します。なお、実施詳細については支部ニュースで随時ご案内させていただきます。

③ 「神奈川の山 60 座」の未登峰座を登り、60 座を完登します。

50 周年記念事業から開始した「神奈川の山 60（50）座」で前担当の井上様が精力的な活動をされた結果、2020 年 11 月現在で残っている未登峰座は 4 座でした。未登峰座とは、過去の支部山行の実施記録が残っていない山です。未登峰座は白銀山、焼山、袖平山、丹沢山です。これら 4 座を 2021 年度の支部山行計画に組み込んで完登を目指します。

④ 大野山記念植樹の追加実施（見送り）

現在創立 60 周年記念で大野山に植樹した大島桜 2 本に更に追加する案です。2 本では桜として寂しいので本数を追加したらどうかとの案。審議の結果 2 本を大事に見守って、もし枯れた場合には植替えを実施しようとのことで見送りです。

⑤ 過去 5 年間の支部山行写真のアルバムの作成（見送り）

過去の支部山行写真を DVD に焼き付けアルバムを作成する案です。審議、検討の結果は、山行回数が 5 年間で約 400 回と多く、また HP に写真が掲載されていることから見送りです。

各行事の参加者、ご協力者に誌面を借りてお礼を申し上げます。

以上

編集後記

5年毎に発刊される『羊歯』は、登山道の路傍に重ねられたケルンのようなものではないかと思います。横浜支部にとっては、はるかな道筋の軌跡でもあり、道標でもありました。その伝統を引き継ぐ『羊歯』第35号も、支部創設65周年にふさわしく、ことのほか立派なケルンを積み上げることが出来たのではと思っています。何よりも会員52名のうち39名の方々にご寄稿いただくという快挙を実現できました。内容的にも、ベテランの方々のつぶやきがどっしりと響き、入会歴の比較的新しい方々の軽快なささやきがそれに重なり、絶妙なハーモニーを奏でています。そして多種多様なタイトルが示すように、今現在の横浜支部のありのままの姿をくっきりと刻み込めたのではないかとともに思っています。2度目の編集長でしたが、今回の編集業務は楽しかったです。ご寄稿いただいた皆様、編集にあたって様々にご尽力いただいた皆様、感謝、感謝、感謝です。ありがとうございました。

(小嶋 幹雄)

『羊歯』の編集委員をやらないかと声をかけられて、返事を躊躇しているうちに、断わることができず、引き受けざるを得なくなっていました。編集経験はないし、原稿集めがいかに大変か想像できたからです。

しかし、編集委員会に臨んでみると、編集長が実にてきぱきと実務をさばいてくれ、適宜やるべきことを提示してくれるので、不安が一挙にかき消されました。そして、一番の課題は原稿集めですが、このコロナ禍では、例会や山行の中止が続き、直接声かけして投稿を依頼することが難しい状況でした。そのため、編集長と編集委員の3人で分担して、支部会員に手紙やメール、声かけによる投稿依頼をしました。嬉しいことに、6月頃から、会員の皆様から続々と原稿が寄せられ、7月末には、会員の3/4の方が寄稿してくださいました。寄稿文は、その人らしさが溢れ、生き生きとした表情までが思い浮かばれ、『羊歯』は味わい深い文集になったと思います。

(小泉 葉子)

高校時代の仲間15人で山のLINEを作り、互いに企画して登山していましたが、さらに登山回数を増やそうと新ハイ横浜支部に夫と共に入会させて頂きました。登山だけでなく様々な人生経験を重ねている幅広い年代層の方たちのお話は、いつもとても興味深いものです。今回たまたま「羊歯」の編集委員を拝命し、原稿の確認作業をさせていただき、その思いを深くしました。新ハイ横浜支部65年の歴史の中で5年ごとに紙ベースの文集を作成するのは大変なことですが、IT化やデジタル化が進んでいる今だからこそ、手に取りいつでも読むことができるこの紙の文集の意味はとても大きいと思います。編集長を担われた小嶋さんからは、文集完成に至るまでのきめ細かな段取りを教えていただきました。また、先輩の小泉さんと共に、原稿依頼や校正作業ができたことはいい思い出となりました。お届けできたこの「羊歯」を、これからは新たな会員の方々にお渡しできることを願っています。

(高橋 有紀子)

『羊 歯』第 35 号

支部結成 65 周年記念

[発行日] 2021 年(令和 3 年) 12 月

[発行者] 新ハイキングクラブ横浜支部

支部長 小澤 勝太郎

[発行所] 〒249-0003

神奈川県逗子市池子 3-4-15

☎ 046(873)7952

注：本誌掲載のすべての記事・画像等の無断転載を禁じます。



「鷹見岩から富士山を望む」

支部山行第 2687 回 瑞牆山・小川山 2021.7.17～7.18 にて

